

出石藩

御用部屋日記

安政

一年

四月

出石町公民館蔵

安政四年丁丑年

御用部屋
日記

仙石織

正月

御用部屋

九日

仙居人
高竹
西平
谷
移
中
在
表
全
可
金
永

火清

唯喉痛

能見
竹村

弓割
山

仙居人
高竹
西平
谷
移
中
在
表
全
可
金
永

元日

整市海後麻下

有書道中人
少可自來
少可自來
少可自來

一 采时插翠出仕三平

福荷

法秋

秋景

法秋

有夫

下山

有子秋

即公前秋部

法秋

国木極人

一 旧作天部为上
年庚少段为上

書道中人

整市海後

法秋

有夫

有子秋

一 上在屋方上年庚少段为上
積云院在志

一 法秋少書院武國山月景为上
因下少段上少書院武國山月景为上

一 少段上少書院武國山月景为上
少段上少書院武國山月景为上

年頃少後... 清徳... 所存... 上... 少...

一 大書院... 通... 少...

年... 少...

一 大書院... 少...

一 院... 少... 少... 少...

少... 少... 少...

大書院

一 崇周少子家平... 崇周少子家平... 崇周少子家平... 崇周少子家平... 崇周少子家平...

一 休日

二 日

一 休

一 休

一 同部

一 休

一 休

一 休

一 休

一 休

一 休

其... 海... 呼... 其... 同...

道人

心... 山... 行...

友...

月...

身... 山... 心... 其...

林...

古...

林...

石... 林... 其... 其...

右五所同

自

二日

休白

四白

右相勤律儀

恒本流相
 自志
 大真流相
 宗法

流本
 恒本

一 恒本流相
 一 恒本流相

一 今月
 一 恒本流相

庚午年
 庚午年
 庚午年

仙石
 亮

庚午年

正月初三日

一、用 活動 解 香 戶 道

卯年 亥 集 三

二、年

成 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇

卯 年 正 月 初 三 日 香 戶 道

卯 年 正 月 初 三 日 香 戶 道

七 年 正 月

卯 年 正 月 初 三 日

卯 年 正 月 初 三 日

卯 年 正 月

香 戶 道

香 戶 道

香 戶 道

香 戶 道

香 戶 道

香 戶 道

二六四

此年一月... 此年一月... 此年一月...

一 此年元月... 此年元月... 此年元月...

此年元月... 此年元月... 此年元月...

此年元月... 此年元月... 此年元月...

此年元月... 此年元月... 此年元月...

此年元月... 此年元月... 此年元月...

此年元月... 此年元月... 此年元月...

此年元月... 此年元月... 此年元月...

一 古五部少分今来者大書院也其方孔院等
少此等字者其來年

少見
少見
少見

宋
宋

一 体目

古白晴

少見
少見

同部

一
休
日

八
日

以道彼濱切
如帝

仙名織人
荒木栢母

又教在馬宿長
不才公家能是
亦勉以月及行

泣思好之區

清人畫

石瑛制

清人畫

清人畫

九日

一休日

一
休日

十日

一
休日

十日

一
江表四流其出如海在在
所通焉

其間亦有山如海濱之
東月平中其山亦如海濱之

進路

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 大時は結構な時三夏梅さかしは梅あふさ年
は梅梅あふ二分

一 今付の法は... 蔵書... 法也

一 城在... 法海... 法也

一 河内... 法... 法也

一 本... 法... 法也

一 川... 法... 法也

一 田... 法... 法也

一 毎... 法... 法也

一 一... 法... 法也

一 田... 法... 法也

一 一... 法... 法也

一 有... 法... 法也

一 本... 法... 法也

一 河... 法... 法也

一 一... 法... 法也

一 射... 法... 法也

一 一... 法... 法也

一 法... 法... 法也

一 一... 法... 法也

一 法... 法也

一 法... 法也

一 法... 法也

一 法... 法也

一 法... 法也

一 法... 法也

一 法... 法也

河内氏也

加納氏也

田中氏也

右通一

古月以 今多也

細尾氏也
今多也

佐治氏也

西村 一宮

根原 一宮

板東 一宮

平尾吉大也

加地氏也

河内氏也

比村氏也

佐治氏也

藤原氏也

古月氏也

板東氏也

河内氏也

佐治氏也

小林氏也

古月氏也

佐治氏也

古月氏也

河内氏也

古月氏也

佐治氏也

三田孝三郎
心也徳也

高橋三郎

西川高次郎

高橋三郎

依田高次郎

高橋三郎

高橋三郎

高橋三郎

高橋三郎

高橋三郎

高橋三郎

右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本
右白紙
金少本

一 右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本

右白紙
金少本

沙河常福寺

二月十九日沙河常

大目尊

恒春極沙事今日

許春極之事移向二月十九日

二月十八日

二月十九日沙河常

恒春

恒春極沙事今日

許春極之事移向二月十九日

恒春極沙事今日

許春極

二月十九日

恒春極

許春極之事移向二月十九日

沙州志書卷之三

三十一

酒法

松平氏致齋

右 松平氏

松平氏

松平氏

松平氏

細川氏

加藤

松平氏

松平氏

松平氏

右 松平氏

松平氏

松平氏

右 松平氏

松平氏

松平氏

松平氏

松平氏

右 松平氏

松平氏

松平氏

松平氏

右 松平氏

三月廿二日

此動定何後

手抄本行第百

張十頁

潤後

小侯指之中

ワニ皮

口吹金細紙

半人合之

流石古度く製法清土靴少靴と漆梅く依止

作出より右作用公物五枚少枚少片用一四圍七出集
早あつたなりし

右の社中紙心海教終く伊藤も

まらぬ

小侯指

化夜係

昔今出程一頁の信

三月廿二日

御刀 差込玉魚

新田内中

川 川内中

本多氏

右の社中紙心海教終く伊藤も

御前

紙も

阿部氏

右の社中紙

本多氏

遠後

右の社中紙心海教終く伊藤も

御前

勅使

稻葉小伊豫守

大田重忠

右末重と名付し公家名は神農天皇 住吉神尊造らる
苑中列名傳ふりし御し

三日

中川徳元

一
つは

中川徳元

一
つは

一
つは

一
つは

一
つは

禁裏

此方は昔は御前御所なりし

右御所の御所なりし御所なりし

一
つは

一
つは

一
つは

一
つは

一
つは

右

杉本三三郎

巻代三本

後為恒本ふめ言ふ衣袋より一紙取らば此
用途お尋り付は合かし候と申候也

御座れは之は御成致り申候なりと確
しは後揚子申候は伏し御座り申候
御座り申候は御座り申候は御座り申候
御座り申候は御座り申候は御座り申候

右は右書後御座り申候は御座り申候は御座り申候

一 休日

十日 形名

一 休日

十日

一 休日

定年入会 名簿 一 枚
上 あり 一 冊
下 あり 一 冊
五 冊 あり 一 冊

名簿控 記

一休月

十日

十六日

雷

房事者三年內忌房事

一列列生

一与板头横首院林上青月法流修好

山月人

一月法月法流修好

青月法流修好

山小姓

山月人

山月人

右列本道法流修好

左通相因月勿通

二月十日

山家平定

二月二十日

町方長

二月二十日

町方判

右月長持

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

山家平定

一
二

右一切無指法以用番之向也

自以法後中產山部等の枝考は用黄

年須表指則多し何事は考りて減減

各々中述は部等の春は所考是也

一 左通切は法用は部等の中法

此部考

此部考

此部考

此部考

此部考

此部考

右法未中は法多し考りて

法中は法多し考りて

右法未中は法多し考りて

此部考

此部考

此部考

羅氏

楷義波
地
代
米

之
法
列
予

鳥

七
仙

仙

少

仙

何
何

五言古詩一首

五言古詩一首
五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

五言古詩一首

藏人

山登
山登
山登

山登

山登
山登
山登

山登
山登
山登

山登
山登
山登

山登
山登
山登

右道... 但名... 山登

山登... 山登... 山登

一 休日

十六日 暑

一 休日

十七日 暑

一 大急流橋
古急流橋
右今新橋也

津代
古急流橋

一 七峰山
古急流橋
右今新橋也

十一日 晴

休日

江戶府

仙居人

江戶府 仙居人

仙居人

仙居人

仙居人

仙居人

仙居人

遊記

一左

中

一左道清用善教地德...

秋在沂但馬國土...

去十日曉...

日古才付之大...

此後...

一前

一後

一門松傍...

一池向岸...

一山...

追啓

元日 一 昨六分津出宅 津登 城在津内帳津内帳

一 津流津流載北九分津内帳 津登 目出及津流
五五收合

一 津内後如津内例津内帳 津登 津内帳下各帳

一 昔年八六書院 昔年津内帳 津登 津内帳下各帳

一 昔年八六書院 昔年津内帳 津登 津内帳下各帳

一 昔年八六書院 昔年津内帳 津登 津内帳下各帳

一 昔年八六書院 昔年津内帳 津登 津内帳下各帳

昔年八六書院

用人

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

昔年八六書院

一 予身計國之創色也

一 予身計國之創色也

清也

一 今知計國之創色也

一 出入所合也

予身計國

一 永隆元年

清也

右彼 指身計國

永隆元年

永隆元年

右身計國之創色也

一 例年通清也

一 清後校也

出使者始

前万

平尾

右身計國之創色也

右身計國之創色也

清也

右身

出使者始

前万

右身

7

七也年之夏原再嫁及經中
經之通也 任由言法則欲念
於一也後之如也

江信紙

7

年終以終之自引力如知
左之如也

心書後

四月

涉疑或中德之界於右義言

有在終法則欲及後行

四月

年以 涉疑之言如也

如知左多

涉疑或中法則欲及後行

四月

有通則欲及後行

7

九付法德物之 永隆之 未保之 一安之 涉疑終

涉疑或中法則欲及後行

法同存能馮

一十二月

大目付

諸事一前易之計月之六後之通事也
此地長年之譜同一同難得乃之權之重

取中一後有後高之資器方之彼之採
計中自出之亦難得之白惟子之之純

取中一後有後高之資器方之彼之採
計中自出之亦難得之白惟子之之純

取中一後有後高之資器方之彼之採
計中自出之亦難得之白惟子之之純

十二月

十九日

一 休

或

一 弟

公

一 友

一 兄

一 弟

一 兄

一 弟

一 兄

一 弟

一 兄

一 弟

一 兄

一 弟

一 兄

一 弟

一 兄

一 弟

一 兄

Vertical text on the far right edge, possibly bleed-through or a marginal note.

升上長

只口能

小出平

言回

高

向

出

中

Vertical text in the middle section, possibly a signature or date.

口口口口口口口口

出

出

出

女日太...

一 何別生住

一 左...

淨...

公...

中...

淨...

細...

永...

七...

淨...

少...

淨...

寺...

寫...

去後飛海。松子中。年
清之。食法。好。乃。在。一。也。

子田名根

海好記
十夜名

西記汝寄
酒白合知

右部
海好記

左部
海好記

中
海好記

海好記

中
海好記

井上

中
海好記

中

中
海好記

井上

中
海好記

井上

中
海好記

龍溪年... 佳... 仰... 拾... 仰...

前... 仁...

少...

席... 少...

言... 言... 言... 言...

陽... 少...

少...

陽... 少...

同...

一... 人...

清...

小... 二...

小和能年より之方元依成積記
城海難通海路に及ぶ者醫押思時
二首方に為藤原公の在るに極子
等、皆遠方の任友等、別と是れを家名也

上君市為

小山敬依は元力任也
丁也

丘上高為

一守月入也

出右翁和御事也一病非有沙到地
是故乃能事也為沙之勢也今令
三月廿日進又事也一海海也

出鏡

一休日

女下白少為

一
休
白

大
二
日

女三日

一 休日

是
中元節
如初九後
每歲九月後

赤竹粥

女五日

一 休日

是
中元節
法名曰
赤竹粥

赤竹粥

是
中元節
法名曰
赤竹粥

赤竹粥

是
中元節
法名曰
赤竹粥

書目

一 例列五仕

（後編）
仕仕

仙石藏人

（右）
仕仕

若木藏人

（小）
仕仕

若木藏人

（以）
仕仕

若木藏人

（右）
仕仕

右日人

（清）
仕仕

右日人

（右）
仕仕

一 此物はら利中に入す

（目録）方丈の巻
多々（中）

山
林

一 休

古の大事に決

一
休
日

一
休
日

休
日
休
日
休
日

休
日
休
日
休
日

其九白

何則生

皇朝之後也
其九白

仙客

右之...
其九白

仙客

何則生

仙客

何則生

仙客

何則生

仙客

仙客

其九白
仙客

新刊
海
八
年
海

方以不... 前... 後... 中... 日...

一
運

左... 運... 運...

丁
日
方
日

出石藩

御用部屋日記

安政四年二月

出石町公民館蔵

安政四年己年

御用

日記

岡部安房

二月大

少年志
可敬也
以知不足而
少知也
少知也
少知也
少知也
少知也
少知也
少知也

少知也

少年志

少年志
少年志
少年志
少年志
少年志
少年志
少年志
少年志
少年志
少年志
少年志

少年志

少年志

雜日

一 湖列仕任

一 上江権子高日法流後世也又多事上
 一 務公流権子高日法

一 日守高日法
 高日法後世也

一 法流後世也
 高日法後世也

一 先中一守事一人別坊減書子高日法
 一 先中一守事一人別坊減書子高日法
 一 先中一守事一人別坊減書子高日法
 一 先中一守事一人別坊減書子高日法
 一 先中一守事一人別坊減書子高日法

一 法流後世也
 高日法後世也

一 法流後世也
 高日法後世也

右德之道

仁孝忠義禮智信

一箇人楚

今通陳公之書

病兒之有眼
法眼即有眼之道

中乃小
法右德在但
德以部

空幻宜法
中乃小
法眼即有眼之道

在何人
法眼即有眼之道
信之安

二日

休白

一 梁小姓所書

私後代之書卷

中原慈惠寺之遊記在中華石山遊之信誓

石山遊記之書卷世居後代

佛身至重之真如法體難言之任念其為名經之上

何不之出言云其法如動之知法先進之亦極也

法在石山月之修之法

佛之法也法在石山月之修之法也

此之出言云其法如動之知法先進之亦極也

法在石山月之修之法

佛之法也法在石山月之修之法也

法在石山月之修之法

其後丁巳年二月二日

其後丁巳年二月二日

石山遊記

石山遊記

石山遊記之書卷世居後代

一 回 梁 姓 行 卷

有 道 正 記 十 卷 每 卷 一 書 以 類 一 卷

有 端 亦 在 通 任 德 後 亦 有
川 上 亦 有 之

向 中 佛 卷

所 為 亦 在 通 任 德 後 亦 有
津 原 亦 有 之 記 十 卷 亦 有 亦 有
中 亦 有 亦 有 亦 有 亦 有

有 道 正 記 十 卷 每 卷 一 書 以 類 一 卷

有 道 正 記 十 卷 每 卷 一 書 以 類 一 卷

三〇

一 休日

一 出陣休

休後初半迄は休

市須台母波三回迄

々々向材迄は休

高倉平年更に言ひ出されし事

其ノ事

四月

一 例 別 居 仕

位 恭 鹿 和 津 宮 氏

經 由 官 氏

身 相 院 探 赤

天 真 院 探 赤 氏 宮 氏 探 赤 氏

仙 居 藏 人

右 左 別 居 仕 香 氏 探 赤 氏 探 赤 氏

口 家 官 氏 探 赤 氏 探 赤 氏 探 赤 氏 探 赤 氏

本 居 藏 人

一
体
目

六
月
雪

一
体
目

六
月
雪

一 休日

七日

一 休日

八月 曇

一 左通 芝草 寺 乃 月 行 止 止 止

津月 法 乃
昭 乃 月 行 止 止

向 田 乃 行 止

九日晴

一 例刑社

婦朽木也... 天田... 八... 為仁...

弓別八在也

助記...

一 左邊... 例刑社...

例刑社...

天田...

例刑社... 世...

例刑社...

例刑社...

一 者... 例刑社...

例刑社...

例刑社... 本...

例刑社...

例刑社...

一 沙利子

乃世家之子也

多行不义必自斃

西 子侯

一 里

乃世家之子也

大行

春 子侯

一 月

乃世家之子也

少

修

東 四月才旬

西

良

一 月

乃世家之子也

乃世家之子也

西 子侯

乃世家之子也

在 國人之手

秋 子侯

乃世家之子也

乃世家之子

國 子侯

十日

一 休日

一 一 表 先 自 女 二 日 出 列 便 在 其 后
殿 柱 中 其 柱 在 中 橫 據 其 間 以 足 部
行 明 系 亦 有 者 亦 列 未 出 其 在 其 后
道 向 后 道

追記

四月廿九日

一 友通の信状に、在米地へ言ひ渡りて、其の旨を告げ、七月廿日

一 友通の信状に、先達の旨を再承

一 友通の信状に、先達の旨を再承

一 友通の信状に、先達の旨を再承

一 友通の信状に、先達の旨を再承

一 友通の信状に、先達の旨を再承

一 友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

一 友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

一 友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

友通の信状に、先達の旨を再承

十九
九月十日借抄る秋月休後より後より振舟出都に在

即也

一 貞菴院振

一 行慈寺承慶寺

行次

塔新九郎

右介知お初く

一 田中百太郎は振舟今言付のり後行海と

振舟は心も 作舟台は田中

一 大般若寺後舟舟永隆寺言付後舟上例し通言作

お後舟を後

一 在通法目付初之也

兼于一統取初の通し振舟言後、口は太信言

公の所南に四流於て其に 伝舟通し、之面舟次言

右に通田胤於て右表に 作舟舟於て言後目振

おの舟舟振舟家半は言付、之舟通し、之

三月十日

塔新九郎

山目付中

一 在通法家半は言初之也

文恭院像檢七回 行念未步皆不...

欣東殿山 行法事有之依之在也

行成海之大之文明之入命在之...

...

正月...

...

...

...

...

一 在... 行法事...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

加細...

...

...

...

...

...

一 九時 河津橋より松前伊豆の橋より松舟はしりし物も松舟の付
河津の松舟

一 八時 舟倉産線

河津の舟倉産線

舟倉産線

河津の舟倉産線

一 九時 河津橋より松舟の付

河津の舟倉産線

一 九時 河津橋より松舟の付

河津の舟倉産線

一 九時 河津橋より松舟の付

河津の舟倉産線

河津の舟倉産線

河津の舟倉産線

河津の舟倉産線

河津の舟倉産線

河津の舟倉産線

江州府書

正月二日

長崎奉行 川村對馬守

川村對馬守

川村對馬守

長崎奉行 川村對馬守

長崎奉行

川村對馬守

長崎奉行 川村對馬守

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付 長崎奉行 川村對馬守

一
休
日

十
日

一
休
日

十
二
日

初
十
日
休
城
松
石
日

染
不
西
山
平
街

一
休
日

十
三
日
言
表

五日 官署

一日

母病勢不相持以有
青病 法做時時
汗流皆汗者而土難之官
時時收方乃物動死

河合會公署

一日 同村

明後去六日伊人
一

右月人

十日

一日 例別出仕

十日 積和洗和 當日以線

用也

流本和也

一日 同

形系

一日 同

法

人

河合會公署

右明王日江長公之詩一り、流傳久し
く、其書、

張儀珍本、大に研考、以て、

天合、約、大森村、宅、宗、文、

五、條、並、得、分、形、名、

國、世、也、

一、乃、通、道、國、

流、引、之、風、物、押、を、お、動、指、而、

引、去、指、而、い、し、戸、動、し、

程、難、也、故、有、之、動、行、

美、文、不、在、

右、通、道、國、

一、乃、

美、文、不、在、

一、乃、

一、乃、

一、乃、

一、乃、

一、乃、

一、乃、

但一統有書也、言、人、也、

美年公序年

六十年

公序公序年

六十年

美年公序年

六十年

印年公序年

六十年

成年公序年

六十年

丑年公序年

上六十年

但用人、用、人、也、言、人、也、

一、言、也、言、也、言、也、言、也、

云、言、也、言、也、言、也、言、也、

冲、念、也、言、也、言、也、言、也、

仙石鐵人

荒木和母

美年公序年

赤竹洞

因不德人

西山年

仙石鐵人、荒木和母、國、也、言、也、

一切、言、也、言、也、言、也、言、也、

言、也、言、也、言、也、言、也、

去書此世世亦難得

少者信言 思之自當辨

後列之昔乃五劫之後

去後之 止之

但此待身者 乃後世

以用者 乃世世

津用人

以即事以

以即事以

元音

一 道人生

乃通以善法 乃中後乃一善也

乃通

乃通

乃通

一 可學以道

乃通

將軍梅。乃通所難。乃入樂山乃通乃通

乃通乃通乃通乃通乃通乃通

乃通乃通乃通

乃通乃通乃通乃通乃通乃通

乃通乃通乃通乃通乃通乃通

乃通乃通乃通

乃通乃通乃通乃通乃通乃通

一 此書の旨は、日本中の不肖な輩を、
命に代りて救済せしむるに在り

（一） 聖徳太子

（二） 聖徳太子

（三） 聖徳太子

一 此書は、
不肖な輩を救済せしむるに在り

此書は、
不肖な輩を救済せしむるに在り

少僧者

少僧者

少僧者

少僧者

一 此書は、
不肖な輩を救済せしむるに在り

去年の冬に於ては、
其の如く、
其の如く、
其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

其の如く、

古之遺事一編一書之遺事之遺事

左傳

平定人

西道行身

一傳

十身

本白

山月分气少所生

大德厚

山月分气

山月分气

竹成

何人藏人

山月分气

子乃小者每

福植产门

有来其日之矣其日之子以夜之也其动也其生

一石有洞其洞之深其深之深其深之深其深之深

福植产人

十九日 此方 龍

一 濟用此玉作之奉

一 及之 道法 日者 中 假し

此 假し 成 人
及 所 運 持
子 記 少 貴 良 母

旧 統 之 作 少 多 也 少 成 子 日 積 年 一 定 運 持 之 奉
不 所 積 年 之 成 功 之 一 定 運 持 之 奉 不 所 積 年 之 成 功 之 一 定 運 持 之 奉
即 所 積 年 之 成 功 之 一 定 運 持 之 奉 不 所 積 年 之 成 功 之 一 定 運 持 之 奉

作 方 文

此 作 方 文 之 奉

此 作 方 文 之 奉

大 少 月 日 之 成 功 之 一 定 運 持 之 奉

旧 統 之 作 方 文 之 奉

上五年二月廿九日
其日自京都上野書院
行幸上野書院
行幸上野書院
行幸上野書院

上野書院

上野書院

上野書院
上野書院
上野書院
上野書院

上野書院
上野書院
上野書院
上野書院

上野書院
上野書院
上野書院
上野書院

上野書院

上野書院
上野書院
上野書院
上野書院

上野書院
上野書院
上野書院
上野書院

上野書院
上野書院

上野書院
上野書院

一 少刻金書片也

相刻金書片
少刻金書片

一 殘石玉名方

残石玉名方
砂残石玉名方

片
片

一 砂玉玉名方

砂玉玉名方
砂残石玉名方

片
片

一 白石玉名方

白石玉名方
白石玉名方

片
片

一 残石玉名方

残石玉名方

一 白石玉名方

白石玉名方

白石玉名方
白石玉名方
白石玉名方

白石玉名方

白石玉名方

本年の利益は外に百万 七千半

一 丁の成り引未結算と見ても約半

一 年終の帳を引上るに依りて約半は百万に引上る

少収分

一切未結算

三三三三

三三三三

少収分

少収分

一 簿記の未結算

三三三三

三三三三

少収分

少収分

一 金庫の未結算は約半

一 金庫の未結算は約半

乙二二

少収分
法外金

本年の利益は外に百万 七千半

少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方

少人今在後
少人今在後

少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方

少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方

一切命方

少人今在後

少人今在後

少人今在後

少人今在後

少人今在後少好命方一少好命方

少人今在後

少人今在後

少人今在後

少人今在後

少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方
少人今在後少好命方一少好命方

胡公... 法... 公... 公... 公...

公...

公... 公... 公... 公... 公...

公...

公...

江津市... 北... 他...

秋...

... 他...

白...

... 他...

...

... 他... 田...

...

...

...

...

地產在冠縣縣城內
指田小亦亦其後向
指田小亦亦其後向
指田小亦亦其後向

小亦亦其後

女
日

一
日

一
日
亦亦亦其後

一休日

廿三日

一休日

廿二日

一休日

廿四日 陰曆正月

一
寅卯辰巳午未申酉
右七節 卯申辰巳午未

廿五日
寅卯辰巳午未申酉

一
至春名 柳書 卯辰巳午未申酉
卯辰巳午未申酉

小正月

大六日
刻出位

心冲后
物相

心冲后

帝先祖

帝先祖

天南

天南

右

冲

一

中

山陰
卷之
字年
治助
破更
林
助

蘇公之
字
印
命

一
道
人
生

遊
遊
遊
遊

少
女
人

一
遊
月
遊
遊
遊

日 六 日 六 日 六
日 六 日 六 日 六
日 六 日 六 日 六
日 六 日 六 日 六
日 六 日 六 日 六

日 七 日 七 日 七
日 七 日 七 日 七
日 七 日 七 日 七
日 七 日 七 日 七
日 七 日 七 日 七

日 九 日 九 日 九
日 九 日 九 日 九
日 九 日 九 日 九
日 九 日 九 日 九
日 九 日 九 日 九

日 十 日 十 日 十
日 十 日 十 日 十
日 十 日 十 日 十
日 十 日 十 日 十
日 十 日 十 日 十

日 十一 日 十一 日 十一
日 十一 日 十一 日 十一
日 十一 日 十一 日 十一
日 十一 日 十一 日 十一
日 十一 日 十一 日 十一

一

五

三

海

一
佈
日

正
七
日

一
佈
日

正
七
日

何日

古
一
百
卷

婚次合款人系林松壽
宿執一連中林松壽人而云
子用此遺言也林松壽人而云
以此遺言也林松壽人而云

小林松壽

何日

古
一
百
卷

江月夜亮月午月出山色如畫
何日
清月夜亮月午月出山色如畫
清月夜亮月午月出山色如畫

遺稿

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之四 詩經卷一

詩集卷之二 詩經卷之二 詩經卷之三 詩經卷之四

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之五 詩經卷之五

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之六 詩經卷之六

但文恭皇帝御製詩集卷之六

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之七 詩經卷之七

御製詩文集卷之八

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之九 詩經卷之九

御製詩文集卷之十

御製詩文集

右四冊 景皇帝 御製詩文集

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之十一 詩經卷之十一

御製詩文集卷之十二

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之十三 詩經卷之十三

御製詩文集卷之十四

一 附前清德宗景皇帝 御製詩文集卷之十五 詩經卷之十五

一 予等上信女所請書目係以女家修善所請之書目爲準
而後請之其書目如下

一 普賢

一 普賢 普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

右於 普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

右普賢 普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

一 普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

普賢菩薩

右普賢

普賢菩薩

久保純吉
山本要女
高橋与三

岩田重吉

田代八重

高橋与三

山本要女

石白乃

右白乃
右白乃
右白乃

若良

津田清太郎

右白乃
右白乃
右白乃

一
津田清太郎
津田清太郎
津田清太郎

一
津田清太郎

津田清太郎

津田清太郎

津田清太郎

津田清太郎

津田清太郎

津田清太郎

津田清太郎

何日杖屨

明列正任

王先謙原

少

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

何日杖屨

新編の文藝のそと

昭和五年 四月

文藝のそとを編むに当りては、

文藝

文藝

文藝のそとを編むに当りては、
文藝のそとを編むに当りては、
文藝のそとを編むに当りては、
文藝のそとを編むに当りては、

出石藩

御用部屋日記

安政四年三月

出石町公民館蔵

安政四年

御留書

日記荒木頼母

三月小

初月

一例刻出仕

一上上極英積善院極々當月法流舞

一用人を分上

月日徳正年正月廿七日法流舞

一用津用親本上共

當月法流舞中仕

一用津用親
田用人

一今約津城毎々法別衆至

一此舟中出候池井寺並仕法言相發候

新々舟中法流舞中仕

一先舟中津津舟中舟増減書定り候

並舟中法流舞中仕

一町長乃仕

一宗門改有明前明後二日出候心宿寺

一舟中寺由

一 山後古蹟考

山後平下古蹟考

廣河城遺蹟考

古蹟

從前病刺不整

法皇維新難有看物

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

不問誰家

一 山後古蹟考

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

山脈山脈上知言

一 休

一 少

如田男未志申一五
日多小我少

之方少
所

三

一 上

一 上

一 精

此
一

同部

今世不食之... 正保... 評... 下書
松... 終... 別集
海... 心... 集...

北... 月... 何... 名... 成... 今... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

古有...

...

...

...

...

...

...

一 限拾...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

右ノ通於法對面
其ノ事分名也
其ノ月日也
其ノ度也

山名

一 仙居山

仙居山在台州府仙居县

同部山名

仙居山在台州府仙居县
仙居山在台州府仙居县
仙居山在台州府仙居县

政地山名

仙居山在台州府仙居县

仙居山

仙居山

仙居山在台州府仙居县
仙居山在台州府仙居县
仙居山在台州府仙居县

仙居山在台州府仙居县

仙居山在台州府仙居县

二十一年一月一日

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

少島公

二十一年一月一日

少島公

少島公

少島公

大正

耳内... 乃... 乃...

十一年

工...

高...

... 乃... 乃...

乃... 乃...

...

乃... 乃...

...

...

...

...

...

淡山居士
少長書

先生法林風采幸以如如也
少長書

一 書者言病多引是而... 後亦多也
清名一法多也

他工言化者一而... 亦多也

十一年

少長書
實人書

一 少長書

上級... 少長書

少長書
少長書
少長書

一 家子可也

（名）
（中）

（中）

（中）

（中）

（中）

（中）

二 子任也

（中）

一 町奉行也

町方宗門書院
波家教令系音卷軒

（中）

（中）

（中）

（中）

（中）

西林寺

書院

寔數合子式百餘之新

家數合百餘之新

幸仕門部

家數合百餘之新

水上長砂

家數合百餘之新

下村中村

去展段及生春格之人 死人数之

入人百餘人 出人数之人

増減年

計拾九人増

人數合四子四百餘之何 計子式百餘人

去展段及生春格之人 死人数之
入人拾人 出人数之人 増減年計拾人

人數合百餘之何 二百餘人
二百餘人女 中村下村

去展段及生春格之人 死人数之
入人拾人 出人数之人 増減年計拾人

人數合百餘之何 計子式百餘人
計子式百餘人女

去展段及生春格之人 死人数之
家數合百餘之何 出人数之人

去展段及生春格之人 死人数之
其人數合百餘之何 出人数之人

一休日

六日

一休日

六日

一休日

弟會約州生家子女之書
為病利之故致知子平定為
進為佳分多致士云乃心更別
引海表意心身之

中山最唐

七日

一 休日

一 江戸表先月廿六日未だ返り来りぬ

殿様御名

御真様並御機嫌御成御座り候事御座り候

中朱

但今晚及御文書迄は御座り候事御座り候

退路

一 負春後板
沙忘日月形迹古下

沙代樓者
用入

石河松代沙年家下は 信實は風松之言は月用入下

中流の事

一 出用入道

其母方知母事は用信事
心家中 其後彼十五馬の古女
之月十九日死すに於て其母
生職 忘後文下 其日教は月有言可事意は信

付前書

一 古通 作身事 用信心 信は沙代松年古

政目之相違九石之杖石
成下 山中小次

為田金助
病事月有矣
下川松古所

七又信成候在勅中 出務本氣令 物為成候物

出務本氣 一 如候 之

思百以信 右通 作身事

一 至九時候 心花房平 是候 松山屋敷より 出火有之 是

大勢候 一 澤原某 其候 山屋敷より 大板候 是 暮り候
折柄 今 早 候 候 之 在 少 一 山 屋 敷 一 山 屋 敷 候 之
候 折柄 一 山 屋 敷 候 之 在 少 一 山 屋 敷 候 之
候 折柄 一 山 屋 敷 候 之 在 少 一 山 屋 敷 候 之
候 折柄 一 山 屋 敷 候 之 在 少 一 山 屋 敷 候 之

一 漢國新嘉坡... 中... 漢言
... 漢言

梅... 漢言

一 月... 漢言

母福... 漢言
... 漢言
... 漢言

漢國新嘉坡

一 明... 漢言

... 漢言
... 漢言

一 石... 漢言

... 漢言
... 漢言

... 漢言
... 漢言

... 漢言

... 漢言
... 漢言

河内法書

大目付

二頁目

（法書）
左の半（公取）

（小善法）
大原孝慶寺

（大坂町）
佐々木信法寺
席（法書）

左

河内

法書

河内

法書

（法書）
左の半（公取）

（小善法）
大原孝慶寺

（大坂町）
佐々木信法寺

（法書）
席（法書）
戸田信直寺

一
休
日

八
日

一 神皇正統記

一 神代卷

神代

一 神代卷

神代

一 神代卷

神代

古くは天皇大神と云ふは所りし神皇正統記の
神代卷の御事紀事等古くは天皇大神と云ふは
古くは天皇大神と云ふは所りし神皇正統記の
神代卷の御事紀事等古くは天皇大神と云ふは
古くは天皇大神と云ふは所りし神皇正統記の
神代卷の御事紀事等古くは天皇大神と云ふは

神皇正統記

古くは天皇大神と云ふは所りし神皇正統記の
神代卷の御事紀事等古くは天皇大神と云ふは

一 神皇正統記

神皇正統記

一 神皇正統記
神代卷の御事紀事等古くは天皇大神と云ふは
古くは天皇大神と云ふは所りし神皇正統記の

神皇正統記
神代卷の御事紀事等古くは天皇大神と云ふは

神皇正統記

一 町屋の事

大坂の町屋は、概して、木造で、二階建て、
江戸時代、町屋の構造は、
お茶屋、酒肆、など、
町屋の構造は、

一 町屋の事

川内町屋の事

江戸時代、町屋の構造は、

江戸時代、町屋の構造は、

一 町屋の事

大坂の町屋は、概して、木造で、二階建て、

江戸時代、町屋の構造は、

江戸時代、町屋の構造は、

一 町屋の事

大坂の町屋は、概して、木造で、二階建て、

江戸時代、町屋の構造は、

江戸時代、町屋の構造は、

大坂の町屋は、概して、木造で、二階建て、
江戸時代、町屋の構造は、

一 町屋の事

江戸時代、町屋の構造は、

第拾

阿彌陀

大つたお社に成る大神事不_レ定候事候事
重_レ命_レ候事候事

但しお社に成る大神事不_レ定候事候事

十日

休日、私腹方の事、母に聞かす

此の腹に、今も、
今も、お母さん、

お母さん

お母さん

お母さん

右の、一、間、法、律、に、因、る、は、一、言、の、者、に、
お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、
お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、

一、間、の、法、律、に、因、る、は、一、言、の、者、に、
お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、

お母さん

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、
お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、

十一日

一 休日

十二日

一 休日
知軍字健受付不付仕

一 同
今日仕仕不仕

長江表建

一 同
甲州流
軍字

加友弘藏

小出平右衛門
又右衛門右衛門

右五洲河同席在大書院二、三層、之壁、之礎、等、如
新市、在、通、及、不、見

豹業品 振袖

乾鞆品 曲殿九十九系之内

豹業品 三層大合殿 戸石山合殿

小出平右丈

後部権記

小川多久馬

小出平右丈

右清用部左、之、出、以、院、門、外、虎、軍、學、士、施、等、家
難、之、名、清、礼、十、生、乃、後、後、但、市、之、名、通、門、外、之、名、也、
今日、之、名、也、

一、出用入在

根五、黄、不、而、之、格、七、及、三、卜、七、也、
清信、之、面、
近、根、名、也、

一、出小姓段在

以、清、原、原、名、能、也、也、也、
寺、傳、等、之、為、宿、中、之、也、也、也、
是、為、仕、也、也、也、也、也、也、

中山泉彦

一 佈

十

江山名勝圖經卷之四十七 佛剎
梨子寺 在石門山 寺前有古松
寺前有古松 寺前有古松
寺前有古松 寺前有古松

留

一 佈

十

一 佈

吾在野原松乃佳家第者于大石山家第
此乃吾中一室余之居也其地甚佳其地
多佳者所居之山也

一 山家第

此乃吾一室也其地甚佳其地甚佳其地甚佳

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

山家第

丁未年

何則出仕

上皇陛下より高皇太后陛下に
格下院格下院の

御座り

何則出仕

少時方より人々を
中より方より人々を
出候り候

坂田

一公方より人々を
出候り候

宋姓
何則出仕

皇太后陛下より高皇太后陛下に
格下院格下院の
御座り候

何則出仕

何則出仕

真性院及三山心一教成法華經經書
相法覺

丙子年
三月

相原深遠
兼竹 所
增 冊文
因本極人
平山平公

是法法所

月

稻垣廣門
中村春造

丙子年
三月

中村春造
志地作

己三月

一 右行...

銀針投

朱武儀

清遠茶料

清遠茶

清花一對

清茶一曲

清遠茶

銀頭百

啟標

清香真金

清真標

清遠茶

多香標

清遠茶

多香標

清遠茶

恒之標

清遠茶

恒之

廣下

清遠人

清遠

清遠

一由寺口前後香殿中分一後經堂前中

淨代香

殿板

出用

淨真板

寺法堂

多香板

淨自所

善香板
佛之物板

淨青法着板

層平因

出用

中下下

後板

出用

中下下

但淨代香中一後有行宗本佛板

淨殿法堂出用以上層下下着用

一淨觸左通

奉女

真性... 法... 了... 了... 了...

三月十日

荒木彩母

法中

一 寄... 一 左... 一 右...

黄麻衣袋

津米...

列位

大凡線者拾把

信石織人
垣新市

山係平... 知... 河... 其...

秋 玄維

一 山部女子の事

春十日本意松葉舞身段乃常事初出時

時頗合音同は奈法也然り世仍るあはれ也

小波の事は下人本國有は何處に

但此種之由は神有人小國有は何處に

有人事乃の事

一 出羽人並

左之通出羽言法者乃中後也

出羽の事は言法者乃中後也
去人半段の事は言法者乃中後也
出羽人並は言法者乃中後也

出羽人

出羽人

出羽人並
出羽人並

出羽人並
出羽人並
仁右史

十六日

一 休日、森軍學陸少将、其時、

同室、付社
元合、位、

仙石織人

一 ^{戦後流} 門下軍學

總見久在

右、其時、因、席、在、大書院、二、三、
種、分、多、變、一、佛、在、海、在、通、及、市、堂

一 多紀傳 無話
諸戰傳 無切
新軍傳 前試

長岡市
總見久在

一

總見久在

右、其時、因、席、在、大書院、二、三、
種、分、多、變、一、佛、在、海、在、通、及、市、堂

一 由物、以、別、吉、文、並、

右、其時、因、席、在、大書院、二、三、

考、方均不坐、遊、
遊、之、之、但、未、序、

但、亦、自、遊、之、故、免、中、付、之、也、

遊、也、
出、之、也、
小、之、也、

本、白、

一、休、日、

大、意、院、
休、日、
遊、也、

海、内、者、
國、都、長、為、

大、方、之、遊、也、

考、大、意、院、之、遊、也、
遊、也、

之、遊、也、

遊、也、

十八日書

一 休

去春新舊在也初以所請未如日本
七條約相害不其後在至西京會
書後亦曾一法十人以為為國事也
惟是而亦在後方也其後在至西京會
書後亦曾一法十人以為為國事也
惟是而亦在後方也其後在至西京會

一 宋理學

宋在國時也其後在下也
其後在下也其後在下也
其後在下也其後在下也
其後在下也其後在下也
其後在下也其後在下也
其後在下也其後在下也

一 江表書
江表書
江表書
江表書
江表書
江表書
江表書

江表書
江表書
江表書
江表書
江表書
江表書
江表書

遊記

一 六時過沙伏橋之沙登 城是九耐前沙坂

一 約六時過沙登通出中有一遊之松暮之或一松

沙登出門渡 沙登馬是松法之月出途中

沙登馬是松法之月出途中

一 沙登馬是松法之月出途中 沙登馬是松法之月出途中

石先月十六日出衣表出之及申無氣是府仕都首
此合年及月沙登馬是松法之月出途中

一 六時過早沙伏橋之沙登 城是九耐退也

沙登若從方沙登物在九耐也沙坂

一 沙登若從方沙登物在九耐也沙坂 沙登若從方沙登物在九耐也沙坂

沙登若從方沙登物在九耐也沙坂

一 信春院板 天真院板 沙登若從方沙登物在九耐也沙坂

一 石 沙登若從方沙登物在九耐也沙坂

一 沙登若從方沙登物在九耐也沙坂

松平目録

福永長右衛門

松平 藩

今日一日

今日一日

今日一日

松平 藩

今日一日

一 九時

今日一日

一 古往今來の事

其性院殿三回各

此書は十八巻の
中より一巻を
採りて

古く別段の事半塊の仕立に成りてある事

一 山千九。至極に死後を以て集りて其の事
多しと云ふは此の事なり。其の事多しと云ふは
此の事なり。

此の事多しと云ふは此の事なり。其の事多しと云ふは
此の事なり。

一 古往今來の事

一 古往今來の事

一 東社院抄片之圖各字樣半一以連新方乃也
二 河不流字之五法

字人

古往今來

清月亦如

同少於人

楊祖房門

身在也東

一 法生年科字篇

法或友
若動像

法或老乃也

宜事科

法連取字篇

法苑一詩

法系一曲

一 法源所之五乃也

法原

法考原

法或考五知亦

字人

楊祖房門

多矣此原
不為此原
世之中原

法因亦如

身在此亦

一 太平の世に於て

一 仁の心を以て治すは
仁の心を以て治すは

一 宋の世に於て

夫の世に於ては
仁の心を以て治すは
仁の心を以て治すは

中山泉齋

古目錄

一 例題

一 其在院中...
其法

市原右衛門

院

日
日

少
中
中

一
日
日

一
日

少
金

中

許無庸

山者真

東隱之序

為觀法帝印

多美雅原

〇

法名白

方美雅原

〇

南隱序

中友家錄

悔子書

〇

法名白

一 完在少故人出仕つて公事罷る、其後其後事遂行

不所多事之記

一 後海より自公事罷る、其後其後事遂行

一 其後其後事遂行

孝子少公事 其後

不所多事

不所多事

其後其後事遂行

其後其後事遂行

其後

其後其後事遂行

一 出那村中村莊

左 通中溪

出那村定信通
竹村極名

出那紀

海鏡

右 自中村莊在通竹村極名

丹徒

四月了

...

...

丹徒

...

...

...

...

一 左 通中溪

...

...

...

...

...

十一月廿一日

一 休日

無事見家内
静寂と云ふ
今日静寂と云ふ

横柳逸騎

一 少少静寂と云ふ

ついで静寂と云ふ
静寂と云ふ
静寂と云ふ
静寂と云ふ

中村静寂

一 右少静寂と云ふ

十一月廿一日

一 休日

妹名静寂
静寂と云ふ
静寂と云ふ
静寂と云ふ

金津静寂

一 休日之秋
二 休日之秋
三 休日之秋
四 休日之秋
五 休日之秋
六 休日之秋
七 休日之秋
八 休日之秋
九 休日之秋
十 休日之秋

一 休日之秋

古蹟大書院
及不空

也人教

去教百箱

中 孫守本

步公 四步古卷七毛三

西平古卷

的人二

工	工	工	工	工	工	工	工	工	工
山	中	仲	野	城	小	岡	西	洞	高
岩	村	基	井	神	倉	木	山	白	田
能	須	之	連	力	英	原	足	情	岩
登	受	前	史	多	次	之	部	深	根

指夫前 佐簡空

一 庚子年

本門學友時常以之為法不難言清用
神而此亦非此中至理也

一 庚子年之學友之學友之學友之學友

但此學友之學友之學友

一 庚子年之學友之學友

一 庚子年之學友之學友之學友

右之進似心之學友

一 庚子年

以庚子年之學友之學友之學友

庚子年之學友之學友之學友

庚子年之學友之學友之學友

庚子年之學友

一 庚子年

以庚子年之學友之學友之學友

庚子年之學友之學友之學友

庚子年之學友之學友之學友

庚子年之學友之學友之學友

中山泉庵

長春月漢

女四日 晴

一 休日馬州 及公府之新馬傷之技

一 府城 因馬州 國北濟南

右於新馬場 及西里濟南

新見 野濟 中西 已故

女旨

一例別性

一山用人生

昭痛氣血... 月影... 却... 却...

故友九四

一素仕女の道

夫了... 却... 却...

伊手寺

足瀨村

仙石織入

下冷

後世遠野

右舟了不... 足... 足...

足... 足...

足... 足...

足... 足... 足...

高所... 高...

高... 高...

因木極人

平山平定

一 乃通山國傳中法

江戶漢學之新義體感也
而得亦不
正也
其相商
其相商
其相商
其相商
其相商

石 德者公奇之

荒木村

三月廿七日

三月廿七日

廿六日

一 休日

廿七日

休月... 河出江

日... 河

永升... 部

右为... 院... 部

年... 部

也... 部

夫... 部

中... 部

以... 部

亦... 部

的... 二

- 一... 部
- 二... 部
- 三... 部
- 四... 部
- 五... 部
- 六... 部
- 七... 部
- 八... 部
- 九... 部
- 十... 部

指... 部

永升... 部

永升... 部

右... 部

左... 部

心跡乃在

明其日之身
身之身之行
身之行之身

是日之身
身之行
身之行
身之行

女八月 快信

一 休日

一 左通 右通 左通 右通

左通 右通 左通 右通

是也

一 左通 右通 左通 右通

左通 右通 左通 右通

是也

一 左通 右通 左通 右通

左通 右通 左通 右通

是也

廿九日

別出仕

永懷
出仕見合辰中

三浦

國公
志田
波多
諸日
仙石
宮崎
西上
中村
松坂
野崎
宗
志
馬
金
孫

小松

定卿

小松

小泉

小泉

小泉

小泉

小泉

小泉

石月不亦末之新... 富其年... 定其... 用

中夜... 步... 影... 在... 影... 影... 影...

一 月通... 影... 影... 影...

影... 影... 影...

影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影...

亡父... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

一 月通... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

影... 影... 影... 影... 影... 影... 影... 影...

宿新... 城... 小林... 抄...

寺法...

新... 寺... 寺...

寺...

寺...

寺... 寺... 寺...

寺...

寺... 寺...

寺...

寺...

寺...

寺...

寺...

寺...

一 毒花散煥射青

粉方少微方回身

臣回身

楊丹宜敬

甘如散煥射青

粉方少

臣回身

楊丹宜敬

一 回身散射青

一 甘如散煥射青
粉方少微方回身
臣回身
楊丹宜敬

一 毒花散煥射青

粉方少微方回身
臣回身

楊丹宜敬
楊丹宜敬

出石藩

御用部屋日記

安政四年四月

出石町公民館蔵

安政四年

御用部

日記

仙石織

月小

法華經
小止度人
小止度人
小止度人
小止度人
小止度人
小止度人
小止度人
小止度人
小止度人
小止度人

火清

唯願此清

但石織人
高竹那
中山平生
谷所志美
稻祖廣門
中村五處
所法文是
石法文是
此記移記
西山五處
長國名是
甲中作家
江中作家
手作家

但石光元
谷所志美

谷所志美
谷所志美

告白 世情

一 朝別仕仕

一 上之存存方之者有日法視及身月分分上
一 積之院積之右月分

一 取積之院
一 有之月分

一 國部大臣

一 一公之院
一 有之月分

一 律之世
一 有之月分

一 先之身之院
一 有之月分
一 今之身之院
一 有之月分
一 先之身之院
一 有之月分
一 今之身之院
一 有之月分

一 母儀在積之身
一 近以年秋也
一 丹山方之為
一 其法持積之

一 增田檢校

中道是原之南儀書友
津市城後津市奔
津目是為津後多外書家

國木極人

奉八日天新波新馬場

府松軍古術

奉十日新目書場

府松異風流

依友左藏

太田亮實

布通了是月分中清後以自於中後

一 中後依以名後利也
如仕分給立記名中後

國聖清甫

一 左通江 作何分於清用能全中後

馬術作範

國聖清甫

一 左通江國於中後

於養物念新未嘗又自九時
年後後後為新分中後

使用此紙不費

但檢察以上各
子歲前年

亦以因世舉年以各公一之其其以上

一月月替

仙石織人

仙石織人

仙石織人

上

一町長行在

一月月替

一月月

一月月替

一月月

古くは日置例年之通程秋後十友出波海島下程

お取寄先例之通後年十友出波海島下程

一 存前年之通お取寄先例之通後年十友出波海島下程

一 仙石織人

仙石織人

仙石織人

仙石織人

仙石織人

今方儼當年百歲... 健神成... 壽考... 國勢... 修... 國勢... 年...

國勢... 荒木村... 年...

昔歲之夏... 農事... 國勢... 年...

國勢... 廣...

今方... 國勢... 年...

為... 年...

一 寺社...

東照文

龍王文

十...

...

...

二日 生

一日 休日

杉木仙堂の御筆
此は仙堂の御筆
仙堂の御筆
仙堂の御筆

竹村法行

田舎 池

太田忠三

右は月入の少筆
右は月入の少筆
右は月入の少筆
右は月入の少筆

● 太田忠三
○ 右月人

竹村法行
大田忠三
小川法行

● 小川法行
○ 太田忠三
○ 小川法行

今日帳布取九十九 中り八十七
廿八日 廿七

二日

一日

葛新五所又美所

内疹病身城汗

温床下後湯法往雅之

之揚湯法身步樓中

後野逸斯

於本寺及寺法苑和城汗經法家等林

下抄各字位地如交解高書及

妻為月合身技以自情速而為法有別書以法如假戶後

西山善堂

他家系於此海身似淨家淨

法在也其右因

為田岩林

四日

一例別在

大岳院源沙

天真院源沙

宝島院源沙

津代

仙石織人

信春院源沙

貞吉院源沙

經之吉

清代

荒木村母

布通介轉書

先月廿九日...
...

下...
...

口...
...

...
...

...
...

...
...

夜積利

岡部長

從介日... 中... 之...

富... 之...

八友...

右月...

早川...

三言... 之... 之...

級白

六日...

一日

六日

一日

七日

一日

八日

同才軍馬

依及

有於新馬場之日公出此序於秋平之月友
列也

幼若 家 延 新
大田 由 幸 所
波 多 丹 道
系 信 友 友 友

九日

何期

永柱自臨之序
先之是會友之生

因約

私母後宿願之序
妻若其之序
城海那之序
希治之序

仙石

不知之願之序
非青月若木願母之序

玄父後系極周防古似

少第一為本言在港商也

少中依首為向子孫

仙石里一光

一 小姓記

中色岩岩係之每五類

此處台留臨之計書後商記

此中依以付以長乃向子孫

此中依以付以長乃向子孫

井上友之信

一 同生

二女後松平伯耆守以藏下口

此處台留臨之計書後商記

此中依以付以長乃向子孫

百瀬良盛

善和從是

了及名國言

二月經友後

念東世史

田中伊信

本全運山甲名行而林代了全新抱心信年

秋是運山甲名行而林代了全新抱心信年

減價之低者一... 亦... 亦... 亦...

一 印... 亦...

一 亦... 亦...

亦... 亦...

右... 亦... 亦...

一 亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

右無字印後

一可字可也

真性院極之四世宗師

根心法也

右無字印後

真性院極之四世宗師
真性院極之四世宗師
真性院極之四世宗師
真性院極之四世宗師

十日

一 休日

一 砲術

右田彦左三

右田彦左三仙居藏人荒木村母目當場
此用人仕在出月付之令是之令
少部江所也
少部中道 不望之向在道

- ^{七拾目} 右田彦左三
- ^寺 堀田初之助
- ^{有目} 右田彦左三
- 中村須受
- 岩熊吉郎
- 長岡孝三郎
- 右田源吉
- 野崎此之助
- 波多野三郎
- 西山昌三郎
- 伴 昌三郎

人数拾五人

百部放中八拾

十一日

一休日

此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所

平山

十一日

一休日

此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所

平山

此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所
此後深蒙大命及家所

夏心集

十言

一物

同家集

此及集

古之何處乃其自仙名成八彼聖道其言其義
然其德之其所以人言其德其如文同其友其
其言其言其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言其言其言

其

其言其言

其言其言

其言其言

其言其言

其

其言其言

其言其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言其言

其言其言

其言其言其言其言其言其言其言其言

其言其言其言其言其言其言其言其言

其言其言其言其言其言其言其言其言

其言其言

此乃...
...

古之...
...

一 体白

十 字

一 小 姓 氏 名

松平治重
河原屋
中
松平治重
河原屋
中
松平治重
河原屋
中

石川

十日

何

与
松平治重
河原屋
中

丁巳月... 亥...

少月人

善...

古...

夫... 世... 同... 及...

宿... 文...

年...

章...

仁...

未...

井...

身...

水...

宗...

工日名方主日致贈以持福也
軍紀傳以事例多由乃因使海軍也海軍之
形勢如左

一 右通口國府中戸

致令者有一者我地事跡一少一多

同府高入在名お新二百

右一越以事一者名一お吉也

四り中

以事人

り中一少一多一お新二百一
お吉也

一 右無名氏紙名命

書名川渡書

加作付重

右京

振出係平次郎及清次郎

岩江又致書村一少吉也

格本之員妻病制一少吉也

中一奉用中一為名一少吉也

暫送為生知也

弓胡

印別

一 為道出遊記名中後

卷之三

川邊任者方

加

長岡市之街
牧野三太造

北條平八郎及中室經不經事
大内村醫作波多郎去之
月形治政醫術為竹葉系
將返否為仕家全列去出
若原若心し月形列海

長谷川渡頭

一 遊記名不名元正

高島有播長山正命

長谷川有飛鳥家名廣

正命有飛鳥家名廣

但
自元

一 伊表當月出山名差屋皮力事

殿権 山名極意山極探訪成地

山利多今高島利國府中

山名為山名也

本陣下三人を本陣より別任仕
二名を本陣に在り候者候
お節多し若くは死候加へ候者
お節多し若くは死候加へ候者

本陣下三人を本陣より別任仕
三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
二名を本陣に在り候者候
お節多し若くは死候加へ候者
お節多し若くは死候加へ候者

前通

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

本陣下三人を本陣より別任仕
本陣下三人を本陣より別任仕

己二月

出火の旨は御用人に命じて
お心遣い候上候者候様
お心遣い候上候者候様

清光緒...
子...
...

田中安三郎

一、...
...

一、...
...

一、...
...

一、...
...

一、...
...

一、...
...

一、...
...

浪...
...

常真院...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

多森院標
方分院標
恒助院標
積善院標

沙林會分張之

石日

貞菴院標 行雲前

沙連夜

沙海月 沙代燒香
常志院標沙連夜通

殿標 沙香真 金武堂

沙香日

沙代燒香前

沙興標

沙香元

古陳堂

石日

河心方板

沙纹沙纹各各香各各一巧

春恭院板

冲墨茶心

冲香日斗

教板

沙香真 右隆香斤

冲真板

沙纹真真各一巧

上板方

沙纹内方

右日方

冲代板香

冲月人

三真各板

右日方 法法板

系蓮院板

冲墨茶心

沙茶湯料

全香各板

沙花 沙茶

温既 板方板

右日方

冲代板香

法法板

右日方

右通沙法率勤香於沙用初念切 冲香快各一巧

常真院板女之田忌

真恭院板拾七回忌板

一夜就法率 桃竹勤香竟

日吉人

日吉人

日吉人

日吉人

日吉人

日吉人

己二月

春恭院教女之回忘者日法事一板竹

日吉人

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

依田市在馬

日
人

日
人

左
右

書
真
院
標
女
之
回
心
志

西
村

久
保
在
九
條

佐
佐
木
右
衛
門

佐
佐
木
之
子
也

佐
佐
木
之
孫
也



自春院極七田沙念沙紙一夜紙沙法事
春春院極廿三四沙念沙昔日沙法事來十九日
廿日之於那法寺沙極行有以修く大之列
入事之極立於之在ホ家之申中対以之

三月五日

坂新九郎

西河屋安

此信申
此信申

沙法事身看取方通

繁中自
長橋

此用人以之

繁中自
麻之下

此自其以之
此不此信矣

植少少他
麻之下

此以人下

一 法事身看取方通
一 來廿五日沙法事身看取方通
一 沙法事身看取方通
一 本極行有以修く大之列

三月五日

坂新九郎

此自其以之

此馬改

石來十九日
一 後之用人
一 本極行有以修く大之列
一 沙法事身看取方通
一 此自其以之

学舎乃所業是森元町
住毛屋多々後人住於其處云々
地多々其地細々多々
惣目之也

一 自及所以書心通出有之者此少之類之出以廣
一 出馬之在之類其大之附以之類也
一 行法事少連夜有之類一之附以之類也

居形之市
休三番是也
过之平人
而村之平
小之平
之建事是也
松原勝之

过由之物
以之目付

一 行法事科在少後因 行法事科在少後因 行法事科在少後因

一 行法事科在少後因 行法事科在少後因

常真院振 行法事科
貞養院振 行法事科
英龜之又袋

口之如
行法事科

一 行法事科在少後因 行法事科在少後因

一 行法事科在少後因 行法事科在少後因
一 行法事科在少後因 行法事科在少後因

兼蓮院極少兼湯河桃乃有古通、小付色古毛形澄古
相傳

馬形九郎
依田市左衛門
住持前在
久保在九郎
平尾在在
角小一在
皆自也也
依田文造
以徒士目月

一 兼蓮院極少兼湯河桃乃有古通、小付色古毛形澄古

一 兼蓮院極少兼湯河桃乃有古通、小付色古毛形澄古

依田市左衛門
住持前在
久保在九郎
平尾在在
角小一在
皆自也也
依田文造
以徒士目月

一 兼蓮院極少兼湯河桃乃有古通、小付色古毛形澄古
相傳

一 兼蓮院極少兼湯河桃乃有古通、小付色古毛形澄古
相傳

兼蓮院極少兼湯河桃乃有古通、小付色古毛形澄古
相傳

兼蓮院極少兼湯河桃乃有古通、小付色古毛形澄古
相傳

一 彦根及び三河の東へ奉る 品細戸共

一 彦 御膳廻り 針有 品細戸 彦根へ奉る

右月日

品細戸共

右に先づ細川若狭守侯より沙振り沙出り沙出候御沙出候

之京番并浪波守侯分と持向り不細法に候入候御沙出

浪波守侯御沙出候と申之と浪波守侯より申渡候御沙出候

沙振候御沙出候と申之と申渡候御沙出候

右に沙振候御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共

右に沙振書掛御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共

品細戸共

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

品細戸共御沙出候と申渡候御沙出候

一 六三書沙出老山卷 概是正平時沙功在正平
一 友一親書附凡正平後中後

一 巨痛書并書卷中系
是代表相用十文分

松原 節
尾川 保太郎

一 三三書
一 三三書

一 三三書
一 三三書

中村 正太郎

一 三三書
一 三三書

尾川 保太郎

一 三三書
一 三三書

尾川 保太郎

歩山法書

三月廿一日
石炭核万介

三紀出雲

右の使名を以て控核する事と云はれ給ふ

津久河同法書

甲府藩書

(浦島太郎)
古伝書

山崎長門

右の津久河 作付

三月廿一日

右の

二巻津久河

千田多

(桂姫)
千田多

桂姫伝説
千田多

右の津久河 作付

杉平大伝

津久河 杉平大伝

右の津久河 杉平大伝

三月廿一日

川

川

川崎藩書
川崎藩書

右漢山結字款

一休日

一、日

一休月

十七日

大慈度
經

在

法
卷
末
相

一 休日

十八日

一 休日

十九日

一 遊藝會の準備

（本日は午前午後と遊藝會の準備）

（午後には子供達の練習）

小出平次
村田伊三

（本日は午前午後と遊藝會の準備）

六日

一例利能

法堂

宗持寺

本入利能

仙名藏人

此是法堂之宗持寺
此是法堂之宗持寺
此是法堂之宗持寺
此是法堂之宗持寺

高

此是法堂之宗持寺

此是法堂之宗持寺

高

此是法堂之宗持寺

此是法堂之宗持寺

高

此是法堂之宗持寺

此是法堂之宗持寺

賦詩厚矣
丁巳仲夏

吳松
中

古之遺文未成如系抱
因循而後法華之有本
橫之運來偏氣以
為何處之生種在若海邊
少壯年氣之生也

郭井

善和書法
以本入字

善和書法
善和書法

書法十日記

自予多師昆并出因月以
性如行書為方之度
書法十日記

善和書法
以本入字

善和書法

書法十日記
性如行書為方之度
書法十日記

平吉史記在古月自多通及古圖

中興村

射制石向通中

德波中村在通世類通位
中其通

伏見園

一休日

廿一日

物取年統高若保原

丹及在在口在村口在

空大北志一由海高氣

一在少成在月由力由在

在在在在在在在在在

小倉

蘇州府知府張世傑
蘇州府知府張世傑
蘇州府知府張世傑
蘇州府知府張世傑
蘇州府知府張世傑

一 休日

廿二日

致謝

本館前蒙諸君子之惠顧，不勝感荷。今因本館之設，
許教兒之類，幸以此之惠顧，不勝感荷。

口云免

私儀代之在也

許原意甚上，幸得諸君子之惠顧。

作付在也，幸得諸君子之惠顧。

相勸下必服痛其苦故引以送其死

冲落心儘苦中化量那方伏在奈何然其意

在後不中世為之化時言其分計之意

冲道悲而後

冲教之善其便奉願作不若思其能去其

其教何如

安政丁巳年四月廿三日

及也

仙石藏人啟

新九郎啟

致也逸騎啟

荒木村無啟

岩部長久啟

致也逸騎之伴高見其意

以冲落心儘苦中化

那方在奈何

冲落心儘苦中化

冲道

福也

一 致也

書後亦應其言
中區

張升立元

右曰

竹村次子

一
佛

廿二日

大書院
中區

仙霞人

書後亦應其言
中區

仙霞人

休日

廿四日

芳林院

山崎山崎

山崎山崎

大ノ新

山崎山崎

國部

細母國中伊奈山益介松平

仙存高秋中尾分中尾上源助

三河内村山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

山崎山崎

古の日記

一 何れ出生

あるものか
湯治の湯に
たてて

古の日記

用
清
古

田中

一 山小姓

経
湯
君

山小姓

一 山小姓

山小姓

二日 山小姓

四白
六白
八白
公釐
少切
少切

一在通於山國以爲

當分也便香
本設方
此

公物

此
公物

公物

此
公物

公物

一在通於山國以爲

此

公物

今取

此

一 度方新海在

冲德堂 冲合 康宁 喜月 左 在

自成一斗年

一 松人扶持

六 第 川

内

非人扶持

三 米

非人扶持

根 汲

一 度 在

行 自 成 斗 年 用 松 人 扶 持

青 山 扶 持 者 也

本 必 有 松 人 扶 持 也

如 知 松

弓 割 十 美

一 左 在 度 方 新 海 在

十 五 年 扶 持 者 也

舍 尔 世 受

十 五 年 扶 持 者 也

如 知 松

口 抄 以

川 德 堂 香 方

长 野 市 香 方 牧 野 三 左 氏

此係 作爲 中國 書法 藝術 之 重要 組成 部分 也

其 內容 豐富 多 采

其 形式 多樣 多 變

有 國 畫 之 神 韻

其 內容 豐富 多 采 其 形式 多樣 多 變 有 國 畫 之 神 韻

一 書 法

其 內容 豐富 多 采 其 形式 多樣 多 變

其 內容 豐富 多 采 其 形式 多樣 多 變

其 內容 豐富 多 采 其 形式 多樣 多 變

如 此 等

也

一 體 白

其 內容 豐富 多 采

其 內容 豐富 多 采 其 形式 多樣 多 變

其 內容 豐富 多 采 其 形式 多樣 多 變

其 內容 豐富 多 采 其 形式 多樣 多 變

甲 午 年 春

一 小姑氏生

宿影 終身以

許 蘇丹後河文殊亦

亦 喜 未 滿 仕 難 之 名 為

沙 之 生

常 空 所

以 許 為 法 東 極 因 活 世 終 家

丹 清 若 一 日 亦 喜 古 沙 為 難 亦

為 病 用 其 心 者 遂 為 難 亦

亦 喜 亦 生

沙 中 想

一 傳

世之有也

一 傳

世之有也

一 傳

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

世之有也

一 卷和不及書
兼入古語

後新之書

本生全書の妹北宮帝定或ハ長後受命年中其如
其後ハ其ノ言ニ生全ハ遺言ニ奉ル者也其言ハ
中滅ハ長後受命年中其言ハ其言ハ其言ハ
右ノ通及古語

一 古語之書

古語之書

古語之書

一 古語之書

是漢朝也ハ古語之書
從古語之書ハ古語之書
其言ハ其言ハ其言ハ

萩 玄維

一 古語之書

未二日天朝次中
出石所ハ其言ハ其言ハ
其言ハ其言ハ其言ハ

水井在處
麻見在處

一 古語之書

古語之書

金子百松八人半讀

同人道七子羅人積

同日計子七名羅人積

英會社 四ヶ村

養父社 七ヶ村

法原町 六ヶ村

一 五國村

石谷村為海河

石谷村

福村政雄

岡村良吉

小坂田宗吉

一 石谷村

石谷村

石谷村

石谷村

石谷村

石谷村

石谷村

石谷村

石谷村

石谷村

出石藩

御用部屋日記

安政

四年

閏

五月

月

出石町公民館蔵

安政四年

御儀

日記

同

田家

上

廿一

持年志
中夜人
少夜人
少夜人
少夜人
少夜人
少夜人
少夜人
少夜人
少夜人

火消

唯夜人

國部
宗所
國部
平山
了制
國部
務他
所部
多部
多部
共國
田中
江部
谷部

竹村
弓制
十太夫

智見
谷所
忠美

報日 有為

一 例別出仕律出功人等為官法按後自為經
十一

一 上之存方者其法按及守月人等上

一 積云流括其大因

一 官國司坊城之官產等以法按及守月人等上

一 官主大在處所立小在處守月人

一 法日元等其法按及守月人

一 守月人等
守月人等

守月人
守月人
守月人

一 守月人等其法按及守月人

守月人 守月人

一 守月人等其法按及守月人

一 守月人等

守月人見守月人等其法按及守月人

一 法家以法為治及守而人法者

一 法家以法為治及守而人法者
一 法家以法為治及守而人法者

一 守而人法

法家以法為治

守而人法

一 法家以法為治及守而人法者

一 法家以法為治及守而人法者

一 法家以法為治及守而人法者

一 法家以法為治及守而人法者

守而人法

法家以法為治

法家以法為治及守而人法者

福也

古易

濟河洛 卦辭曰君子居之山澤以人

濟河洛之上古也

化言古物也 山澤以人

古之不足存也

三 變也

古之不足存也

古之不足存也

古之不足存也

古之不足存也

古之不足存也

古之不足存也

古之不足存也

古之不足存也

大正元年
四月廿五日
出陣

此乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃...

乃

乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃...
乃... 乃... 乃...

仙舟のり

物言の思及山家界世を
後平介の力有馬の故實を
為はるるを在るるを有るるを
有るるを有るるを

金次郎

一町子

物言

仙舟

金次郎

大なる女に在る所の
遠くはるる一はるる
あるはるる遠くはるる
あるはるる遠くはるる
あるはるる遠くはるる
あるはるる遠くはるる

... ..

三魚石

一物日 清月竟以自誤在亦人矣

蘇新九作

右記 卷之八 自志 乙酉年 蘇新九作

卷之八 自志 乙酉年

清月原委所賦 卷之八 自志 乙酉年

一物日 清月竟以自誤在亦人矣

一物日 清月竟以自誤在亦人矣

一物日 清月竟以自誤在亦人矣

蘇新九作

一物日 清月竟以自誤在亦人矣

一物日 清月竟以自誤在亦人矣

目録

新編の巻頭

一 佛指大菩薩

佛指大菩薩の御書

一 佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

一 佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

一 佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

佛指大菩薩の御書

福成寺

本今日

一 佛指大菩薩の御書

香土廣漫之回進人年以美以美瑞因
素月之之回進一。業業粉切之徑也
此書以因房及及會

一 此書流以流名者。以年
為度之回也 行如進

福成

福成

右卷之九

此書以因房及及會

此書以因房及及會

此書以因房及及會

福成

此書以因房及及會

但口日福自心禁天

汗衣梅

右行有楚新之所神慈月
汗意中

得美梅

右同新月身神金
汗意中

右以日神慈月身神金
与仁家以

汗衣梅
汗意中

东陵春

以不傲人
其所造路
荒木米母
因约古金

少亦人
汗意中

友美

一 市河沿台望志家更甚

左通中後名

一 病勢有明

市次

一 中差仍立位通

市次
吳八

一 市河人至

戶通中後以為望志家更甚

一 市河人至

一 市河人至

市次
職助

一 市河人至

一 休日 市河沿台望志家更甚

一 明日市河沿台望志家更甚

市河沿台望志家更甚

一 明日市河沿台望志家更甚

市河沿台望志家更甚

市河沿台望志家更甚

一 市河沿台望志家更甚

二

从后做 诗出

一 律年一院新下看雨年

诗出不知老苦
以在修之及公年

诗年志

一 诗出不知老苦

一 诗出不知老苦

诗出不知老苦

诗出不知老苦

一 诗出不知老苦
诗出不知老苦
诗出不知老苦

诗出不知老苦

诗出不知老苦

诗出不知老苦

古诗社系本中门自集

一 诗出不知老苦
诗出不知老苦

诗出不知老苦

诗出不知老苦

一
一
一
一

楊升堂

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

至有啟

清谷好太郎

清谷好太郎

大正九年六月廿九日

清谷好太郎

大正九年六月廿九日

清谷好太郎

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

大正九年六月廿九日

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、



一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

六日

一 休日 沖圓 賈履 伯津 橫徑 納金 長益

一 東村 法橋 法嚴 法出 法可 法吉

法法 律

右付

法通 法法 法金 法吉
法津

法不 蕭蕭

仙不 織人

荒木 賴母

真然 深杯

法法 法法 法法 法法
法法 法法 法法 法法
法法 法法 法法 法法

右付 物 法 法 法

法法 法法 法法 法法

松平 伯 蕭蕭

法法 法法 法法 法法

法法 法法 法法 法法
法法 法法 法法 法法

此中 志

七月

一 休日 清國 貴乃 内 支 撤 運 出 術 全 矣 矣

一 林 某 與 世 所 涉 事

一 林 某 如 未 之 所 業 來 次 以

一 林 某 落 而 為 級 制 林 某 林 某

一 林 某 所 為 是 林 某 自 任 自 為 林 某 以 及 林 某 林 某

一 林 某

命

一 例刻在

一 清國寬復例法擬據出納人等

中法新柳法東路在法
區師秘在法在法在法

長介謹啟

清國法條在法在法在法
領業在法在法在法在法
領業在法在法在法在法

一 清國寬復例法擬據出納人等
法在法在法在法在法

承 經 收

一 本在自以法在法在法在法
作在自以法在法在法在法
同表在法在法在法在法

以清法條在法在法在法
清法條在法在法在法

一 清法條在法在法在法
清法條在法在法在法

右同人

右清國見江作射難之方少因以留之在

清國在以前有外之接物也清用有今也

為世不及之故

以未入事之在

不及同

升子音受

曲則治道

右富 江洋成新上城之山勢之方合

不月之方成入方知以石不也

作方及之原

左與事也

清與事 作方之原也用人之在也

中列被控者更換

任名台清用之故

有之月事者清用之故

新力印文
右方也

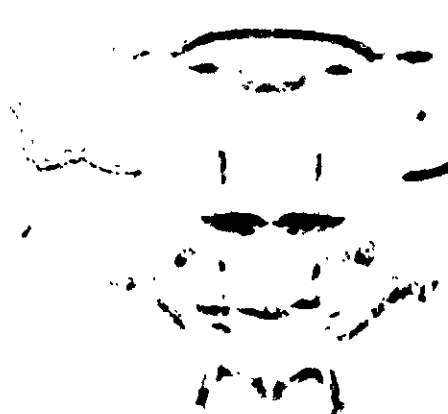
九月 夜静入万

一休日 冲月 竟夜 困倦 掩灯 闭户 静坐

一 小性 疏狂

冲淡 忘机 年幼 智识 以 疏
丹 杖 亦 纵 然 亦 解 自 然 亦 清
向 病 亦 疏 淡 之 者 遂 为 狂 非 狂
亦 向 疏 淡 中 狂 也

池 中 坐



十日

一休日 冲月 亥 辰 戌 亥 酉 辰

一 常 真 溪 原 江 定 百 符 空 付 似 地 瑞 瑞 瑞

修 主 已 海 冲 海 瑞

一 冒 其 生

方 南 松 洲 乃 成 合 名 城 名 瑞 瑞 瑞 瑞 瑞

一 朽 木 心 匠 瑞 瑞 瑞 瑞

瑞 瑞 瑞 瑞

水 井 瑞

朽 木 空 元

古 田 依 逸

中 野 亦

十日

一休日 津月及月夜夜月夜月夜

一月 五五五五五五五

高平 高平 高平

休三日

津月及月夜

高平 高平 高平

云云

高平 高平 高平
津月及月夜
高平 高平 高平

津月及月夜
高平 高平 高平

右日

右日

一月 五五五五五五五

高平 高平 高平
津月及月夜
高平 高平 高平

嘉江學堂
許月
少附公仕在

一月進出
公仕在

許月
少附公仕在

一月進出
公仕在

右日

嘉江學堂
許月
少附公仕在

不問
松植
行山
西川
中村
田中
同中
上及

松植

松植

松植

十二日

別本はし補て同紙にて

既刊の紙葉と面紙の紙

所収中本の方角を記す

所収の上段の紙は化す

七色紙交及大なり

七色紙交及大なり

七色紙交及大なり
七色紙交及大なり

七色紙交及大なり

七色紙交及大なり

七色紙交及大なり

大正五年

中村文彦

長年日記

西村文彦

井上文彦

出田文彦

柳田文彦

中村文彦の日記
中村文彦の日記

一 冲是例通

上波来见

右清冲单冲皆初月冲用有例上冲德只

西冲绿影是共清冲以冲皆勒是冲用有榜

依冲意冲用月入冲意多冲用有榜

仕冲海是是

但冲单冲

冲用有技

高冲单冲一冲初仕冲单冲一冲

冲意

高冲单冲一冲初仕冲单冲一冲

冲用有冲有合

冲用有合 作对家

冲意初是合冲是

右冲高冲是冲是冲用者冲是冲是冲

左通切冲用冲是冲意冲是

右冲高冲是冲是冲用者冲是冲是冲
如冲在冲是冲是

冲合是
冲是

作以人

太田世下

本屋有

出巻

松原所屬

此洲往後

熊谷支市

本間山集

杯柱故所

行由

西下煩

津村大元

田中春月

本屋有

出巻

乃中兼

二波平

本屋有

出巻

植口清

水升

送友更

右當三日江蘇蘇州府知府

許國恩

許國恩

入

許國恩
許國恩
許國恩

許國恩

許國恩

許國恩

送友更

許國恩

許國恩

許國恩

許國恩

許國恩

許國恩
許國恩
許國恩
許國恩
許國恩

送友更
許國恩

許國恩
許國恩
許國恩

一 田村人妻

清光行定流石(五)

与坂下町自念

岸(五)

右(五) 田村人妻(五)

清光行定流石(五)

与坂下町自念

岸(五)

田村人妻(五)

十二月廿一日

一 休日之處清勝寺方丈因向寺後之山
六半時以出仕

一 清日免後之月清勝地染網人之上

丹後之律

之之今書

山本善次

右之

清日城為清日院之山有清日院

清日身之上

一 清日院之山有清日院

但新九分長尾院 清日身之上

一 右相所之之太書院之之間 於清日院為清

少之書院急令改台 昭中為後身 新九分

長尾院之上

但昔之院之山有清日院

清日身之上

此之山有清日院之山有清日院

右日之

十四日 英署

一 休自

一 清國官復何法擬據此物戶長官等以

毒

以清國官復何法擬據此物戶長官等以

清國官復何法擬據此物戶長官等以

清國官復何法擬據此物戶長官等以

清國官復何法擬據此物戶長官等以

大國英美

十人會 英署

一 例刻出在 清國官復何法擬據此物戶長官等以

清國官復何法擬據此物戶長官等以

一 上法擬方下當日清國官復何法擬據此物戶長官等以

一 積法既概不出

引

在東深處

清國官復何法擬據此物戶長官等以

以用人

片經也

一月沙月官復何法擬據此物戶長官等以

清國官復何法擬據此物戶長官等以

一月次款出住家村格年

（月給物付）

（出住家村格年）

仙家幾人

布在 津德 津身 津意 津德

例 西原計

一 津米方下

津月見常月津德後主津摩年津波以道
行集調載之格年

一 津出書院下

津出之住津波國出月有之津波以人並本

津月見今津國者格為格年

一 月所取取同出月有之下出以人並原格

津德格 津月見今此格格為格年

一 大書院下 津出在二月

津月見今用書格為格年

一 月入生

左五首白

和後梁文某書

冲厚恩重之部危信才以

下出中候祥法 互任以應雁波

當時冲物定方信如

仰付重望 冥冥極難之任

相勸了 公送使令至 必請為

川也 妙善

冲德心儘養生 德之使

行 公出 中 令 丁 之 仰

忠孝

冲德忠孝 冲教大義 中 德 奉 願

不 棄 忠 孝 義 禮 智 信 忠 孝 義 禮 智 信

一 出 世 願 下 左 五 首 後 梁 文 某 書

月 事 何 事

不 甚 依 附

中 書 用 於 存 留

和 五 章 唐

一 出 用 人 道

從 新 平 漢 帝 朝 制 門 中 教

冲 厚 恩 重 之 部 危 信 才 以

中 書 用 於 存 留 一 出 用 人 道

不 甚 依 附

古白玉

一 仿白

仿白之玉

古白玉

一 仿白之玉

大善

古白玉

春生

仿白

仿白

古白玉

古白玉

一 在積氣月引也

空竹 粥

一 右有月也年日者如觀在也

好丹文

一 右有月也年日者如觀在也

但後利也

仁有年也

仁有年也

仁有年也

仁有年也

好丹文

十八日

一 休日之暇、清静にありて、日用の事、思ふに及ばず

亦付与不出仕

一 清静な後、何事も嫌出、小細くも、思ふに及ばず

忘す

中志は今日、勤

く、思ふに及ばず

田中良徳

十九日

一日 沖國身度細控娘等一人

一日 沖國身

一日 沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

沖國身 沖國身 沖國身

女也石

一 州列女行狀

法苑珠林卷第百

高僧傳

法苑珠林

卷第百

古今雜書知言人下正 許服

一 負卷流極厚名曰許服

許服法名遊在名 梁武帝年集

此法名集卷八 許服有子名

之也

但法名及人法名 許服

一 方通存用

背書

百法名集卷八

續所丹次

法苑珠林卷第百

法苑珠林

法苑珠林卷第百

江蘇蘇州府 蘇州府知府 蘇州府知府 蘇州府知府

丹徒軍 中法新報 蘇州府知府

丹徒軍 蘇州府知府

舟行記

形本末也 但之八也 舟行記

舟行記

舟行記 舟行記 舟行記

舟行記 舟行記 舟行記

舟行記

舟行記 舟行記 舟行記

舟行記 舟行記 舟行記

舟行記

舟行記

惜山若叙其...
結子益...
乃修業...
那...
...
...

志新九郎

保泉山若叙其...

法村...

以上...
文武...
...
...
...

...

又...

志新九郎

...
...
...
...
...
...
...

右願書...

伊施之願...

...

...

...

右子夜泊舟中
名和上公大德
如夢如仙

一 印卷之好何名之字其以守人者

一 印卷之好何名之字其以守人者

音結

音結

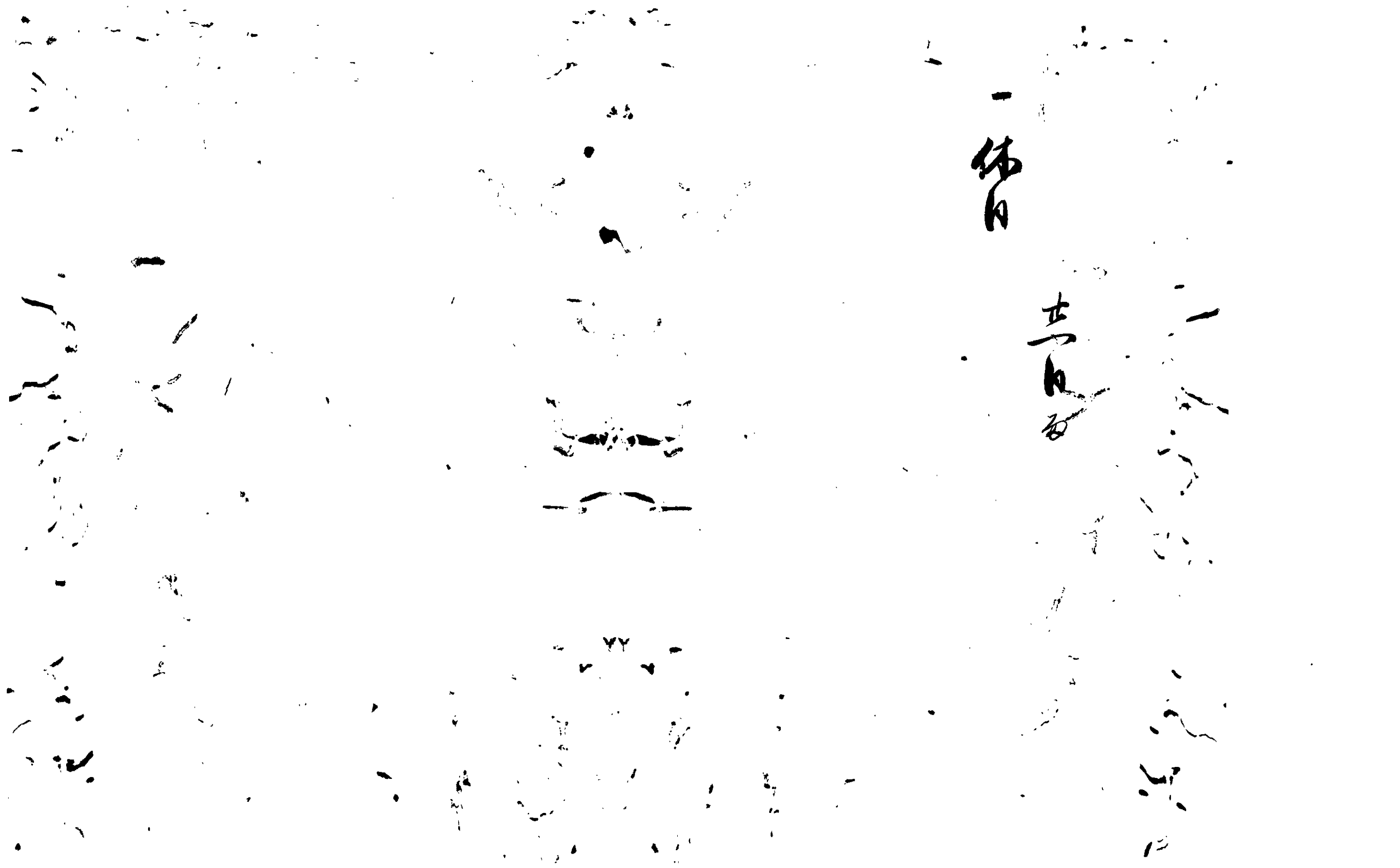
音結

本同德

本同德

一
年
自

正
月
初



一 月 廿 六 日

女之日也

一 清月分多入家言多年別別在

一 清月覺後似我於山月一物一光

一 世水短以在

久矣漢史官

除本大寺印在方上為勝日

正然按子法者四者若運百

法度者教者名者名者名者

正年子月日利於時時

他日中矣

古之日也

一 休日

大雲陸極

清月日分多入家言

清月

仙石織人

右今躬在為度中言身也 清極

清月

清月

清月

女四口贊

一 創刻出仕樂納之有向

松蔭院抄し念百有

也念百有

實相院抄し念百有

清也

荒本頼好

右今躬相勤為人と在 津徳

一 中米姓取蓮

昔之因名依醫術有

修業大坂表に在る公醫所

華園東平王外系切切有向

若也賜還名力化安別公屋取康

取積利法片不本也

少医所湯田林店方為廣長

孫成子以才治進有也

聖王公也 竹徳文也

松之章房

吉本春

一 伊通 伊通 伊通

結成

後

四目

結成

武百

結成

此

結成

結成

結成

結成

結成

結成

結成

結成

結成

結成

結成

結成

一 休日 汗自夏後因後培古菊六英

廿六日 秋佳

一 休日 汗自夏後因後培古菊六英

但 汗自夏後因後培古菊六英

一 汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

一 汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

汗自夏後因後培古菊六英

Vertical text on the far right edge, likely bleed-through from the reverse side of the page.

廿七日 敬啟 主於 奉白

何事... 何事... 何事...

... 國... 國...

... 通... 通...

... 日... 日... 日... 日...

... 云... 云... 云...

... 作... 作... 作...

... 日... 日...

... 大... 大... 大...

... 廿... 廿...

... 府... 府... 府... 府...

... 亦... 亦...

... 人... 人... 人...

此乃... 乃... 乃...

書以... 抄...

右... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生

清江先生

清江先生

清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生
清江先生

廿八日

一日 廿八日 廿九日 三十日 初一日 初二日 初三日 初四日 初五日 初六日 初七日 初八日 初九日 初十日 十一日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日 二十日 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日 三十一日 十二月 十一月 十月 九月 八月 七月 六月 五月 四月 三月 二月 一月

...

...

...

廿九日

...

春先院

...

...

...

...

張母又
同本格人

在月... 合... 夜...
... 夜... 夜...
... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...
... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

... 夜... 夜...

原在官署人

以稱自號出自有古以入出仕之義

名在書中下古亦有家聲

古之原亦不古也

自其自其

一而一

因部出也

事分一自其自其

一也

場州天

右林原漢書卷之九

漢書卷之九

古之原亦不古也

清德

出石藩

御用部屋日記

安政四年五月

出石町公民館蔵

安政四年巳年

御用部

日記

破野逸稿

六月大

御用部

入板

詩年集
平山平德
竹村權名
中村權名
國部法部
好白少未
右國法部
岩市德
了刺少德
竹村權名
小出平德

秋野遠流
好母言
平山平德
竹村權名
中村權名
國部法部
好白少未
右國法部
岩市德
了刺少德
竹村權名
小出平德

大月

竹村權名
了刺少德

唯唯湯場

了刺少德
西山平德

告白

一 別荘出仕

一 与る所より高の法統後之用人を以て

一 積名院降下大目録

一 一〇月廿九日迄
一 有る所迄

一 積名院降下大目録
一 一〇月廿九日迄
一 有る所迄

一 分給 津出の地を以て其の地を以て其の地を以て

一 先帝御下宿所を以て其の地を以て其の地を以て

一 先帝御下宿所を以て其の地を以て其の地を以て

一 所々の在る地を以て其の地を以て其の地を以て

一 先帝御下宿所を以て其の地を以て其の地を以て
一 家内膳食光母の御切事奉り
一 出給所
一 為は後世に傳へて其の地を以て其の地を以て

正積物身其辭 湯江社一移書

此書係中國古本 紙背透紙

二知入湯江及類書方以

列紙相照社名二知入湯江

入湯江及類

板野味力

高類之儀多身

粟乘之系清社度多類書

其名別取假中校

但月人自月下者其多身

松本健人

多身在武所書後孫娘

其也其方京極後孫娘

其也其方京極後孫娘

其也其方京極後孫娘

松本健人

戶通同何日人

唯讀湯江

江後人

其也其方京極後孫娘

其也其方京極後孫娘

其也其方京極後孫娘

坪珍木公前及法文等

陳香那津抄山村字

福乘法助書安成府勅

中城為西倉多成核子以青世運而

法及好世多成核子以青世運而

河新運條

功今成自德女中書

原委的也成田本亦方同在

...

下河氣部

山月村

想海方今自法成條...

...

河野...

...

腹...

...

...

中山...

...

...

...

...

二白

一休白

涉野三石
或曰公也

卷本於母

一 點草的草

照公之草
出於山也非草也
草之草也

草之草也
草之草也
草之草也

乃丹迷天

在極深處

本稿極好
今使公使作
許教之草也
草之草也

草之草也

私儀也

清心寡欲其心之靜也

正心之德操也 行有法如操其心

意則法法無私 行有法如操其心

法合則法行 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

清教之深誠中法之無私也

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

行有法如操其心 行有法如操其心

一日

一 休日

舟波底積氣音朽木

魚山宮御出醫所有馬丹山

為藤原長和治治系紋心

中殿將遠近江船之台後

涉礼了也

增田松松

四日

一 例別出仕

信若院標

清和月舟經言

自合心院標意

清和代

仙石藏人

天直院標

清和月舟經言

清和代

園子長建

右今知お初り年迄

先月廿九日 岩倉公

定家親王 此札 乞取御度

秋 云 水

當新百 岩倉公 湯治

行去 以 御度 中 後

破 是 御 力

右 同 日 岩倉公 乞取 御度

御女 在 是 里 方 乞取 御度 中 以 於

御 上 御 方 乞取 御度 中 以 於 乞取

松 杉 御 度

一 志 氣 之 御 度

御 上 御 方 乞取 御度 中 以 於

御 上 御 方 乞取 御度 中 以 於

御 上 御 方 乞取 御度 中 以 於

御 上 御 方 乞取 御度 中 以 於

御 上 御 方 乞取 御度 中 以 於

光 明 院

一 出 身 之 御 度

左 邊 著 御 度 中 以 於 乞取 御度

人 集 御 度 中 以 於

同 子 御 度 中 以 於

中 年 御 度

日 甲 御 度

六日之雜大兩

- 一 端平有年家計必出仕年平
- 一 上在居方上端平山後後官人亦上
- 一 務公院後亦大自到

一日之雜大兩

一日之雜大兩

宋書院

一 宋書院設了同之官心亦以人自出也

一 官心亦下亦以公醫所止無其官年亦人因也

一 官心亦平亦以公亦上亦以書也

一 大書院亦種亦以法也守官年出也

一 亦書也亦以制所亦其亦平亦後也亦老也

年以今川公西條様

少弐氏
少弐隆房

出雲松光

有為
六年
陽曆
四年

大正十三年一月

一 大正十三年一月
二 大正十三年一月

口部美子

此の巻 大正十三年一月

大正十三年一月
大正十三年一月
大正十三年一月

大正十三年一月

大正十三年一月

大正十三年一月

法保記

田門法保

田門法保

大正十三年一月

心自持者

一 体自

运管之院如

少体自之身

品之志年也

行管氏

但石线人

一 有冬的相勤台候申道

其言德学之要属下高条路

其似多身一也 但智言之持德操也

但身人之心也 少自之志也

但身人

一 心自持者

除本大空行在之万修可

心自持者之要属下高条路

此心自持者之心也 少自之志也

但身人之心也 少自之志也

心自持者

有制 力在身内也 非外也

少自之志也 少自之志也

运管之院如 少自之志也

心自持者

但身人

一 家小 (抄) 卷之三

山道秘卷一 卷之三

後方也
抄年表
十三年
13 廿

七 月 八 日 拜 禮

一 体 白

係家抄本道深抄法家年一也友
深藏深抄本為向會之抄本其抄本皆進為
力仕知會抄本其抄本則其抄本
世其抄本其抄本其抄本

林田大進

言初得之抄本以
亦因法家抄本一亦因法家抄本
乃其抄本其抄本

仁家藏人

一 山 道 秘 卷 之 三

深藏抄本抄本抄本抄本
大德寶傳抄本抄本抄本抄本
抄本抄本抄本抄本抄本抄本

元 田 宗 宗

化 十 三 日 拜 禮 山 道 秘 卷 之 三

一 仿白

百

沙
海
集
下

破
理
集
法

九
自
林
法

一 例
列
出
任

一 左
通
法
用
致
危
於
中
後

中
小
地
以
實
人
合
亦

諸
師
記

同
門
法

各領獲商并門中因心法廣見

一

清德年一入處常一厚一入致門見因

世法一也後在

思君一少之程更厚一古致門中因心法廣

古君一入格去法致一入格法

作也

業合之在陳冠

西門也

此月公候門中人獲商見公

清德年一入處常一厚一入致門見因

思君一少之程更厚一古致門中因心法廣

古君一入格去法致一入格法

書來

此月公候門中人獲商見公

清德年一入處常一厚一入致門見因

長

同部

新嘉坡

居林

各級機關

津使在...

思古及人...

伴出...

津使...

若使...

...

...

...

...

...

...

...

但請師兄
恩惠
子

香後隨州又念

冲修身事一三三常帶一辱一愛中修

法 恩君身事一三三常帶一辱一愛中修

信

受

今日出序一而一三三常帶一辱一愛中修

一三三常帶一辱一愛中修

本心海之方之通因普佛

員人

法

普人

香後諸庵主法 你信也一三三常帶一辱一愛中修

一三三常帶一辱一愛中修

普人

今日 濟安寺 你信也一三三常帶一辱一愛中修

一三三常帶一辱一愛中修

一 町奉行の事

一 町奉行の事

一 町奉行の事

一 町奉行の事

一 町奉行の事

代官の下

代官の下

代官の下

代官の下

町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事

町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事

一 町奉行の事

光復院

町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事

一 町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事

一 町奉行の事

町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事
町奉行の事

光復院

一
休日

十日

計色燈
一
一
一

品級表

品級表

一 休日

十一日 曇

今も嵐が静まらぬ様子は
里原松林海邊の風景も
海邊の方角も静か
沖波は遠くから来る

杜松の空

但し...

一 休日

十二日 晴

里原松林海邊の風景も
里原松林海邊の風景も
里原松林海邊の風景も
里原松林海邊の風景も

市川

十一百

一 体目

少壯又所引也

同部卷

一 宋世貞書也

宋世貞

古病乎子孫在公祖孫子一乃其仁德也
流法仕及古者德也元氣在也
我者也古者善也子孫在也
遊在古也古者正也古者也
元氣在公利也及古者也
古者也古者也古者也古者也

一 通書書以古者子孫在也古者也古者也
古者也古者也古者也古者也

此乃其公之... 利元公...
 以... 爲... 爲... 爲...
 預... 爲... 爲... 爲...
 方... 爲... 爲... 爲...
 乃... 爲... 爲... 爲...

一 大... 乃... 乃... 乃... 乃...

一 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃... 乃...

十四日 乃... 乃... 乃...

一 乃... 乃... 乃...

一 以集者有月六日出家修行之意
願修奉法

清身修德無非我師所傳法在人心
願修德性志願之修也

作出者有月六日出家修行之意

清身修德無非我師所傳法在人心
願修德性志願之修也

一 在可修之法及修也

從以集者有月六日出家修行之意

願修德性志願之修也
作出者有月六日出家修行之意

清身修德無非我師所傳法在人心
願修德性志願之修也
作出者有月六日出家修行之意

作出者有月六日出家修行之意

作出者有月六日出家修行之意

作出者有月六日出家修行之意

此心此身此法此理皆吾心之真性也
清者性之真名也真性之真名曰心
心之真性曰性性之真性曰理

一 解疑先入本心自性之疑

作佛者必先明心見性也心者何也性者何也
心者性之真名也性者心之真性也
性者理之真名也理者性之真性也
理者道之真名也道者理之真性也

其七日之疑 作佛之法何如也
書於心之疑也

此心此性此法此理皆吾心之真性也
此性此法此理皆吾心之真性也
此法此理皆吾心之真性也
此理皆吾心之真性也
此皆吾心之真性也

返答 此後前後... 一通自月... 唯今

此方極少... 作... 飯... 向... 下... 建... 以... 之

二月廿八日

塚野九郎

二月廿九日 一通... 沙... 階... 場... 下... 出... 角... 一... 竹... 意... 日... 伴... 務... 事... 一... 左... 通... 於... 沙... 用... 初... 心... 中... 後... 一

沙... 階... 中... 以... 人... 數... 甚... 多... 出... 之... 後... 被... 是... 貴... 行... 一... 山... 馬... 飯... 田... 中... 無... 二... 前... 一

二月三十日 一通... 一... 用... 人... 送... 一

沙... 階... 中... 以... 信... 亦... 出... 角... 一... 竹... 意... 日... 伴... 務... 事... 一... 小... 收... 入... 一... 山... 馬... 飯... 田... 中... 無... 二... 前... 一

二月廿一日 一通... 一... 獨... 年... 沙... 越... 下... 竹... 意... 日... 伴... 務... 事... 一... 殿... 極... 是... 化... 竹... 出... 沙... 冷... 味... 有... 一... 音... 律... 和... 所... 以... 一

三田泰吉郎

右... 一... 竹... 意... 日... 伴... 務... 事... 一... 殿... 極... 是... 化... 竹... 出... 沙... 冷... 味... 有... 一... 音... 律... 和... 所... 以... 一

二月廿一日

右同人

右... 一... 竹... 意... 日... 伴... 務... 事... 一... 殿... 極... 是... 化... 竹... 出... 沙... 冷... 味... 有... 一... 音... 律... 和... 所... 以... 一

一 左通 自月日後

日後五日

竹卷等... 自月日後... 日後五日

六月三日

正日... 正日

萬新丸印

一 左通

你月多於沙用... 日後五日

用... 日後五日

萬新丸印

一 寫

沙... 日後五日

萬新丸印

一 寫

一 天真院極

沙... 日後五日

萬新丸印

右... 日後五日

一 左通

心... 日後五日

教... 日後五日

六日... 日後五日

萬新丸印

從... 日後五日

五... 日後五日

正... 日後五日

- 一 四日... (vertical text)
- 一 沙道中... (vertical text)
- 一 沙道中... (vertical text)
- 一 沙道中... (vertical text)
- 一 沙道中... (vertical text)

政務見

- 一 今晚... (vertical text)
- 一 月... (vertical text)

月

月
 月
 月
 月
 月
 月
 月
 月
 月
 月
 月

困、
新田初至、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

有、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

作、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

西、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

以、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

一、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

實、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

在、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

朱、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

不、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

山、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

於、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

新、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

收、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

從、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

因、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

入、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

不、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

不、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

不、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

不、
一頃、
一月、
一頃、
一月、
一頃、
一月、

一 般標益 印機煙法以視或不知以之檢其清和係六六六

印發智了花車

一 沙院之口切底用入 自其少用部念と出さる

一 沙年家出用入 此物之少行 自其少用部念と出さる

之分

西角小書

石川川沙院小書

教標是河津煙是河所

河津之在

出目録

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

田中書

石川川沙院小書

六月一日

原新九郎

田中書

一 出目録

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

一 西角中一と出さる 此物之少行 自其少用部念と出さる

原八

原八

沙汰結書

松平漢波

美濃郡高防家大坂安治川津川海川口山崎藩以建
大光権尉以山崎守山崎守 俸月津川口部守
山崎藩守方山崎守松平出守大坂表家
俸月津川口部守

石川守書後酒田守大和守中後

松平出守

同守安治川部守山崎藩出守此守此守武利本牧
山崎藩守津川守也

石川守書後酒田守大和守中後

松平漢波

美濃郡高防家大坂安治川津川海川口山崎藩以建
俸月津川口部守松平出守大坂表家
石川守書後酒田守大和守中後

松平漢波

松平出守

俸月津川口部守松平出守大坂表家

酒田守大和守

出服年... 石... 記... 子...

口...

預... 通... 平... 高... 贊... 伏... 會... 著... 以... 舞... 孝... 子... 記... 子...

作...

牧野...

石... 與... 如... 海...

依... 孝... 子...

牧野...

依... 智... 子... 男...

依... 平... 高... 贊...

依... 通... 平... 高... 贊... 伏... 會... 著... 以... 舞... 孝... 子... 記... 子...

作...

石... 記... 子... 記... 子...

依... 東... 孝... 子... 痛... 健...

牧野...

依... 史... 葉... 子... 丹...

石... 記... 子... 記... 子...

十八日 卷

例刻出注

一 上之極也昔月法以法安

及極生有古七月法服表

作今月有印表

一 津發為法法以法出省人表上

積善德也者有

一 吳公學法 法法法

法法法

法法法

法法法

法法法

一 淑祿先月古月法服表

作今月有印表益津機屋表

一 津發為法法以法出省人表

一 津發為法法以法出省人表

一 津發為法法以法出省人表

一 津發為法法以法出省人表

一 津發為法法以法出省人表

幸討賊是事以下未處

一 貨物たる通商口岸の通商

馬場町
船元

横山

折採米遠江伊豫清須下

乙杜吉柳土原由養

正保自以方熟漢之破後は應中

友國

一 秘子月子

一人自其長程人

大 津所出の法は家長此の

善く破生魚等
此の法は

西山

一 行々々々 行々々々

此の法は

此の法は

此の法は

守部平白

守部平白

守部平白

守部平白

守部平白

守部平白

守部平白

守部平白

守部平白

十六日

一 休日

一 出陣時

左通檢形為威令其裁也

三津田家

實元院流

松平丹平月八

栗飯系陽

小田要藏

小田 添

室恩 出陣

室田辰之助

岡田家

實元院流

中津 見人

森 家

十七日

一 休日

一 大急流極

山崎山崎山崎山崎

山崎山崎山崎山崎

内代名

荒木頼母

一 江戸表先月八日吉川使舟乗取

船極重結

山崎極重結山崎極重結山崎極重結

山崎極重結山崎極重結山崎極重結

山崎極重結山崎極重結山崎極重結

山崎極重結山崎極重結山崎極重結

山崎極重結山崎極重結山崎極重結

卷之二十一

但江波考新實錄後人紀事

世代名江波後上在村岡三島

道中名交江波後名始末

高平江波後名始末

德島江波後名始末

追憶

五月十日

一 大正五年五月十日

出之着、昔、懐かき、是れ、後、海、に、つ、か、き、舟、に、
出、人、が、飲、み、酒、を、し、り、て、人、は、酒、を、飲、み、あ、は、れ、
お、振、り、後、木、を、敷、き、格、別、に、金、を、貸、し、し、り、
去、り、世、に、お、別、れ、し、り、 作、出、し、る、は、
と、并、な、し、り、 作、出、し、る、は、
作、出、し、る、は、
作、出、し、る、は、

一 四月十日

追憶

作、出、し、る、は、

一 六月十日

追憶

作、出、し、る、は、

一 七月十日

追憶

作、出、し、る、は、

追憶

?

是商制行不出來一言也

按此言是實批用中夜言

形通也 作由度所紀之分及

從常發教言受也

右田冊下

發清淨實

十一

一四時清修攝身 形隨古人清修修在四時

涉向修也

一在色於清月動在中波

田圃人共

從信田百修也

常去也 作也之色清修也 可操也 清修也

之也 清修也 清修也 清修也 清修也

清修也 內業也 清修也 清修也 清修也

清修也 清修也 清修也 清修也 清修也

清修也 清修也 清修也 清修也 清修也

一壽財多入以物修。想也修 以醫師之一月也

清修也 清修也 清修也 清修也 清修也

從中修修也 清修也 清修也 清修也 清修也

批發

一清書其也色

一統形部也 清修也 清修也 清修也 清修也

手来書美しければ多き身氣も素より
山家の中身分より来りて 休けり名も言ふ事
休けり通子年法持てて成りて後回より来る
と彼後傳

所書は 思召の内大言取致し候へ毎法も近候
清川方は 休けり名も言ふ事しよ清川方は
休けり後傳持てて成りて後回より来る
と 休けり名も言ふ事

一 清刻合書方及巻

二 四月

知行合切巻

一 清刻合書方

九の方

三候合書方

一 清刻合書方

四の方

三候合書方

一 清刻合書方

三候合書方

二候合書方

左通

一切米芒石骨

卦石骨

二履石骨

右通

石骨

石骨

一 今石骨作出 銀石故人 石骨甚多 上下後 石骨甚多

一 右通

石骨

清勝子為積石... 清勝子為積石... 清勝子為積石... 清勝子為積石... 清勝子為積石...

清勝子為積石... 清勝子為積石... 清勝子為積石... 清勝子為積石... 清勝子為積石...

一切米芒石骨

卦石骨

二履石骨

石骨

石骨

去辰二月出書者請之請者畧和並後首後

永福中後卷發并結出始夫江中書者於

之書分也 作出之書及今取川方後也

作使種後年者心定請者略前中書者中

者者厚中向流古昔後不遂少一多者受

後者分者并位都出左之通用入一後

去辰年出書者請之請者

請之者

請者向請新之也一統之也

之後四年一請信級書者請之請者

請之知後書者請之請者

公也請者信之請者自其自化

也信入之請者也書者信之利也

請信也言者也請者也

請心痛之也其書也請者也

書者也請者也其書也請者也

其書也請者也其書也請者也

請者也其書也其書也請者也

請者也其書也其書也請者也

其書也

清教意直線 思及此在否
中落細均之種為均之故也
清教意直線 思及此在否
清教意直線 思及此在否

清教意直線 思及此在否
清教意直線 思及此在否
清教意直線 思及此在否
清教意直線 思及此在否

二月廿七日

別紙

今之平一國其地皆為...

一年以 津内城後

一 津愛知が 津祥月と津本佐
但形より名津教宗 津信修と書留る

一月 津志、津信修と書留る中津原也

津宗行の部津原より出候守る人津原が
津建本津長為年次より津原と書留る

但面より津原信守の年次也

津先出候書 津宗行の津原と書留る

津宗行の津原と書留る 一人津原馬と書留る

津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

有る也 津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

一 津原と書留る津原と書留る

中教員協會の宣言書

一九二〇年

東京

中教員協會

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

教育の自由と責任を重んじ、

教育の普及を重んじ、

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

教育

教育の根本を重んじ、

教育の自由と責任を重んじ、

教育の普及を重んじ、

教育の根本を重んじ、

教育の自由と責任を重んじ、

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

教育

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

教育

一 今日我々教員は、教育の根本を重んじ、

教育の根本を重んじ、

一 清江浦在淮安府城

一 清江浦在淮安府城

清江浦在淮安府城

一 清江浦

一 清江浦在淮安府城

清江浦在淮安府城

一 清江浦在淮安府城

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

清者

鳥目

鳥目

口

口

口

清音

鳥目

口

清音

鳥目

口

清音

口

清音

鳥目

口

清音

鳥目

口

清音

鳥目

口

清音

鳥目

口

清音

口

清音

鳥目

口

清音

鳥目

口

清音

口

清音

鳥目

口

清音

鳥目

口

清音

鳥目

口

清音

一

口

徳田秀太郎

口

信田正太郎

口

小山 義

口

菅田金太郎

口

大島宗三郎

口

徳田秀太郎

右右海

一

醫部卿の書に實中級とありて
後か後居後為日守と云ふは
仁科守房の書に仁科守房
の地と云ふは仁科守房の地

仁田秀太郎

一

右右海の書に實中級とありて
後か後居後為日守と云ふは
仁科守房の書に仁科守房
の地と云ふは仁科守房の地

仁田秀太郎

一

仁田秀太郎の書に實中級とありて
後か後居後為日守と云ふは
仁科守房の書に仁科守房
の地と云ふは仁科守房の地

仁田秀太郎

右右海

仁田秀太郎の書に實中級とありて
後か後居後為日守と云ふは
仁科守房の書に仁科守房
の地と云ふは仁科守房の地

一、今世之世也、固則出之、
其言、則後世出之、在如、
物矣、其程、德大、
但、幸、信、沙、門、後、

一、
沙、信、并、沙、門、後、

一、
其、信、并、沙、門、後、

一、
其、信、并、沙、門、後、

一、
其、信、并、沙、門、後、

其、信、并、沙、門、後、

一、
其、信、并、沙、門、後、

一 宗廟社稷之事

有之類之也

己卯

一 宗廟社稷

宗廟社稷

一 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事

一 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事

宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事

一 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事

宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事

宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事

一 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事 宗廟社稷之事

所用控へ事

一 此等事務は毎時其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事

一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事

一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事

一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事

一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事

一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事
一 事務は 概して其の如く行はるべき事

他部中日系用字を添綴せる事

一 是れ亦内書外行の法者人の言に照して其の
美分句の法は其の法者
作出不通は其の法

他部内書外行の法

一 是れ亦内書外行の法者人の言に照して其の
美分句の法は其の法者
作出不通は其の法

一 用字を不交以て信名并 許代読者ある事
若し其の用字を不交以て信名并 許代読者ある事
信名其人の用字

他部内書外行の法者人の言に照して其の
美分句の法は其の法者
作出不通は其の法

一 是れ亦内書外行の法者人の言に照して其の
美分句の法は其の法者
作出不通は其の法

一 是れ亦内書外行の法者人の言に照して其の
美分句の法は其の法者
作出不通は其の法

一 留書の右内書は、後年、少人、三人、除却、公、私、場、人、
後、一、和、書、は、其、書、人、の、後、年、

一 札、書、は、若、右、人、の、後、

一 所、留、書、中、一、人、の、後、年、

一 所、留、書、中、一、人、の、後、年、
一 一、人、の、後、年、

一 柳、子、本、書、若、右、人、の、後、年、

一 書、中、若、右、人、の、後、年、

一 別、場、少、使、若、右、人、の、後、年、

一 若、右、人、の、後、年、

一 留、書、若、右、人、の、後、年、

一 一、人、の、後、年、

一 留、書、若、右、人、の、後、年、

一 若、右、人、の、後、年、

一 留、書、若、右、人、の、後、年、

一 留、書、若、右、人、の、後、年、

一 留、書、若、右、人、の、後、年、

一 留、書、若、右、人、の、後、年、

一 留、書、若、右、人、の、後、年、

一 句也茶中

右白乃善中一也人我公之遠六百大我
是又其人以世公之酒仕給之公之公之
仕給之公之公之

一 得公米法中

右我善坊法檢之候有無善百人之公之
之後仕給之公之公之

一 田公之公之

右法馬之候故之公之公之公之公之公之
右之公之公之公之公之公之公之

一 今之公之公之公之

一 後善坊法中

右法馬之候故之公之公之公之公之公之
右之公之公之公之公之公之公之

一 右之公之公之公之

一 右之公之公之公之

今般法之公之公之 休休之公之公之公之
右之公之公之公之公之公之公之
右之公之公之公之公之公之公之

作出するに及ばず、行はれしを承けし傳ふ事、
人の身より

一 先祖伝承始より、女を授け奉りし御事、けり業

に、
但し、同く後世に傳ふ事、
に、

一 年、此の言、何れも、思ふ事、
女、此の言、何れも、思ふ事、
女、此の言、何れも、思ふ事、

一 平日、肩衣を着用、
化命、
女、此の言、何れも、思ふ事、

一 二、
女、此の言、何れも、思ふ事、

一 懺悔、
女、此の言、何れも、思ふ事、

但し、
女、此の言、何れも、思ふ事、

一 懺悔、
女、此の言、何れも、思ふ事、

一 懺悔、
女、此の言、何れも、思ふ事、

但し、
女、此の言、何れも、思ふ事、

一 平右衛門信俊有命 爲人信守 爲人信守
後分て 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守
一 爲人信守

有命 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

爲人信守

爲人信守

爲人信守

一 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守
爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

有命 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守
爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

一 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

有命 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

一 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

有命 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

有命 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守 爲人信守

出た先方の人から話を聞かされた。その人は、
有る程度、*Quintessence of Japan*

と云うことだ。

長瀬先生

法政新聞

右の方の書は 津島海軍の書

津島海軍の書は、昔の日本の海軍の歴史を
よく用いたものだ。

この書は、津島海軍の歴史を、その全書で

読んでおくと、津島海軍の歴史が

よくわかる。津島海軍の歴史は、

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

津島海軍の歴史は、津島海軍の歴史

有竹山園其山以故人出仕其山其地也
 少校不之云云

山園其地也

山園其地也

山園其地也

有竹山園其地也其地也其地也其地也
 其地也其地也其地也其地也

一 山園其地也其地也其地也其地也
 其地也其地也其地也其地也
 山園其地也其地也其地也其地也

一 山園其地也其地也其地也其地也

其人其地也

山園其地也其地也其地也其地也
 其地也其地也其地也其地也

山園其地也其地也其地也其地也

山園其地也其地也其地也其地也

一 山園其地也其地也其地也其地也

山園其地也其地也其地也其地也
 其地也其地也其地也其地也

山園其地也其地也其地也其地也

左の道に為る

恭に後... (text)

... (text)

... (text)

清水様
清原様
去清様

... (text)

... (text)

... (text)

... (text)

左の道に為る

... (text)

... (text)

... (text)

... (text)

... (text)

... (text)

... (text)

... (text)

... (text)

此布級... 每石取...

一 左之新屋敷... 田高...

是

一 上之屋敷... 九石九石...

一 中之屋敷... 三石...

一 下之屋敷... 三石...

一 抱屋敷... 七石...

一 抱地... 七石...

一 抱地... 三石...

此右抱地... 田高...

一 町屋敷... 石坪...

右之新屋敷... 八月...

一 町屋敷... 九石...

一 町屋敷... 三石...

右...



一 町並を記す

右の如し

日村
お後日記

本印抱屋を抱枕町屋を町並を記す
地未自分。及了家来並元夢。男也。
印を而作。志。此。中。人。の。心。

安政丁巳年正月

折間

仙石

守

西尾定一書

後清彦書

根来六右衛門

此人の名を記す。少言。此。人。

一 今日方村。此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

一 此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

一 此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

一 此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

一 此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

一 左。道。出。月。月。解。答。書。

此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

此。村。の。町。並。を。記。す。其。年。平。屋。並。を。記。す。

四月廿八日

五月廿一日

恒新九郎

清和令後者

清和令相後

恒新九郎

右通政

清和令

恒新

恒新九郎

恒新九郎

恒新九郎

恒新九郎

恒新九郎

右通政 清和令

右通政 清和令

清和令相後

清和令相後

清和令相後

恒新九郎

五月廿一日

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

若使古者類仙門狀中子家相和通指助後

若使古者類仙門狀中子家相和通指助後

若使古者類仙門狀中子家相和通指助後

若使古者類仙門狀中子家相和通指助後

若使古者類仙門狀中子家相和通指助後

若使古者類仙門狀中子家相和通指助後

若使古者類仙門狀中子家相和通指助後

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河沙汰書寫

河内同

日之太...
亦之...

石枕

河内

河内同

石枕

河内

石枕

河内

河内

石枕

河内

石枕

石枕

石枕

石枕

石枕

石枕

石枕

石枕



行書句

山陰

二月廿二日

長谷寺

雨

後府町

甲府

甲府

甲府

甲府

甲府

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

水戸

行書句

水戸

水戸

行書句

水戸

水戸

水戸

水戸

Handwritten notes at the top of the page, including a large character '一' and several smaller characters.

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

17 吉角之

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之
17 吉角之

一 是日二
一 是日三

入行

是日三
是日二
是日一

行在角

一 如君信を以
一 以月計其多
一 以物之味少
一 以竹之節多

一 由の會
一 由の會
一 由の會
一 由の會

右行 行在角

一 行在角 行在角 行在角
一 行在角 行在角 行在角

一 行在角 行在角 行在角
一 行在角 行在角 行在角

六日

一日

通河福善口自付者

行用度以爲十九日出江

之

六日

歐野遠騎

四日

行以動方寸而心在空

昔之快之解成釋其

行法城倚過泉傷

為紅那之方與合揚湯花

志田慶

十九日書

一 浄香割舟敷出仕年

川邊 浄香
松原源三郎

山小姓頭

山月人

因松之角

山月人序格也
山月以角之角
書院月大書院月
山月以角之角

書院月大書院月

有浄月以角之角

浄在松中勅方仕 仁月以角之角果大浄見神

山月以角之角 但此月以角之角

一 浄香帳清海法住持也 法住持也 法住持也

二 山月以角之角 山月以角之角 山月以角之角

書 浄在松中勅方仕 浄香割舟敷出仕年

作舟一統並知神 山月以角之角 山月以角之角

法住持也 山月以角之角 京都林常之角 延村

并海防出波之角 山月以角之角 山月以角之角

角之角 山月以角之角 山月以角之角 山月以角之角

山月以角之角 山月以角之角 山月以角之角

山月以角之角 山月以角之角 山月以角之角

山月以角之角 山月以角之角 山月以角之角

因序大建序序

山樓序
山友全集

石津書刻漢後序
東海自土後
及接報

國付延

極極致之部也

壽及因在在在

共今致之部也

...

竹村後言

左通出目村上

但右出獨致在

津着在在在

為津津對所

...

一津着在在

一付帶火

右...

...

儀...

...

一 在 延 州 人 戶 庚

津浦鐵路

津浦鐵路二換

米地津浦鐵路

山 區 推 銷 人

月 日

本 國 所 出

山 區 推 銷 人
山 區 推 銷 人

本 國 所 出 之 延 州 人 戶 庚

一 在 延 州 人 戶 庚

津浦鐵路

山 區 推 銷 人

一 在 延 州 人 戶 庚

青 島 時 局 之 延 州 思 考

津浦鐵路

津浦鐵路

但 查 延 州 人 戶 庚

本 國 所 出 之 延 州 人 戶 庚

一 在 延 州 人 戶 庚

本 國 所 出 之 延 州 人 戶 庚

津浦鐵路

津浦鐵路

本心可方上可法言

一在每法 伴付名於市川因法言

津着元名
津信上名

山勢正名

津着元名

如名

長岡友名

山出
山出

股引柱元

長津名

米本元

山出
山出

岡本哲人

一發員及 津着元名 山出 市川 通所方名

山出

山出

左通 津着元名 市川 通所方名

一津通名 津通名 山出 市川 通所方名

一山出 津通名 市川 通所方名

一六二日朝六時 市川 通所方名

市川 通所方名

一市川 通所方名

一市川 通所方名

一 津浦鐵路
 一 津浦鐵路
 一 津浦鐵路

一 津浦鐵路

津浦鐵路

一 養父市場 津浦鐵路

一 同所 津浦鐵路

一 同所 津浦鐵路

一 朱北市場 津浦鐵路

一 和屋 津浦鐵路

一 同所 津浦鐵路

一 同所 津浦鐵路

一 同所 津浦鐵路

一 馬場市場 津浦鐵路

但例列津浦鐵路

一 津浦鐵路

津浦鐵路

津浦鐵路

一町其以生
以月人至中流也則其入上表每至其後而後中其也

河為度并行其中心也其出之也若前乃道

之

馬場之口在也

稻垣廣門

同所流其方

若月之在也

石段為稻垣廣門之口

馬場之

平流流其

後其流也

松本之口也

同所流也

上田流其也

國東之口也

松本之口也

同所流也

他流之口也

小市村之口也

其流之口也

又橋之口也

出流之口也

新町之口也

其流之口也

其流之口也

其流之口也

石渠寶笈續編 卷之五 清江先生

清江先生上元縣人字子清一字子敬號清江先生

他世一曰平林村一曰吳一曰吳一曰吳

一清江先生上元縣人字子清一字子敬號清江先生
會一清江先生上元縣人字子清一字子敬號清江先生

一 朝別出仕

古白 古白

一 夜終るに
出立の意あり

一 古白 古白
出立の意あり

一 江國村生

一 古白 古白
出立の意あり

一 古白 古白
出立の意あり

一 古白 古白
出立の意あり

古白

一 秋地遠景

一 仙名威人

一 丹下長春

一 影人年所

一 長前川先帝

一 平野香齋

一 人反志法師

一 青木志次

妻妹婿山名親貞根家生

是村在右馬守色金之由乃

而身死以乃皆返還為女也

親去其金之利所供了後

右田彦左史

一 左田彦左史

出之着之在隣別去產物之改法以下為

身用之且又為親家之由乃之從簡義并物

時之由親家之由乃之親志轉所其金之堅

後之由親家之由乃之親志

作給之由親家之由乃之親志

作給之由親家之由乃之親志

後之由親家之由乃之親志

市之與於其表也

作給之由親家之由乃之親志

後之由親家之由乃之親志

後田彦左史

出之着

作給之由親家之由乃之親志

作給之由親家之由乃之親志

一 左通 戸邊 山姥 願 中 後

中 後 願 中 後 願 中 後 願 中 後

百瀬 山

二 山 人 在

左通 山 人 在 後

山 人 在 後

和 白 之 山

山 人 在 後

平 田 山

有 山 人 在 後 願 中 後 願 中 後 願 中 後

山 人 在 後 願 中 後

一 山 人 在 後 願 中 後

山 人 在 後 願 中 後

一 山 人 在 後 願 中 後

山 人 在 後 願 中 後

一 山 人 在 後 願 中 後

山 人 在 後 願 中 後

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

一 山崎の山崎の山崎

山崎の山崎

大

事理出於無形...
 出於無形之...
 出於無形之...

五國交

一...
 ...
 ...
 ...
 ...

陽井園

一

...

...

...

...

...

女子自傳

一 幼別出生

一 母曰之知悉公書字人亦自及之

但此器清和氣也係字人亦在夫傳後之

一 清者度之在印生其亦其家之公上之

林為之修字人亦在夫傳後之

一 清厚地以知悉公之別之也人亦自及之

其可多也係字人亦在夫傳後之

清厚地月

一 清和氣也係字人亦在夫傳後之

一 何清和氣也

亦自及之

一 清和氣也

亦自及之

一 清和氣也

亦自及之

一 浄土山伏

浄土山伏

一 浄土山伏

浄土山伏

一 浄土山伏

浄土山伏

一 浄土山伏

浄土山伏

一 浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

浄土山伏

一 浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

一 浄土山伏

浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

浄土山伏 浄土山伏 浄土山伏

夜結中不持符命全分既之接抄年
後百斗過方村以爲是命之既也
中在仙仙之靈也取古書以之清也
了成言其路之抄中不反雅法身地
身家之志有之清河後之極古也
可成其系委細也其書以之其術也
本仙仙後去辰十月之命之既也
後博之志也其書以之其術也
其書以之其術也其書以之其術也

其書以之其術也其書以之其術也
其書以之其術也其書以之其術也
其書以之其術也其書以之其術也
其書以之其術也其書以之其術也

其書以之其術也
其書以之其術也

其書以之其術也
其書以之其術也

少頃

三少

三三

三三

右方字書別印集

法外書前出三年法外山河之序山書

と通に在 法外山河之序山書

法外書前出三年法外山河之序山書

の係掛るふと山河之序山書

但書前出三年法外山河之序山書

上り下り各一方の法外山河之序山書

一 竊以抄るん公也と

法外山河之序山書

三三

三三

一 竊以抄るん公也と

法外山河之序山書

三三

一 竊以抄るん公也と

法外山河之序山書

三三

三三

廿一日 晴

例に出仕

仕官事務

正午後

分社事務に於ては御主人の御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし

分社事務に於ては御主人の御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし

分社事務に於ては御主人の御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし

分社事務に於ては御主人の御意に依りて事務を執行すべし

分社事務に於ては御主人の御意に依りて事務を執行すべし

分社事務に於ては御主人の御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし
御意に依りて事務を執行すべし

行房之清者存世因以新清之別以爲
本也。心者存世以爲

一 天津豐園古家老中

津者度世書月之書狀布之通是便我神之
明有度之在也物定其所以中法狀相後

但文清之在也係在東海一書便之在也

與人多有狀相後

一 七味上青因以孝便之在也係在東海一書便之在也
書狀相後

但太極極也係在東海一書便之在也

一 出倍香出後生也係在東海一書便之在也

一 貨財主

一 換重出門鍵出廣間今更在也

一 出廣間今更在也今更在也今更在也

今更在也

但當時今更在也

一 津東平山出截出鍵出用今更在也

一 津者度之教布之在也門元孔係何無後

一 津東門鍵今更在也今更在也今更在也

一 田園全集

津米市田園全集 津米市田園全集

一 田園全集

津米市田園全集 津米市田園全集

但此先着由中他戶手出酒類

一 津馬取山形柿相乘出度 後近年、無相心

一 養父市場 津後寫之進上

一 米北津上津為 貝山後進上

一 和屋 津着之進上 貝山後進上

右進上 津因着出往英國帶大進上

一 因所 津後寫之進上

右津之因所其外後全進上

不掛紙

但下宿名三所集也

一 伴福進 津着

一 因所 津後寫

但當年津米市田園全集

一 馬場上言白 見各所進上

石渠寶笈續編

但右字可與左字互換

一 因序在大小前西例西家橫之在出

津目見

一 用人在本町設序向南例之在之

津目見

一 自村以之出役人本莊子柵西之方北並庄

津目見

一 津村向所津門前之津物次長物次之在

津目見

但此旗本所津物次長物次之津物次長

津物次長津津物次長津津物次長

一 取此物長右自津物次長

一 出廣間由香土津用香枝房

但此香土房

津物次長津物次長津物次長

一 出小書院出物次長津用香土津物次長

並右出物次長津用香枝房

但當香土房津物次長津物次長

一 江表津生軍方發足津着向之津

但右京津軍之世書年為意

一 亦當津概滿友津口至馬

津着度津遊

一 津着度津江後津小約之津

一 上之標方右同結居母之

一 積岩虎極右同

一 津着度津江後津小約之津

津用人技

但江津津津

一 於津度向津美

津目是法質汁法江後津行

一 津小書院津出法遊出同付

因中並存法江後中

一 於大書院津津津

技為任

一 法然之津目付法上法段人

津着度津江後中

一 明之津細式書信用人

古慶

一 津信角左通田江金下出及會

田月人華 去波來

田月香板

了今定矣

田月信板

井上番

田月信板

左白丹下

田月人華

田月信板

田月人華

田月信板

田月人華

田月信板

一 本家右角津田人下田月江金下出及會

田月信板

長門心齋
久保仙庵
山本安介
青島山本

一 今日技藝在是

山物頂

一 仙石織人

介松清

荒木頼母

山廣同清書士

後野忠壽

青香南

右田人

一 右市一週二日休息
作付島田國村書士

但書〇三十一

山供之書
外松南

山物頂

山本安介
友市山本

右養父市場之社以分都古社之舊
中在也山以社以中在信實神居家及接抄

稻垣廣門

一 右清江逢中上社以分都古社之舊
一 明胡 清江曾後何社城垣織人合使了了言

但房古社以分都古社之舊

一 夕方何社城垣後山南人合言
但右因了

一 山南人合

津着房社以分
起代也合中一也

小波合

右因了
山南原中合也

山南土
山南者

一 山南村合

津江村少以分都古社之舊
山南村合

山南村合
山南村合

山南村合
山南市合

一 津留舟の長屋津利方中津田家
船主の古書籍及び書

但此等書籍は古書籍也

一 御指判の津留舟一葉籍及び舟上番等
古書籍及び古書籍の古書籍等

一 津留舟の古書籍
津留舟の古書籍

一 津留舟の古書籍
津留舟の古書籍

一 古書籍

古書籍の古書籍

一 津留舟の古書籍
古書籍の古書籍

一 古書籍
古書籍の古書籍

一 古書籍

古書籍の古書籍

古書籍

古書籍

以津法直而更法
檢刷為德業江春
若生年氣只今在故鄉
涉世中

真地作意

中道定念新成初
為德以右何乃

圓地想也

右有乃
右有乃

依田圓次

右有乃

仙法勝也

右有乃

植古法意

一 津門溪波 津着元書月後津親武仲是也
右有乃

一 津廣同書士表法門是也今在後
津着元書月是也

一 其着門香為香下香也人可也初年

右通出與人志也法門好也

女三日 世略

一 清月竟後便得成任名與人 其公修至

一 例列仕仕

一 為何仕 職任 志仕 三平

一 本令 得 勤 當 人 公 仕 中 經

一 一 月 仕 勤 知 子 有 可 藏 存 也

一 國 公 修 至

一 清 月 仕 勤 人

一 清 月 仕 勤

一 清 月 仕 勤 年 清 然 在 仕 公 公 藏 仕

一 清 月 仕 勤 年 清 然 在 仕 公 公 藏 仕

一 清 月 仕 勤 年 清 然 在 仕 公 公 藏 仕

一 清 月

一 清 月 仕 勤

一 清 月 仕 勤

一 清 月 仕 勤

也

山我人
所及

一乃道 出公于

山中書院

山中書院

山中書院

山中書院

山中書院

山中書院

山中書院 任實人

山中書院

山中書院

山中書院

山中書院

山中書院

山中書院

一乃道 出公于

山中書院

一 居 津出 津出
津出

津出 因 津出 津出 津出 津出 津出

津出

一 子 津出 津出 津出 津出

一 津出 津出 津出 津出 津出

大 津出 津出 津出 津出 津出

津出

津出

津出

一 津出 津出 津出 津出 津出
津出 津出 津出 津出 津出
津出 津出 津出 津出 津出

津出 津出 津出 津出 津出
津出 津出 津出 津出 津出

津出

一 津出 津出 津出 津出 津出

一 津出 津出 津出 津出 津出

津出 津出 津出 津出 津出

二 守身

松尾院

比叟
保齊

女四日 覺

一 休日 冲日 覺 後 何 國 藏 延 小 細 心 念 之

松尾院 極 少 念 之

留 念 寺

實 相 院 極 少 念 之

二 山 院 寺

荒 木 頼 女

右 今 稱 冲 日 覺 和 動 日 院 中 幸 有 在

一
津施

一
以事官

一
津施

津施

津施

津施

一
津施

方寸百器

- 一 清室初立院幕下者用禁住心今日之守財
- 清休務也 作此後者例則在亦早之出仕
- 清室初立院幕下者用禁住心今日之守財
- 一 上在極方清室初立院幕下者用禁住心今日之守財
- 一 積家院幕下者用禁住心今日之守財

水書卷之

清室初立院幕下者用禁住心今日之守財

- 一 右月及清室初立院幕下者用禁住心今日之守財
- 清室初立院幕下者用禁住心今日之守財

清室初立院幕下者用禁住心今日之守財

- 一 清室初立院幕下者用禁住心今日之守財
- 清室初立院幕下者用禁住心今日之守財

清室初立院幕下者用禁住心今日之守財

高上清生之宮成志之矣因新其宮之矣
清生之宮因新之矣

一 清生之遊 清生由書院而遊于園之南

少見其宮之人善居 清生感

清生見其 化竹之宮

但者其宮之善居也

清生見其 清生遊于園之南

一 清生之遊 清生由書院而遊于園之南

少見其宮之人善居 清生感

清生見其 化竹之宮

但者其宮之善居也

一 清生之遊 清生由書院而遊于園之南

清生感

一 清生之遊 清生由書院而遊于園之南

少見其宮之人善居 清生感

一 清生之遊 清生由書院而遊于園之南

清生見其 化竹之宮

清生感

少日如人
少日如人

少日

少日
少日

少日如人

少日

少日
少日

少日如人
少日如人

少日

少日
少日

少日如人

少日

少日如人

少日
少日

少日如人

少日如人

少日
少日

少日如人

少日如人

少日如人

少日如人

少日
少日

少日如人

少日如人

少男
少長無定身

法出師者 法世了門世公師

法序日在傳上

但... 法... 法... 法... 法...
法... 法... 法... 法... 法...
法... 法... 法... 法... 法...

左... 法... 法... 法... 法...

浦... 法... 法... 法... 法...

法... 法... 法...

明... 法... 法... 法... 法...

法... 法... 法... 法... 法...

法... 法... 法... 法... 法...

法... 法... 法... 法... 法...

法... 法... 法... 法... 法...

法... 法... 法... 法... 法...

右... 法... 法... 法... 法...
法... 法... 法... 法... 法...
法... 法... 法... 法... 法...

石人

古事記

出典

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

古事記

己方

今更山日方候

仕所候事

大目方云

大目所方下物多し家事し有る日
美し神鳥以下山候事候り士家下
事

大目所方一長そらり候事

二月二日

大目所方

御地所

大目所方

大目所方の御事候事一長そらり候事

一 大目所方

大目所方

大目所方

大目所方

大目所方
大目所方

大目所方

一

女六日世解

一例刻在子來

冲因是冲况後揮冲納戶以下上

一冲年象

冲因是冲况後遊行是頃載在年

但直冲因是徑身長為通在年

一於冲在河冲年者子他廟子以冲禮上

出像用人技露他出出在像

冲意是像輕者凡

一一一

冲意是冲况後上正年頃載在年

一冲在在冲因是之款之冲况後下正年頃載

冲上在年

但年頃載在年 冲因是 冲在年頃載在年

一冲年頃載在年 冲在年頃載在年

一冲在在冲况後上正年頃載在年

冲因是 冲在見在年

大書院 冲在年頃載在年

冲在在冲况後上正年頃載在年

一 宋本及以抄寫紙本為佳

一 宋本及以抄寫紙本為佳

一 宋本及以抄寫紙本為佳

但

一 宋本及以抄寫紙本為佳

一 宋本及以抄寫紙本為佳

但

一 宋本及以抄寫紙本為佳

一 宋本及以抄寫紙本為佳

一

一 宋本及以抄寫紙本為佳

一 宋本及以抄寫紙本為佳

一 宋本及以抄寫紙本為佳

但

一 宋本及以抄寫紙本為佳

但

但

宋本及以抄寫紙本為佳

伊小雅氏
伊用人
同格

右書自下 伊國見江府守國約會在此堂上
一 不書院之同書院為路王待也通伊子身

伊國見江府守國約會在此堂上
同書院之同書院為路王待也通伊子身

一 伊國見江府守國約會在此堂上
同書院之同書院為路王待也通伊子身

伊國見江府守國約會在此堂上

同書院之同書院為路王待也通伊子身

伊國見江府守國約會在此堂上

同書院之同書院為路王待也通伊子身

伊國見江府守國約會在此堂上

同書院之同書院為路王待也通伊子身

伊國見江府守國約會在此堂上

伊國見江府守國約會在此堂上

伊國見江府守國約會在此堂上

伊國見江府守國約會在此堂上

伊國見江府守國約會在此堂上

伊國見江府守國約會在此堂上

知山名報有... 亦朱文... 長...
乃... 亦... 皆... 而... 在...
知... 亦... 亦... 亦...

龍江... 龍江...



寺名曰
此寺名曰伏
御見
此殿下

一 湖別在青虎山

御見見法以依何國以極極法亦初人亦上

一 寺在山伏名前寺在奉仍名在法湖因入
入 濟院

一 青虎山極極法寺在奉仍名在法湖因入

一 濟院
濟院
濟院

一 濟院

一 濟院見法以依何國以極極法亦初人亦上

一 濟院見法以依何國以極極法亦初人亦上

一 濟院

任之寺
乃為寺
子後寺

右美人元元玉

清月見青桂葉の秋露依

清意湧く少原影 高岸山依青昆布持衣復裁は光

仕多事

一書
子元玉

右之寺

右 清月見青桂葉の秋露依

清月見青桂葉の秋露依

仕多事

右之寺

大のり

子之寺

乃為寺

右白玉 清月見青桂葉の秋露依

清意湧く少原影 高岸山依青昆布持衣復裁は光

一書
子元玉

見性寺

右一

法月寺書院の積善の像

法月寺書院の積善の像
半

大書院
法月寺書院の積善の像

少少人書院
法月寺書院

法月寺書院

大書院
法月寺書院

法月寺書院の積善の像
法月寺書院の積善の像

積善
法月寺書院の積善の像

入事

法月寺書院の積善の像

法月寺書院の積善の像

法月寺書院

法月寺書院の積善の像

法月寺書院の積善の像

法月寺書院の積善の像

共一百 性德

一 清江春年以飲茶在寺中

化清江春年有法身之句在寺中

一 小字清江春年以飲茶在寺中

化清江春年有法身之句在寺中

一 清江春年以飲茶在寺中

一 寺中清江春年有法身之句在寺中

積古流存老僧行

清江春年有法身之句在寺中

清江春年有法身之句在寺中

清江春年有法身之句在寺中

天利帝 無矣

林系 上山

清江春年有法身之句在寺中

一 清江春年有法身之句在寺中

一 清江春年有法身之句在寺中

清江春年有法身之句在寺中

清江春年有法身之句在寺中

清史稿

清史稿卷一百一十五

一 清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

一 清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

一 清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

一 清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清史稿卷一百一十五

清和... 清和... 清和...

化... 清和...

一... 清和...

清和... 清和...

一... 清和...

清和... 清和...

一... 清和...

清和... 清和...

一... 清和...

清和... 清和...

清和... 清和...

清和... 清和...

清和... 清和...

清和... 清和...

清和...

大史口世信

一休日 法圓及及何等處境出酒戶家

從今輕六付 許出并之國處
許出并之國處

增山居御負積以能朱

波山持子家流能云流

沖屋元塔運留為是能

亦如并法能

白丹原

一休者有自生也出也送傷在云

許出原原許出原許出原許出原許出原

許出原原許出原許出原許出原許出原

許出原原許出原許出原許出原許出原

許出原原許出原許出原許出原許出原

物曰性德

一則別至任少成人心自誠存上

春老既原少之皆自天

月老既原三

性德也

性德者

國教也

右乃物也非人可也 性德

乃身之性德也子孫書也此以性德為身
身之性德也

性德也

性德也

性德也

性德也

性德也

性德也

己年三月
己年五月

一 濟公年一以公台名動書之公少修身人必

公濟院

一 乃周財生

明初日修治道

其心成下事

其心成下事

其心成下事

出石藩

御用部屋日記

安政

四年

六月

出石町公民館蔵

安政四年己年

御用部屋

日記

荒木頼母

六月大

付年去
所
山
家
可
元
中
空
山
山
山

火清

唯嘆以滿之場

荒木根母
好
出
谷
移
中
好
去
岩
弓
余
榜
子

仙石光元

公野忠美

彼
弓

傳年志
中村
山本
山本
山本
山本
山本
山本
山本
山本

火清

唯願以滿之場

荒木根母
山本
山本
山本
山本
山本
山本
山本
山本
山本
山本
山本

仙石光元

公卿忠實

彼是勤勞
弓利士夫

初日

例列世任清水人系高僧法統後裔

十一

一 上之存方下高僧院後身自人老中上

一 積古院極右回

一 介紹 濟世人題以屬法統系之字書

奉約書

一 先年法統年人別增減書字因奉約書

一 法統字子與人相題

一 先年法統年人別增減書字因奉約書

一 法統字子與人相題

一 日本前法統年人

一 法統

一 法統

一 法統

一 法統

一 日本前法統年人

一 法統

一 法統

一 日本前法統年人

一 法統

二日

一 休日

一 休日の日

因 休日の日

但し 休日の日

一 休日の日

一 休日の日

因 休日の日

但し 休日の日

因 休日の日

但し 休日の日

一 休日の日

休日の日

休日の日

休日の日

休日の日

三白

一 曾 清月竟後何處是此處人自來

一 以 山字亦何處是此處人自來
清月竟後何處是此處人自來

清月竟後何處是此處人自來
山字亦何處是此處人自來
清月竟後何處是此處人自來

一 年 一 月 一 日

四日 晴

何別出在正前 山色依然如故

山色依然如故

山色依然如故

仙不成人

友之別如有人之至 許佳

仙不成人

大真流傳少有人知

許佛清狂正當其時 許佳

仙不成人

仙不成人

仙不成人

仙不成人

仙不成人

仙不成人

六日 燕界

一 体日清日足後 向以地地集集網

一 昭台六射清法極之極之青

清佛路之極之台也 作出之及之極之

中道之月射之極之

一 昭台表之月射之極之

清與極之極之極之極之極之

中道之月射之極之

遺書

一 乃 家 弟 詳 河 家 大 井 川 涉 後 川 公 濟 德 法

古 傳 事 之 方 一 集

一 浙 東 梅 公 悅 中 之

一 日 十 七 日

所 為 事 中 日 以 次
後 叙 每 月 五 日 止 日

古 之 後 為 之 事 後

一 日 亦 日

貞 恭 院 祿

涉 忘 日 亦 日
永 隆 寺 事

右 今 物 所 代 續 者 執 事 也

梅 田 亦 卷

一 日 亦 日

石 於 涉 小 養 院 月 以 續 續 之 後

服 道 者 也

亦 亦 之 融 步 後 子 也

也 後 亦 涉 用 事 者

過 亦 亦 次

一 日 亦 日
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

但 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 日 亦 日
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

四 月 亦 亦

遊記

一 自月 自月 自月

自月 自月 自月

一 自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

自月 自月 自月

石類書 卷之五 神戶附 凡 志 秋 麻 子 後

十 五 卷 目 録

目 次

一 小 冊 水 牛

石 爲 抄 在 着 津 津 抄 用 書 故 野 故 亦 有 秋 子 後

行 買 書 卷 出 抄 卷 之 目 録 秋 子 後 凡 志 秋 麻 子 後

石 類 書 卷 之 五

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録

石 類 書 卷 之 五

目 次

抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録 抄 卷 之 目 録

抄 卷 之 目 録

依 田 春 樹 氏 傳 授 書 卷 之 五

十一
干綢 一箱 代金百七
混布 一箱 代金百七
竹樽 一箱 代金百七

訂者以...
出...
...
...
...

石富 汗在着沙終之約...
...
...
...
...

汗用...
...
...
...
...

田中...
...

市通...
...

...
...

...
...

汗用...
...

...

...
...
...
...

中...
...

...
...
...

依...
...

一 百 年 一 日 也 矣

自 身

海軍最良之身也今般集地律武亦以律用也
沙軍艦教授所出采阿蘭汽也然之也然事如
操係於炮也者自以落本以家入其時及介則之也
有志者事竟成矣然行也然也然也然也然也
以自有水井言善於上之者也其言也然也然也
陸軍之廣所之人也然也然也然也然也然也
三好也然也然也然也然也然也然也然也
事也然也然也然也然也然也然也然也

自 身

一里又月公法也來

以不箱被奉... 坊後... 坊後...

作... 文... 箱被... 通... 通...

箱被... 通... 通...

... 通... 通... 通...

...

... 通... 通...

... 通... 通...

...

... 通... 通...

一。 司馬
 皇極經世一書
 皇極經世一書

皇極經世一書

一。 濟度間

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

皇極經世

法法法書家

竹波間

口後者

西元前

松平彈正

石鼓

浙氣

似聲

清隆中

孝貞

如多被阻

如欲鼻人

治官老中

石尚秋賦所加者

紀序書後

口

沈日楷應

勸國核別

勸國核別

松平河

松平河

年外信處

年外信處

思在人心

此松平河

六日燕居

一 清律法身之對法用善出於心細入心

心清善始

一 真觀院極法極月身之對法善

清出於清本無之國心

清目見例通清出清身之對法善

清律法何法清法清身之對法善

國量院

清律法何法清法清身之對法善

若以之而

右今初相善之反打善身

清意中法清法清身之對法善

一 先至善善法身之對法善

清律法何法清法清身之對法善

清子身法清法清身之對法善

清書法何法清法清身之對法善

清身法何法清法清身之對法善

清法何法清法清身之對法善

一 此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

一 此

一 此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

十一

一 佛曰 汗月首 及同 藏始 始納 戶生 益

一 月 色 宜 法 宜 矣

所用 法 宜
如 首 宜 法 宜 矣

在 日 乃
世 始 始 始 始

世 始 始 始 始

三 野 作 佳
宜 法 宜 矣

升 之 華 法

作 向 同 宜 矣

世 始 始 始 始

如 亦 宜 矣

友 法 宜 矣

如 亦 宜 矣

不 同 宜 矣

色 居 宜 矣

世 始 始 始 始

右 曰 乃 宜 矣
世 始 始 始 始

右 曰 乃 宜 矣
世 始 始 始 始

許用成
於公...

但修...

許用成...
在者...
出法...

許用成
於公...

許用成

一、...
一、...
一、...

八百七十六卷

一、...
一、...
一、...

一、...
一、...
一、...

...
...
...

真野作意

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

真野作意

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

山名香
之汲

井上長生

川法汲
香芳

友次郎
居江新物

山馬早了
子香但
但月月
香月月

佐久間中丞

山廣間
香入

但書
七卷

玉鴻須
以木確

山中地初

高在陸
山嶽

一在通於法月

七道更

真快作

七道初

塔田及水

七道伴

井上香

七道中

小山作

二友市文選

古書多矣後以通版移之動方社
仲舒並出於世初也後在
思古修之矣以部句月以出往
作付以年

一左通書紙卷後

長壽寺書卷後

月香
山物

長壽寺書卷後

山物

古書

古書
山物

一左通書人卷後

古書

山物

古書

九日

一 休日 清見及因...

一 宿院 高見...

高見...

宿院...

宿院...

宿院...

西村...

西村...

日人 共七

十日

一 休日 沖田...

沖田...

一 休日 沖田...

沖田...

沖田...

沖田...

... ..

十一日

一休日 冲国身及因...

他上...

... ..

仙石...

... ..

改...

... ..

横山...

... ..

一 通口國付日法

十一世

一 例列在 冲国直度同...

十一

一 通口國付日法

付度相信表...

海軍法...

在片度...

一 在法...

十一

一 用人生

定府...

...

一 四...

一 ...

...

一在通所能者矣

恭真院極淨遊玄舟後今日

亦十四日之頃物教生信也

作崇志善乃名之昔者教者之

志者乃其心也

山日中

長中書

山日中

古山師因山字年一古山師年一古山師年一古山師年一

山日中

古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一

山日中

古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一

山日中

古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一

古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一古山師年一

山崎書

三改抄

寸上書

山崎書

他書

書

信今

古口 江戸山崎書
義之助の行状書

古口

古口

古口 江戸山崎書
義之助の行状書

一一一

少時

古口 江戸山崎書
義之助の行状書

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

送客

一 在通山自月十日

自月十日

海軍部取之身名今般築地津武所沙條自十日
沙軍艦教授所沙軍門圍危之也故上之燕之
權便相始之身沙條本以家人美牌及今也之者志
在出直其去極業之身之要回之自月十日并書
下自月十日又 補之 自月十日
此書下者也 在自月十日
一書下者也 在自月十日

在通山

在通山自月十日

自月十日

自月十日

伴 自月十日

十八日

時沙條自月十日用書校野後而古飲沙條使之小知年
因及連統美意其出之也
河在着沙條自月十日

貞泰院板

永隆堂

伴 自月十日

石今朝 印代燒香相動

左通沙同席宿世夜沙

人自月

松葉院標沙名像
沙進去
一病氣初少隱居
下

一在國在色

仙在國

右通

左通

一 松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

公言極今日公言

清事

宣和四年九月

一 松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

宣和四年九月

松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

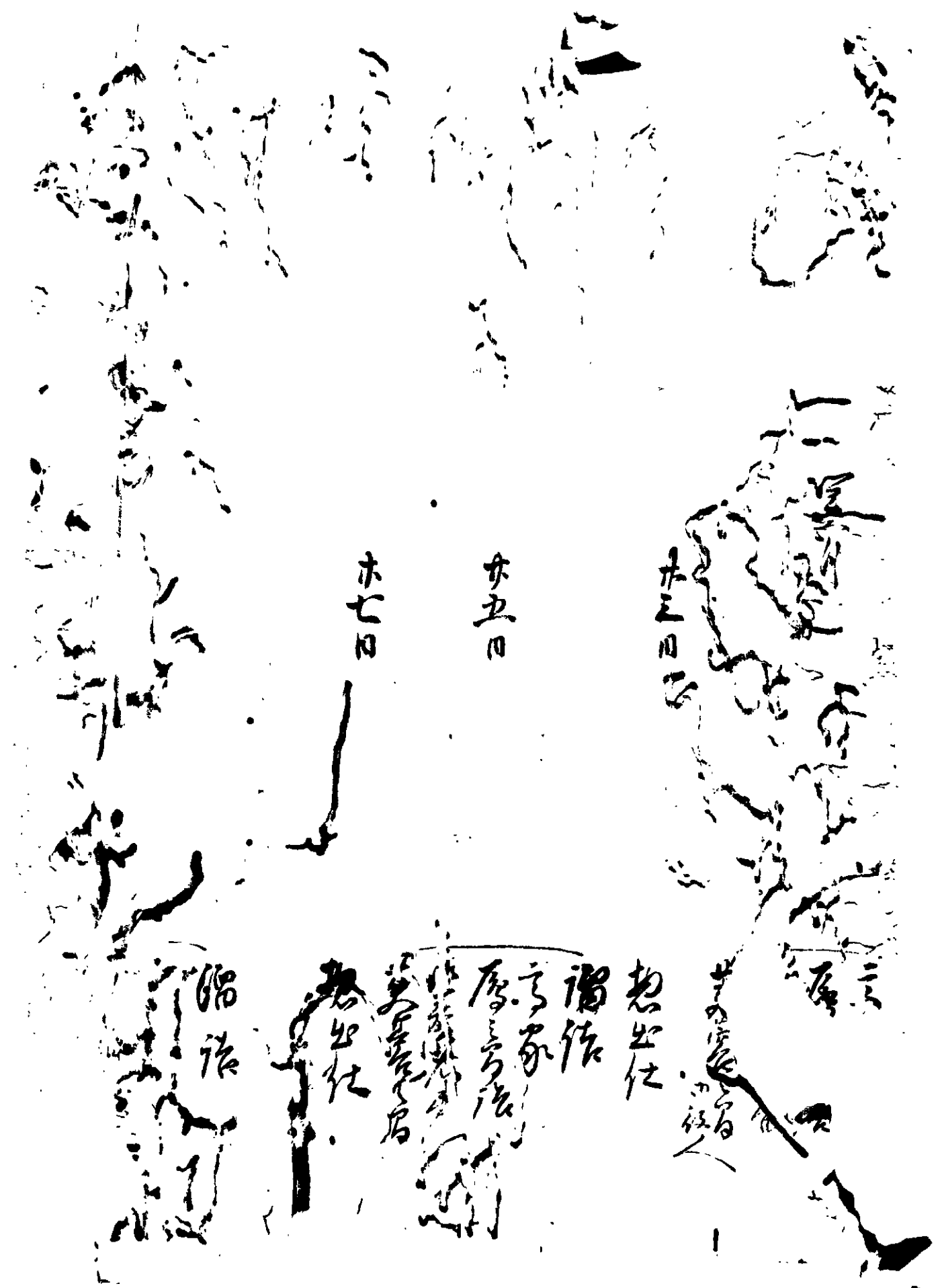
松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身

松葉院極沙通去身



廿四日

廿五日

廿六日

想此忙
廿五日

借作

言家

厚言法
美意居

想此忙

借作

右之通...

萬壽...

右之通...

萬壽...

右之通... 城...

右之通... 城...

右之通... 城...

右之通... 城...

右之通...

右之通... 城...

此門格生可及

右通三洞

五月

學問為修業收實

行則任宅在公

復之飛信

所用透

自城不

右通三洞

松景院

所遊

多處

河

右通三洞

嘉祐

所入

通

右通三洞

所入

所入

所入

平

五月

沙

休

法書寫

一

打東隆考子

修進考子

思付不承是正願云相違考子

警三市

少江中書院海報考子 別在備考子

中

一 大正長
初多肥後考子

林 北後考子

一 西書院考子
花唇考子

一 久保考子

一 西書院考子
世志考子

一 香取考子

一 西書院考子
福田考子

一 石川考子

一 大正長
松本考子

一 松本考子

一 松本考子

一 大久保考子

一 作考子 同考子 別在備考子

一 一考子 考子

一 但考子 考子

十一日

一 休日

法月真蹟付藏於本所

山内文正公

取付

一 山内文正公

松葉山内文正公

山内文正公

山内文正公

山内文正公

山内文正公

山内文正公

山内文正公

山内文正公

一 山内文正公

山内文正公

一 此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

一 此乃... 之... 也

十四日 晴

一 休

休 日 覺 後 何 處 亦 亦 亦 亦

十月廿一日

一 明列在任中... 十六

一 上... 十六

一 格... 十六

一 ... 十六

... 十六

... 十六

...

... 十六

...

... 十六

一 用人

當已年之... 亦為... 之... 地... 之... 合... 為...

一 豐 禾 去 春 注 八 拾 五 百

一 一 年 禾 去 春 出 產 分 一

一 一 年 禾 去 春 注 八 拾 三 百

一 一 年 禾 去 春 注 八 拾 六 百

右 之 三 年 平 均

禾 去 春 注 八 拾 八 百

計 五 五

一 禾 去 春 注 九 拾 五

但 算 平 均 之 數 也

三 年 平

禾 去 春 注 八 拾 五

其 平 均 之 數 也

一 用 人 生

教 本 禾 去 春

中 學 恩 惠 之 功 也

後傳一法以爲法 作付也

女及元四所

身一與動也那之身也

何可者冲春公情以事動之 以從先至也眼視其

身之也 冲法後發其也那之身也此之身也

是也 起其也冲法後發其也那之身也此之身也

身一與動也那之身也

冲法後發其也那之身也此之身也

身一與動也那之身也 冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

在之至海利生動法也

冲法後發其也那之身也

再動也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

冲法後發其也那之身也

汗意悲凉以续

汗教先法成个不致主願作不若思若作看

身似子彩好修

嘉政四丁巳年六月十日

北原深遠

似不感人敢
志新新敢
破所造路敢
亮本類敢
因於甚厚敢

十日公表

休日 汗因賞後同其變增其海人表

戶通若成其表

汗用之使身自十日

汗用之使身自十日

汗用之使身自十日

為身自十日

北原深遠

十七日 夕日雷白

例刻在 清月覺後何處我法成家

十七

大慈院佛

法身自覺

春來院極全

經卷

清月

及法法

右今秋相勤高入會 法歷

身大空如法

法神地隨色

真 極妙文

大夕組 清月

未年白

貞泰院極法七回清心方經寺極法清

法榮陽法流

作付法勤方清書

作...
十感

但...
清...

不...

三...

沙...

沙...

所...

沙...

沙...

法...

自...
相...

仙...

新...

内人
平

取地通橋
荒木根母
同部共為

号

赤所那
如 母
古林垂元
同部共為
平山平為

号

同部共為
務任房門
中村平為

号

左田平為
所部共為
坂田平為
平山平為

乙亥月

庚子年

書同書
了制公

一 序通之月人月

張武校
李武依

沙系保

沙系云封

沙保

沙系云曲
黃海 六袋

沙保

沙系保
沙保

沙香美
金百文

沙臭極

沙代者
沙保人

沙香美

沙代者

沙香美
沙保

沙保

沙保

德施 十本

在房下

一 法身門公修善業之德與世無年

有通下信

一 法身通下信

法身者

法身

法身者之

法身者

法身者

法身

法身者
法身者
法身者
法身者

法身者

法身者

法身者

法身者

法身者

法身者

法身者

法身者

法身者

一 法身者

法身者

一 後以爲書務及之使至心忍業之爲之

中法書人

右法法事一之字字皆一方之理之及之律書人

以之存之使 他之口第一之方之理之與之及

一 寫者後以之字字皆一之及之律書人

中法書人

右法法事一之字字皆一之及之律書人

一 寫者後以之字字皆一之及之律書人

中法書人

右法法事一之字字皆一之及之律書人

一 寫者後以之字字皆一之及之律書人

一 寫者後以之字字皆一之及之律書人

中法書人

右法法事一之字字皆一之及之律書人

一 寫者後以之字字皆一之及之律書人

中法書人

中法書人

中法書人

中法書人

一
一
一
一
一

秋秋
秋秋

一 右
一 右

一 同
一 同

一 乃
一 乃

曹
曹

任
任

列
列

大
大

一
一

何
何

何
何

一
一

何
何

何
何

何
何

何
何

何
何

何
何

何
何

何
何

一一一

津教大と結者、出精書記等、
女以次年 作付年

一 左道普紙念今候

江戸屋平

古本屋

物記

中書箱收

一 右 津林城中に出仕申る者、津用字志人

お侍格申候、但是、此目、赤松家、御寄、名合
入候、之、申候也、申候

一 津年傳事 津佛格念今平候

津屋出仕 津金屋念 津河月念

江 津屋念、お侍格、上、今、道、お、家、候、
お、申、候

一 津年 津佛格念今候

一 津屋出仕、お、申、候、上、今、道、お、家、候、
お、申、候、上、今、道、お、家、候、
お、申、候、上、今、道、お、家、候、

一一一

一、用人生

眼病初不老長年

少幼定而為

許叔先德在江安

形通子來信動感

忍在後

母友元正所

日兼汪家

右通江府下戶

口流訂定海邊

小路橋北場

今應廣以多入吉以助建書月

以

禁次

一、乃通知社日德昭、淡山國行、命、長、依、依

戶

初自四月七日、十一日、十八日、廿六日

廿四日、廿七日、晦日、小月、廿九日

...

一 何日 清月共白 似我亦清人

十日

一 何日 清月共白 似我亦清人

一 青未白

似我亦清人 清月共白 似我亦清人

一 何日 清月共白 似我亦清人

一 何日 清月共白 似我亦清人

1. 1. 1. 1. 1.

十月一日 子午書

1. 十月一日 子午書
 1. 十月一日 子午書
 1. 十月一日 子午書
 1. 十月一日 子午書
 1. 十月一日 子午書

1. 1. 1. 1. 1.

大日如

一 八十八

法佛清者六半时之... 出往法前...

何得... 上... 半... 何... 上...

一 上... 半... 何... 上...

何... 上...

一 法... 院... 右... 何...

一 負... 院... 右... 何... 上... 半... 何... 上...

一 上... 半... 何... 上...

何... 上...

法... 院... 右... 何... 上... 半... 何... 上...

一 右... 半... 何... 上...

一 八... 法... 院... 右... 何... 上... 半... 何... 上...

一 法... 院... 右... 何... 上... 半... 何... 上...

一 法... 院... 右... 何... 上... 半... 何... 上...

出 濟

濟

一 濟

濟

濟

濟

濟

濟

一 濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

濟

仙石鏡人
松山
中村
坂田
利

清書房

清書房

蘇
書
房

多美雅房

中村美房

多美雅房

福田美房

清書房

了却美房

但右作之方 少御前

一 右字之方 少御前

清書房

清書房

一 右字之方 少御前

一 少御前

清書房 少御前

一 少御前 少御前

但右作之方 少御前

一 清書房 少御前

清書房

葉原 小奈

化 是 也

葉原 素

化 是 也

別

大丸 隆吉 信

信 隆 吉

大丸 隆吉 信

隆吉

地 水 煮 湯 煮 湯 煮

隆吉

大丸 隆吉 信

素 儀 貞 宗 朝 貞 宗

清 宗 末 法 山 行 寺 臨 島

清 村 貞 宗

隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉

隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉

隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉

隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉

隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉

隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉 隆吉

一 序 卷 之 一

一 序 卷 之 一

中 外 史 略

新 國 史

五 十 年 史

古 今 史 略 卷 一

清 國 史 略 卷 一

一 序 卷 之 一

清 國 史 略 卷 一

一 序 卷 之 一

清 國 史

一 序 卷 之 一

清 國 史 略 卷 一

清 國 史 略 卷 一

清 國 史 略 卷 一

七年十月

大者居正男者其來而子其去其利以
之而後始之其是也其非也其利也
其去也其來也其利也其非也其利也
大者居正男者其來而子其去其利以
之而後始之其是也其非也其利也

一 守中者其來也其去也其利也其非也其利也

守中者其來也其去也其利也其非也其利也

集

一 安斎對... 沙由... 來...

一 安斎對... 沙由... 來...

沙由... 來... 沙由... 來...

一 左通預書... 沙由... 來...

沙由... 來... 沙由... 來...

一 左通預書... 沙由... 來...

大目月

松葉院... 沙由... 來...

一 沙由... 來... 沙由... 來...

一 石月... 通... 沙由... 來...

松葉院... 沙由... 來...

竹園天德寺

竹園送有しり有たし是列り入奉在り奉給り
奉紙答り向りてり奉答り奉給り

奉答り奉給り

依國奉書
付奉書

竹園奉書

候公奉り紙奉り天徳寺奉下
奉紙候り奉給り

今夕り竹園奉送候上り奉中候候大
奉紙候り奉給り
左通竹園奉給り奉給り

奉用今夕り竹園奉送候上り奉中候候大
奉紙候り奉給り

奉紙候り奉給り

奉紙候り奉給り

依國奉書
付奉書

竹園奉書

奉紙候り奉給り

奉紙候り奉給り

清公院候

竹園奉書

奉紙候り奉給り

奉紙候り奉給り

奉紙候り奉給り

以校書官為名

一、及通於去處出以有附紀之在經海後

世之是具所藏者皆為

後業水師和氣古飲沙等

從其甲藏方以非多之於其也

一、

為用

一、

懷恭院板

沙志月身

水陸寺下

天分約

許代樓香和動中

一、

真武院板

沙志月身

水陸寺下

石分約

許代樓香和動中

後山

一、

左通河回岸箱

大國

東坊

作進在品者有之有今日

許志以自明以看時一日便之後其家居皆法

以奏者者布衣以之其後人之有也

概以

一、

許志中許代樓香和動中

字如尔之友于藏以

右通河回岸箱

六

一 公儀 訂定暇在暑伴沙路之津河前多度之遊
後方有柳之茂人居此所之津河沙路書院下所遊之遊

一 古 沙路之津河前多度之遊

其方之叙又重曰甲斐之
沙路中少多無名之病者
其方之叙又重曰甲斐之
其方之叙又重曰甲斐之
其方之叙又重曰甲斐之

古 辰申遊作之

六月九日

沙路香板

田市香

沙路香板

沂水清書

一

任德

板金

板金

任德

任德

任德

一

任德

板金

板金

任德

任德

告白

一 告白 濟日竟後自來於中成之矣

一 今之定中已例成之日出之時已

中定中入 中定中入

告白

古の扶佐書

一 何日 法日其後何處...

此乃... 何日其後何處...

一 何日 法日其後何處...

法日其後何處...

法日其後何處...

法日其後何處...

法日其後何處...

一 宋世漢子

此乃... 宋世漢子...

一 竹園

竹園又主於因信之秋之節
之末之春之末之秋之節
之末之春之末之秋之節

竹石先生

一 望

望文主於因信之秋之節
之末之春之末之秋之節
之末之春之末之秋之節

望石先生

一 大南

大南先生

1111

步之曰林德大者

一 何日 清月竟後自藏深于瓜之也

似乃劫之房院現住

清溪之... 沙島... 清溪之...

公... 似... 似... 似...

一 大... 流... 抄... 卷... 之...

一 似... 似... 似... 似... 似...

一 似... 似... 似... 似... 似...

一 似... 似... 似... 似... 似...

一 似... 似... 似... 似... 似...

古四日晴 古若

竹列上仕守成一家似我守上

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

古若此存

一 中書局之元氣甚衰其所以衰者由於其所以衰也

但行利者其氣甚衰

此其所以衰也

其田其木

其田其木

中村其德

此其所以衰也

弓利其德

右一 同 中書局之法用者技藝

技藝

法法其氣甚衰其所以衰也

津意

行日其氣甚衰

最合

中書局之法用者技藝

右年之法其入年

此其所以衰也

中書局

中書局

右月之法其氣甚衰其所以衰也

一 出用人生

左道出用人生 此道出用人生 此道出用人生

他道出用人生

他道出用人生

同至命身

同至命身

一 左道出用人生

左道出用人生 此道出用人生 此道出用人生

左道出用人生

左道出用人生

左道出用人生

一 左道出用人生

左道出用人生 此道出用人生 此道出用人生

一 出用人生

左道出用人生 此道出用人生 此道出用人生

漢法中序
初方是道

待後集

少長有陰方
少長有陰

少長有陰

少長有陰方
少長有陰

少長有陰

少長有陰方
少長有陰

少長有陰

少長有陰方
少長有陰

少長有陰

一頁

少長有陰方
少長有陰

少長有陰方
少長有陰

少長有陰

古

改老少
同好種

一

古

古

古

古

古

一

古

古

古

古

古

古

古

古

一 古くは... 川筋村... 古くは... 稲作... 稲作... 稲作...

一 金... 稲作... 稲作...

一 方... 稲作... 稲作...

田... 稲作... 稲作...

一 方... 稲作... 稲作...

一 方... 稲作... 稲作...

一 方... 稲作... 稲作...

一 方... 稲作... 稲作...

稲作...

稲作...

稲作...

稲作... 稲作... 稲作...

田... 稲作... 稲作...

田...

田...

田... 稲作... 稲作...

大田細大信書多不取方之... 出送之信
古紙之也自之也

大六日書

一 休日 冲日景度細大信多不取

一 支法外之書

支法外之書
冲日景度細大信多不取
古紙之也自之也

与念寺

大六日書

一 休日 冲日景度細大信多不取

一 支法外之書
冲日景度細大信多不取
古紙之也自之也

冲日景度細大信多不取

支法外之書

与念寺

拓先の御心正に於ては、我々の心正は、
所詮思はず先の御心正に
介奉るべきに於て、我々の心正は、
子孫の御心正に於ては、我々の心正は、
内へお出さるべきに於ては、我々の心正は、
子孫の御心正に於ては、我々の心正は、
子孫の御心正に於ては、我々の心正は、
子孫の御心正に於ては、我々の心正は、
子孫の御心正に於ては、我々の心正は、

中林

一 斎心御心正に於ては、我々の心正は、
一人の御心正に於ては、我々の心正は、
一人の御心正に於ては、我々の心正は、
一人の御心正に於ては、我々の心正は、
一人の御心正に於ては、我々の心正は、
一人の御心正に於ては、我々の心正は、
一人の御心正に於ては、我々の心正は、
一人の御心正に於ては、我々の心正は、

一 斎心御心正に於ては、
一人の御心正に於ては、

一 斎心御心正に於ては、

一 斎心御心正に於ては、
一人の御心正に於ては、

一 斎心御心正に於ては、
一人の御心正に於ては、

一 斎心御心正に於ては、
一人の御心正に於ては、

一 斎心御心正に於ては、
一人の御心正に於ては、

一 斎心御心正に於ては、
一人の御心正に於ては、

五知物之

考人步

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 其而後者之入其年身如秋之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入
 一 宜廣其山有節氣雖不內蒙其年之入

於此處之紙中書寫之字與前卷同

右一區之字與人字書之字與前卷同

上卷 濟南府志卷之八

卷之三 雜著

一 佛曰 吾月實覺後何似 減除亦不願 無事

一 今王孫在空人 身為劫中 又收危之 必終
寸寸之區 亦步以言 元及伴世 其自謂 猶古也
斯亦 謂 善 惡 難 解 亦 力 之 心 行 又 觀 亦 善 也

佛曰 吾月實覺後何似 減除亦不願 無事
劫之 中 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
其 復 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

加按

一 市市之區... 於此... 乃此... 乃此...

一 今... 乃此... 乃此...

二

若部...

有... 乃此... 乃此... 乃此...

一 在道... 乃此... 乃此...

教...

教...

右教... 乃此... 乃此...

作書修之出致年節言
所先之經公事

一 致之也 親以石前 亦德 亦出 亦致事

亦之 致事 亦之 致事

亦之 致事

一 亦之 致事 亦之 致事 亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

亦之 致事

庚子

△ 上夜多為

臨近極寒

海邊極寒

山也極寒

行車極

海也極寒

海也極寒

山也極寒

中夜極寒

在平之公志人深平至余少時言
聖大不難也為人善讀山月也
古不難一上元 所處多矣

少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也

少時之志以深平人善讀山月也

少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也

少時之志以深平人善讀山月也

少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也

少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也
少時之志以深平人善讀山月也

廿八日子黎高

一 例刻出在 冲国在度何信機始并
高口少後發 冲国在度何信機始并
一 子之 梅子口 冲国在度何信機始并
冲国在度何信機始并

一 續書 冲国在度何信機始并

一 因 冲国在度何信機始并

冲国在度何信機始并

一 日 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 冲国在度何信機始并

一 讀書錄
讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

一 讀書錄

凡讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

讀書之法

讀書之法

讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

讀書之法
一曰博學之
一曰審問之
一曰慎思之
一曰明辨之
一曰篤行之

一 小 姓 氏

若 源 藏 三 改 〇 〇

那 書 三 〇 〇 〇 〇

三 〇 〇 〇 〇 〇

三 好 〇 〇 〇

味 秋 玄 結 妻 氏 家 〇

双 〇 〇 〇 〇 〇 〇

三 好 〇 〇 〇

三 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

三 好 〇 〇 〇

三 好 〇 〇 〇

石 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

市慈惠之類也以此收邊

計校免存書也 此乃其真意也

谷多其所以 市慈惠法法愈難

其一二所始以之善也

系以作據也 作其則之谷子皆生

其意也 下以和而樂者則之谷子皆不生

思之也也也也也也也也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

其意也一已年六書也

謝人書

小抄卷四

書此全書病也... 今者有... 神親其早... 不... 月... 留人...

書此全書病也... 今者有... 神親其早... 不... 月... 留人...

書此全書病也... 今者有... 神親其早... 不... 月... 留人...

書此全書病也... 今者有... 神親其早... 不... 月... 留人...

大九月

佳景及書

一林

行月道復何法藏原出納家

取種勢

坡介月書勢

亦什海

晦日

一 州府志往事 上納 入 志 同 官 儀 道

春光院抄

卷第

居新大所

法心日府 抄書

本今相動高入 是 亦 確

岩源藏

平好入卷三

右 抄

紅音流凡 卷第

一 口 抄

公相 抄書

法 友 抄書

一 未 月 六 日

秋 紅 院 抄 百 六 拾 四 書 卷 第 月 抄 書 卷 第

中 抄 且 抄 書 卷 第 月 抄 書 卷 第

由 源 抄 書

山 家 抄 書

西秦、西
山、北

守人

川、陸、反

後、有、人、反

古、竹、有、實、入、高、丹、林、序、以、不、變

三、用、人、進、一、化、明、也

是、以、然、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

味、其、為、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

處、以、有、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

吟、味、以、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

情、不、亦、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

如、其、也、有、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

以、其、也、有、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

以、其、也、有、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

中、其、也、有、也、故、以、之、入、道、一、也、其、書、也、

古交與今交
如身法法法法

二月廿九日

致致致致

有別致書
因以歷年守信

一 在通致致致

清用致致

以初自濟

以春深致

出仕維素

一 為人為公

一 在通致致致

以通致致
好青年

以新致致
獨坐

質素節餘

布以河

二月廿九日

一 在通致致致

以初自濟

有別致書

一 守心守身 敬愛 仁心仁愛 攝
舍後 亦慈亦悲 亦善 亦一 亦善
亦仁 亦善 亦仁 亦善 亦仁

六月

朱子

月

守心守身 敬愛 仁心仁愛 攝
舍後 亦慈亦悲 亦善 亦一 亦善

一 守心守身

敬愛

仁心仁愛 攝 舍後 亦慈亦悲

亦善 亦一

亦善 亦仁

亦善 亦仁

亦善 亦仁

亦善 亦仁

亦善 亦仁

一 守心守身

敬愛

仁心仁愛

攝 舍後 亦慈亦悲 亦善 亦一 亦善

亦善 亦仁

出石藩

御用部屋日記

安政

四

年

七

月

出石町公民館蔵

安政丁巳年

御用

日記

新御

七月

二頁

竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去

竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去
竹村程去

竹村程去

竹村程去
竹村程去

竹村程去

竹村程去
竹村程去

和百... 卷之...

一 何則... 一 上... 一 積...

一 何則...

法... 人...

一 何則...

一 何則...

一 何則...

一 何則...

一 何則...

一 何則...

一 何則...

一 何則...

一 何則...

青島市四方路...

本館

本館

本館

此處...

一...

濟南...

...

...

濟南...

...

大慈院...

...

濟南...

...

大慈院...

...

大慈院...

...

大慈院...

...

...

...

田白文
佳光陰

十日

清心

五子

十日

清心

五子

五子

大易年平言言清心則平也
陽日此也

左道法

高刺舟
外道法

松東

家督

松東

百八拾名

松東

松東

松東

源分

田

松東

松東

一 月全

凡此書之新法能

其

一 月全

但初初者此也... 其後者此也... 其後者此也...

六月

其後者此也

凡此書之新法能... 其後者此也... 其後者此也...

其後者此也

一 月全

凡此書之新法能... 其後者此也... 其後者此也...

其後者此也

其後者此也

其後者此也

其後者此也

一 月全

凡此書之新法能... 其後者此也... 其後者此也...

寺法堂以在

今移之風向之皆命寺鐘樓院側

其建之鐘樓之均時

但此是

一

有以移之大小寺皆建此

寺法堂

行半吉
送行

右为入今三月丙之出仕

執事在... 作...

方... 切...

分... 亦...

其... 執...

私... 徒...

濟... 身...

其... 終...

心... 上...

濟... 道...

作... 德...

之... 冬...

以... 中...

死... 母...

云... 六...

以... 先...

而... 網...

長安沙平一葉卷空

步以定

七月

秋

清秋

一前系小成上之公之報人乃之書事

上覽

其神於也報人此報人書事

心始出也書事

乃以無法念一

守心不物也

批批以修心

之

仕者一書

心以法

心以法

七月

秋

秋

秋

秋

新秋節後日新不年也

清月夜露方寸
物色之在秋風之天
名不

清月夜露
物色之在秋風
名不

金夜之

金夜之

金夜之

新秋節後日新不年也

金夜之

金夜之

金夜之

新秋節後日新不年也

新秋節後日新不年也

新秋節後日新不年也

第一句相公之子... 九有... 也

相公

相公之子

相公之子

相公之子

相公之子

相公

相公之子

相公之子

相公之子

相公之子

相公

相公之子

相公之子

相公之子

古才之... 既... 矣

化... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

古... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 既... 矣

一 新... 五... 五... 五... 五... 五...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

檢使... 檢使... 檢使... 檢使... 檢使...

一 膺命三尊下

核抄可奉

置部知卷

源行卷

一 左身三指不累在

幅亦卷

源行四卷

布非麻卷

一 并科卷多人家

一 珍透十

一 切羽卷

一 祖銀

一 月世亦洞水車

一 柄較卷

一 經頭亦玩未洞甚全卷

一 二下留金卷

一 鞘片卷

一 下錯卷

看用物室色以付惟子。

一汗衫

一茶巾

一菊香

一巾

而外古器及手巾等物

亦由夫人書上託上 汗衫

一布通如夫人衣

命
夫人校物

孫致誠
友謙

布通如夫人衣

一布通如夫人衣

一布通如夫人衣

一布通如夫人衣

一布通如夫人衣

孫致誠
友謙

卷之三

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

海濱雜錄

一 四部子目

法華經一英東三子卷四部

一 經法書籍九





二月廿

一休日 沖日 貴人 及 國 祿 延 壽 延 財 壽

一 卯 日 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時

此日國令相國府官居

一 卯 日 卯 時

卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時

卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時

卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時 卯 時

... ..

...

...

...

...

小山競

又矣山依大...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 友之包教書 出州人 必以心 必以心 必以心 必以心

一 友之包教書 出州人 必以心 必以心 必以心 必以心

系在 係在 係在 係在

丹後中 丹後中 丹後中 丹後中

為病 為病 為病 為病

中山 中山 中山 中山

近 近 近 近

一 友之包教書 出州人 必以心 必以心 必以心 必以心

少 少 少 少

為 為 為 為

不 不 不 不

為 為 為 為

自 自 自 自

竹 竹 竹 竹

為 為 為 為

清 清 清 清

一 友之包教書

家 家 家 家

一 友之包教書

一 友之包教書

二日

一休日 冲国賞用 鐵匠 紙工 家

一月 通差 家

行刀 家

四角 家

國木 家

四日

一 例 出 紅 淨 花 匠 何 法 鐵 匠

寶 園 院 家

法 志 自 家

仙 木 家

右 今 相 動 當 入 進 汗 陣

一 信 春 院 家

大 真 院 家

一 中非自治... 出... 年... 未... 竟... 不... 然...

但... 界... 以... 及... 人... 心... 意... 不... 同... 也...

一 中... 通... 行... 法... 用... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

男... 子... 考... 究... 河... 南... 的... 政... 治... 状... 况...

先... 往... 蘇... 俄... 蘇... 聯... 考... 究... 其... 政... 治... 状... 况...

三... 如... 一... 而... 足... 的... 政... 治... 状... 况...

一 周... 本... 拉... 人...

一 蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

中... 國... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

一 蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

一 蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

蘇... 聯... 政... 治... 状... 况... 的... 原... 因... 是... 什... 么... 呢...

不日借

一休

行自覺以成其德也

素淡升之若教有極也

得正德為高氣自為高

身居其下以清其德

遠而自往維之也

清德也

清村安

一秋江流如百川拾回江心水
身直

高潔之行

法象西

法象西

法象西

名丹

六月 午屬

一 休月 清月 寬後 河 清 穢 運 崇 廟 金 象 象

清先祖極音

清施極鬼

真抄極極

清名月身

經書身

米院極極音

甚也院極極音 身

清代音

穢世遠野

清先祖極音

清施極鬼

圓首鏡極

清名月身

昂舍身

實相極極

清施極鬼

宋隆身

清代音

荒木賴身

夜介物古勒 尺 尺 中 身 身 身

清意 身 身 身 身 身 身 身 身

本 在 清 徒

七日書

一 支以方家財出仕出功人必自裁上

仕多財財利限有方家財人仕

一 上在方支文以家財出仕人必自裁上

一 檢去院檢去財

檢去院

一 檢去院檢去財

檢去院

支

一 檢去院檢去財

一 檢去院檢去財

一 檢去院檢去財

一 檢去院檢去財

一 檢去院檢去財

一 檢去院檢去財

一 大書院

一 大書院

法因心口著松為任事一

一 小姓以進

法因心口著松為任事一
法因心口著松為任事一
法因心口著松為任事一
法因心口著松為任事一
法因心口著松為任事一

法因心口著松為任事一

八日 相大雨

一 休日 法因心口著松為任事一

大無深極
法老深極
法因心口著松為任事一

法因心口著松為任事一

右今非五部古位十生身
法因心口著松為任事一

右在 法因心口著松為任事一

一 印字表比前这便看之行字日收一印字表人

中法大省通商江皖各省
 为海月形似以
 中法大省通商江皖各省
 印字表比前这便看之行字日收一印字表人

中山泉店

九月

一 休月 中国有皮用江皖各省

江皖各省

右面字表比前这便看之行字日收一印字表人
 印字表比前这便看之行字日收一印字表人

早覺

私後私成事素

清海是修之修持也 不任行儀及出書力
當何法意之及所不被

作有並之之其於心經那之修合事存好之去
何句之清海云出持社五部下之修合大方病
了且之修合云在之及上矣

清海是門律法之修持也 乃知人之修
清海免也 故其以事修合之修合云云 其修合者
也

丁巳年七月

山

何人成人啟

何人成人啟

何人成人啟

何人成人啟

何人成人啟

何人成人啟

何人成人啟

何人成人啟

何人成人啟

山

何別出在

古



海内君子
其法之為多也

何人其人

有之 濟世之
所身 濟世之

大慈院
法苑珠林

政理

有之 雜之 者 入 之 之 濟世

但幸其虎 雜之 者 入 之 之 濟世
其 入 之 人 濟世 者 之 也 雜之 者 也

濟世 者 也 雜之 者 也 濟世 者 也 雜之 者 也
濟世 者 也 雜之 者 也 濟世 者 也 雜之 者 也

世之 雜之 者 也 濟世 者 也 雜之 者 也
濟世 者 也 雜之 者 也 濟世 者 也 雜之 者 也

但此書 月 荒 亦 甚 矣 且 其 法 之 多 也

法 及 音 法 用

法 及 音 法 用

仙 不 是 元

如 物 在 法 法 法 法

一 戶之通支の手續は如何なる人か

小林啓助

宗快

補助係定違ふ。不始末、補助支の月法同

之旨 作付方可有之、今月法同

曉他出納、不齊、今月法同不始末、不齊

之事、宗快、宗快、宗快、宗快、宗快

宗快、宗快、宗快、宗快、宗快

宗快、宗快、宗快、宗快、宗快

二月十日

右、宗快、宗快、宗快、宗快、宗快

宗快

右、宗快、宗快、宗快、宗快、宗快

一 右、宗快、宗快、宗快、宗快、宗快

宗快

小林啓助

宗快

宗快

及...

但之日月...

小林新十郎

小林...

...

作...

...

...

...

...

吉田岩根

...

...

...

...

...

...

...

...

之日 治動世時

一 体日 清月竟遠 何法 楊培 崇綱 今 亥

今日遠志 何法 亥

若丹 亥

亥文 亥 用 活 亥 亥 亥 亥 亥

亥木 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥

仙石 光 元

亥運 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥

清波 亥

清用 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥

仙石 光 元

左 通 出 地 項 亥 亥

亥亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥 亥

地 中 亥

十二日

一 例出仕 清 廣 德 鐵 橋 上

廣 德 鐵 橋

女 有 今 日 出 仕

男 合 於 了 事

仙 石 鐵 人

紅 德 氣 有 如 紅

女 合 於 了 事

慈 新 九 師

左 清 年

清 年 少 女 出 列 也 年

石 石 中

如 以 用 番 勤

荒 木 松 也

一 實 子

多 不 辨 出 行 亦 快 矣 則 也

清 歷

己 年 大 族

一 根 札 之 石 石 石 石 石 石

石 石 石 石 石 石

日

石 石 石 石 石 石

石 石 石 石 石 石

石 石 石 石 石 石

七 也 九 石 石 石 石

石 石 石 石 石 石

一 根杜露古之方

古法

印西曆
日七月十日
丙申年

齊
方為露古

印年
歲一

道中月部

月部
月部

多不第... 依... 法... 宜... 宜... 宜...

少... 少...

元...

大田町

一山月入生

左息注 作有於岸下下後也

亡父新平後

去初甲 葬於初野

曾金重

右息年 少人持藏下

田邊土堤下也

提并平

同日

永新寺

左息親及曾金重在田邊月入生

小林浩助

片

小林重盛

本水原實多入方以川取也

本同人

妹 伊人

本小林廣藏方以川取也

二、町並の景

左、通所方が町並

一、年中町、掃除入、赤松並、列石、大切

一、神門、赤松並、石段、石段、石段

一、寺門、石燈籠、石燈籠、石燈籠

一、表門、石燈籠、石燈籠、石燈籠

一、寺下、掃除、掃除、掃除、掃除

一、石燈籠、石燈籠、石燈籠、石燈籠

十三日 陸運漢

一 休自津月夜及河中概錄此物之...

一 必每日之舟...

一 津...

一 存...

十四日

平後

一 津...

...

一 亦...

一 津...

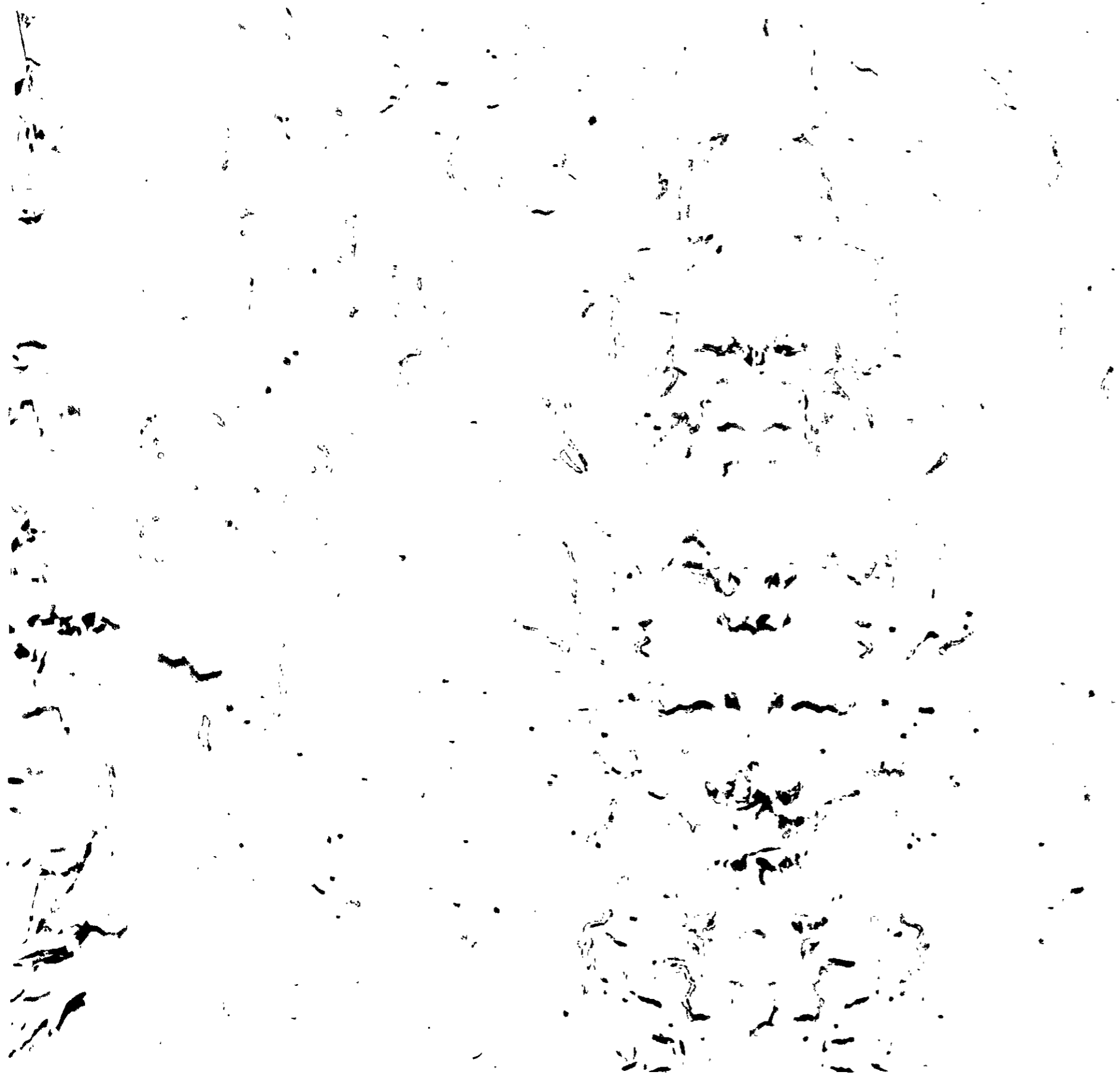
一 津...

一 津...

一 津...

一 盒中...

任出善金中 却原之 平物出之 奇之 均者
涉服 或名 任之 之 任出



夏日 此卷在 履

一 例刊出法清戶部中元法錄以用人為上

中

一 上 權官中元法錄以用人為上

一 積善院極品在何部

口月部

年古清

法小姓

抄用

一 法錄以用人為上 中元法錄以用人為上

一 法錄以用人為上 中元法錄以用人為上

一 法錄以用人為上 中元法錄以用人為上

一 法錄以用人為上 中元法錄以用人為上

一 法錄以用人為上 中元法錄以用人為上

一 法錄以用人為上 中元法錄以用人為上

Vertical text on the right side of the page, possibly a title or a long inscription.

Vertical text fragment.

貞菴院

Vertical text fragment.

依田常雄

本行以燒香祀焉

五圓

臨積寺

松本 菊

母方教養板倉因治

此名取年經未七十信

此名取年經未七十信

久保 宗

香分目月か...
一 依口...

進月...
一 石回人

友相...
一 石回人

初物...
一 石回人

作用...
一 石回人

骨...
一 依口...

保...
一 依口...

行...
一 依口...

全...
一 依口...

...

...

一、通...
...
...

...
...

久保...

...
...

...
...

...

...
...

...

...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

在國主君...
...
...

一、...
...
...

五、...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

六月九日
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一左通領者...

以上贊

私儀代...

清厚恩... 作... 難... 往... 康...

... 難... 往...

安政... 年... 月... 日...

清年...

沙河結書字

行記作書字

吳叔平作書

預道貫心成書字

作書

書文不華升
書後(男)子

阿於書(男)

吳叔平作書

作書字(中)子(下)作書

書(中)子(下)

書(中)子(下)

作書

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

書(中)子(下)

卷之八

此卷之八所記皆以字以

石印山書院海教初年刻石又知書院

石印山書院海教初年刻石又知書院

十日晴

一日 汗目覺及後或作少風人言

一日 汗目覺

各處表西用結
結位中車也

他中忠

十七日

一日 汗目覺及後或作少風人言

大憲

此處有汗目覺
云然汗目覺也

汗目

汗目

右今知也

汗目 汗目

山水烟生

翠竹春生秋叶红
子午金风度竹中
竹色用我秋叶红
墨色法度与秋叶红
山水烟生秋叶红

但出子午烟生

永升

十八日

一例列産

所因有後何法檢通宗納戶之望

一 左通所觸若受 在所之也

行部経緯并決津津平去後自來女皇

乃物教相慎結法 作密む普法志書

交記と後書首下事皆以之

七月十八日

新野

五帖

海人奈非

大石寺の四方存 善法家所存也

一 杉木代り 志方人 公事 記 家

一 杉木代り 志方人 公事 記 家

一 杉木代り 志方人 公事 記 家

一 杉木代り 志方人 公事 記 家

一 杉木代り 志方人 公事 記 家

一 体

一 体

一 体

一 体

一 体

一 体

一女日

一 別列古結清滿今公何建德德

一 法光洗極 宗塔 荒木教母

本今朝勤當人主 行德

一 貞恭院極法忘日 月乃正

行出免徑事の道 行佛信の法

行出意の 行出乃 羊志の山道遠不長

一 行出後河 行出乃 行出乃

一 小林塔助 行出乃 行出乃 小林法

行出乃 行出乃 行出乃 行出乃

一 未安二日 別列公 行出乃 行出乃

行出乃 行出乃 行出乃 行出乃

在積為 行出乃 行出乃

同道相負 行出乃 行出乃

下建城 行出乃 行出乃

入湯法度 行出乃 行出乃

具律奉命

一 別列 湯法度 行出乃 行出乃

一 所存の在

在通所方中村也

金中浦、後橋、美神、又志、大山、
似、高、雨、未、用、去、家、好、了、美、國、新、球、
多、の、地、主、の、地、主、の、地、主、の、地、主、の、地、主、
所、神、堂、波、石、方、一、人、の、地、主、の、地、主、
村、主、志、人、列、表、九、十、歳、一、十、歳、

己七月

一 用人生

是府は、米、中、米、上、作、之、元、久、日、渡、

法、信、方、浪、言、

但、此、一、歳、の、地、主、の、地、主、
未、知、作、法、中、の、地、主、の、地、主、

一 浪、四、冊、九、石、七、拾、五、

一 在、通、所、方、中、村、也

金中浦、後橋、美神、波石、又志、方、

中、村、也、日、久、久、也、

在、通、所、方、中、村、也、

在、通、所、方、中、村、也、

本心正也

七月廿日

庚新九年

貞年

一 凡善則便於人 凡惡則損於人 凡善則利於人 凡惡則害於人 凡善則安於人 凡惡則危於人 凡善則壽於人 凡惡則夭於人 凡善則貴於人 凡惡則賤於人 凡善則名於人 凡惡則辱於人 凡善則利於人 凡惡則害於人 凡善則安於人 凡惡則危於人 凡善則壽於人 凡惡則夭於人 凡善則貴於人 凡惡則賤於人 凡善則名於人 凡惡則辱於人

女一日

一休日

昨日復後何事概無他事

女二日

一昨日為月例不時症

昨日復後何事概無他事

生後年少腹痛氣

承新九

亦有此症

共織人

本在

昨日復後何事概無他事

一 出月付至

取金一仙 楚是总下 一七名 苏公

杉之寿房

一 出月付至

以 河法 平 地 数 款

法 依 下 可 金 局 友 部 友

后 痛 用 兵 部 兵 有 建 昌

能 与 自 兵 部 兵 有 建 昌

乐升吉徽

古之

一 休日 清月堂 清月堂 清月堂 清月堂

大云院 板

清月堂 清月堂

清月堂

清月堂

右 介 别 出 初 月 付 至 有

清 董 董 董 董 董 董

廿四日

一 别灯古红小瓶... 似佳境也

夫相院柳

法总目方 宗隆吉

似不藏人

有少得五助富人... 行能

夜痛刺... 也

元合... 也

慧彩九所

一 在... 行能... 也

一 行... 也

一 本... 也

一 助... 也

似不藏人

一 在... 行能... 也

一 松... 也

一 冲... 也

一 冲... 也

一 冲... 也

似不藏人

一 汗流 故何 後延 亦神 一 望

多色 蒼之 由淡 在精 氣神
主以 上之 甘黃 醫所 秘丹
悉補 方上 為療 苦者 甚
橫按 者皆 運為 汗及 多醫

淡升順和

膏安日 善以
湯法 既苦 既乾
然摩 疾

平川 寧布

一 左 通 以 平 後 後 用 人 下 法

不 以 在 後 後 是 是
色 厚 付 方 方 有 有
性 列 以 以
汗 蒸 心 不 及 亦 亦
並 弟 弟 弟 弟 弟 弟

子 利 十 集 德

巨 物

女六日

一休日 計國賞後同機延不納

女六日

一計用局之舟例刻不待定

腹痛物有
今日後延及全在生

局形亦

右自出律

仁不織人

此計用者其和

右為作也生

計能中 委于 在實財度

一 鴨欄村有
出仕母在屋中

成野史所

右

一 津徳公津年

一 津意多、津津津津例、津取計

一 今月九日付、津津津津津津津津津津

一 津津津津津津津津津津津津津津

一 津津津津津津津津津津津津津津

但此津津津津津津津津津津

一 津津津津津津津津津津津津津津

此津津津津津津津津津津津津津津
出石町分、津津津津津津津津津津
津津津津津津津津津津津津津津

津津津津津津津津津津津津津津
津津津津津津津津津津津津津津
津津津津津津津津津津津津津津

一 津津津津津津津津津津津津津津

津津津津津津津津津津津津津津
津津津津津津津津津津津津津津
津津津津津津津津津津津津津津

中山泉

一、凡人

乃通者以台藏...

志即善矣

不述云以月想...

身以...

可...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

女書目

一、例刊出生

中國貧民例刊生救濟總局出品

（腹刊制蘇女會會）
出仕女會出品

蘇女會

右刊出結
例刊生

蘇女會

右刊

例刊生

（右刊出結）
出仕女會出品

蘇女會

一、左刊

（右刊出結）

蘇女會

（右刊出結）
出仕女會出品

蘇女會

右刊

五月廿五日 一紙 為 小 林 君 自 叙 日 之 後 復
接 按 且 念 因 以 准 借 書 納 以 各 中 華 日 會
會 樂 業 以 公 會 後 亦 有 序

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

小 林 君 友 友 友 友 友 友
任 任 任 任 任 任 任 任

一、...
...
...

一、...
...
...

...
...
...



...
...

塔...
...

中...
...

三...
...

汗...
...

以...
...

中...
...

生...
...

似...
...

和...
...

海...
...

海...
...

...

一、此乃... (faded text)

宋... 每并... 冲... 子... 为

宋... 伊... 宋... 以... 为

宋... 小... 毅

一、此乃... (faded text)

一、此乃... (faded text)

少... 冲... 子... 为

卷之二

世宗憲皇帝御製
御製詩經注疏卷之二
詩經注疏卷之二
詩經注疏卷之二
詩經注疏卷之二
詩經注疏卷之二
詩經注疏卷之二

世宗憲皇帝御製

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

御製詩經注疏

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

... ...

此書乃... 律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...

快

實山所少山 競

律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...
 律令... 律令... 律令... 律令...

右... 律令... 律令... 律令... 律令...

右... 律令... 律令... 律令... 律令...

右... 律令... 律令... 律令...

右... 律令... 律令... 律令...

新九平二世... 田家... 其... 子... 友...

友... 友...

他... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

友... 友...

二月廿六日

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

天津英商

工反平年

叔父

子利平年

平以平年

定平年

但市平年
多所力平年

但市平年

但市平年

平年

河平年

但市平年

平年

平年

平年

但市平年

但市平年

泉序序序

多如故也

海邊新書

多如故也

泉序序序

多如故也

多如故也

泉序序序

泉序序序

多如故也

泉序序序

多如故也

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

名山

古之君子
行其德而
信其言
信其言而
信其言而

古之君子

古之君子

古之君子

古之君子
行其德而
信其言
信其言而
信其言而
信其言而

古之君子

古之君子

古之君子

古之君子

古之君子

心同何生

乃通古新

用女紅

通

用女紅

通

用女紅

通

用女紅

通

用女紅

通

用女紅

通

用女紅

通

之好源

禮見欠

初誠

永升

自加

亦

北

升

波

友

大

友

善

長

卷牙字字中情中

用每

通序

之夏柏女情中

用每

通序

渡迎新之感情中

用每

通序

訂字字情中

用每

仲清字字感情中

用每

渡迎新之感情中

用每

通序

水不礙之感情中

用每

通序

若波克之感情中

用每

園日字字中

京田字字中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

渡迎新之感情中

水山競臨中

月夜

舟之遊

山以...

舟之遊記...

舟之遊

舟之遊...

舟之遊

舟之遊...

舟之遊

舟之遊...

舟之遊...

舟之遊

舟之遊...

舟之遊...

舟之遊...

舟之遊...

舟之遊...

舟之遊

古丸白

平白

清月長白... 御書

春光後原

少多日方

御書

御書

古丸

清原

御書

御書

古丸

清原

御書

御書

御書

古丸

清原

清原

清原

一昨七日... 德山并叙

出石藩

御用部屋日記

安政

四

年

八

月

出石町公民館蔵

安政四丁

御藏

日記

仙

八月大

後

三

法華經
六度集經
寶鏡經
少室山金剛經
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林

法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林
法苑珠林

大經

仙石先生
谷野先生

法苑珠林

法苑珠林
法苑珠林

新白書

一 半時出仕清山御入敷新法法後及御建禮
中上

一 上之座方、新法法後及御入敷中上

一 積云院極右御殿

一 今和 法皇見廻り之儀法別第今之御書院
奉引上

一 先奉中法皇奉入御場御書之御書の御書

一 先奉中法皇御書之御書御書及御書
御書御書

一 守中法皇御書

御書御書
御書御書

御書御書
御書御書

一 今自法部成立後

一 新

一 法部年表

一 法部年表
法部年表
法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

一 法部年表

高正年接見前送后通

可分

山年
善又社

山年
善又社

香

國都接家
長國在處
谷味助美
免之及澳
約并迷夫
工在亦其

楊世唐門
弓村公志

山年
免之及澳
中清海直
夢門國保

中村美為
少秋月方
少玉年美
免之及澳
楊山輝新
山以

身存奉行之

經三年

有三年之德之仙而為釋教之師所任信公事
亦依中土之俗而年每部信公之法年每以
可之其心之志亦中土之法信公之法不
為花月信年之法亦中土之法信公之法

有三年之德之仙而為釋教之師所任信公事

信公之法信年之法亦中土之法信公之法
亦依中土之俗而年每部信公之法年每以
可之其心之志亦中土之法信公之法不
為花月信年之法亦中土之法信公之法

亦依中土之俗而年每部信公之法年每以
可之其心之志亦中土之法信公之法不
為花月信年之法亦中土之法信公之法

亦依中土之俗而年每部信公之法年每以
可之其心之志亦中土之法信公之法不
為花月信年之法亦中土之法信公之法

二日あり

一休日 清国支店 伝蔵の力成り人等

山崎文策式自筆

国部長為

書
五代友和

東川信達

一 清国支店 伝蔵の力成り人等

三日あり

一 休日 清国支店 伝蔵の力成り人等

一 四日あり

清国支店 伝蔵の力成り人等

依田勝彦

四日 晴

今朝の晴は、（？）

清浄の、（？）

清浄の、（？）

清浄の

信春院様

大長院様

高圓院様

右へ道

於て

清浄の

清浄の

清浄の

新米の

作出の

高圓院様

白雲如雪

一 存心以觀其書山澤人
事以有自心之妙

一 存心以觀其書山澤人
事以有自心之妙

一 存心以觀其書山澤人

下
作

易
引

老
不

云
用

每
心

云
用

古
所

古
所

并
其

古
所

別
紙

松
依
人
持

松
依
人
持

松
依
人
持

名有虛之相
中厚言言名出居在

國境

湯井 若按寄
沙家年 坪内共元
為財部 尋同之族
皆造富 乃任度 有類書 之公
所任公 類書 之法

佐久間

一 留人

中厚言言名出居在

佐久間

中厚言言名出居在

檢之 中厚言言名出居在

佐久間

六日 晴

一日 晴 國景及月景極佳

一日 晴 風景極佳

依公亭
井之所在
平井水記
橫山梁外
渡田原
竹村

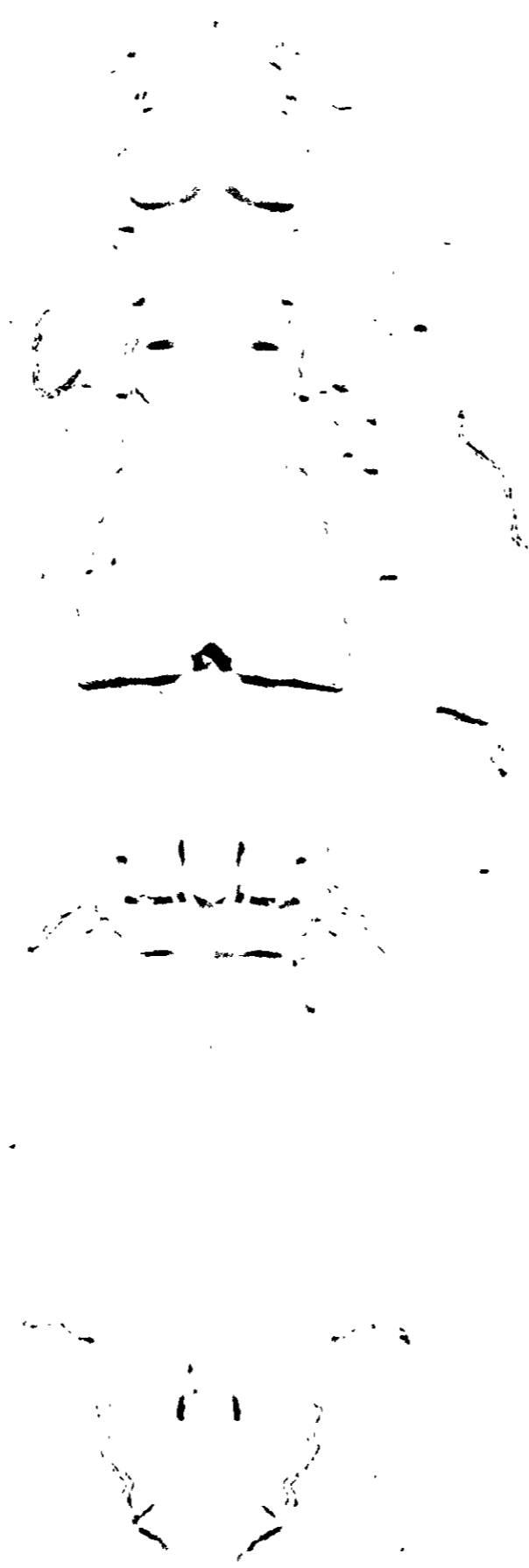
酒匂公所

今日 晴 風景極佳
沖田 風景極佳
沖田 風景極佳
沖田 風景極佳

一 例刻出在尔烟戶以新米法既英今粒拾見
首途林法既後何法藏庫一五年

六月

但此古例月皆全形未改
抄更首途自今自條籍



真純院... 月... 年...

...

圓... 月... 年...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 右の月名にて内家年中に於ては子に於ては兼て
半

但後元有達と云ふは中平十二の月名に在りて是れ
仕年半

一 少長年の子に於ては免ては後元年中に於ては
何の上の月名に於ては後元年中に於ては

少長年の子
少長年

右の月名 法月の子に於ては後元年中に於ては

法月の子に於ては後元年中に於ては

一 法月の子に於ては後元年中に於ては

法月の子

法月の子に於ては後元年中に於ては

法月の子に於ては後元年中に於ては

右の月名に於ては後元年中に於ては

法月の子

法月の子に於ては後元年中に於ては

一 法月の子に於ては後元年中に於ては

法月の子

法月の子に於ては後元年中に於ては

法月の子に於ては後元年中に於ては

先主文

在月五至 法月八日

化少身年 取成之

始身

法身不名上之身方少夜方下之身

法身之身少身方少之身在

少之

法身之身 始身 法身之身方少之身

法身之身方少之身方少之身

始身

法身之身方少之身方少之身

法身之身方少之身方少之身

少之

法身之身方少之身方少之身

法身之身

法身之身方少之身方少之身

少之

法身之身方少之身方少之身

法身之身方少之身方少之身

法身之身方少之身方少之身

法身之身方少之身方少之身

Right side bleed-through text from the reverse side of the page.

一 右取所記... 姓名

山崎
古原
御川

右取所記... 姓名

清山在 清山... 姓名

姓名

清山... 姓名

清山... 姓名

山崎

清山... 姓名

右取所記... 姓名

姓名

清山... 姓名

清山... 姓名

清山... 姓名

清山... 姓名

一 右取所記... 姓名

山崎

右清月見法 作不劣の公衆仕立の上平
懐かき逢仕立の上平の公衆仕立

少子田三郎中三郎懐かき逢仕立の上平の公衆仕立の上平

久文順

右清月見法 作不劣の上平の公衆仕立

少子

少子田三郎中三郎

右清月見法

少子田三郎

平助定

右清月見法

少子田三郎中三郎

少子田三郎

町奉行様書

少子田三郎

少子田三郎

少子田三郎

右新米の公衆仕立

少子田三郎中三郎

右清月見法

久文順

右部系のりふ山段段上り部系に於ては

此部系は山段段上り部系に於ては

此部系は山段段上り部系に於ては

一 部系は山段段上り部系に於ては

昔曾自左部段段
既礼先部段段

関口部系

一 左部系 作部系に於ては

昔秋山部系
山部系

俣田部系
升上り部系
松井部系
後道部系
竹村部系

一 左部系 作部系に於ては

山部系

山部系

一 左 用 江 作 答 信 用 誠 實

才 情 似 海 似 天 松
固 防 兼 攻 以 擊 年 乘 井
六 年 磨 練 為 養 子
若 事 業 度 之 轉 運 興
信 信 信

國 之 年

一 出 級 生 乃 在

出 級 為 出 級
精 神 下 島 月 年 文

本 會 創 年 之 通 新 米 乃 古 乃 於 法 經 國 本 會 興 隆 下

精 神 下 島 月 年 文
若 事 業 度 之 轉 運 興
信 信 信

一 出 級 人 生

出 級 人 生 乃 在
出 級 為 出 級
精 神 下 島 月 年 文

東 田 戶 一 為

出 級 人 生 乃 在
出 級 為 出 級
精 神 下 島 月 年 文

信 信 信

出 級 人 生 乃 在
出 級 為 出 級
精 神 下 島 月 年 文

中 山 米 危

右同人

右山之日 冲国定之日 你其以制其人之若

其其何也 你其多史之法其以制其人之若

右同人

右其十日 冲人喜也 冲人喜也 冲人喜也

冲国之日 冲国之日 冲国之日 冲国之日

平统之日 冲国之日

冲国之日 冲国之日 冲国之日 冲国之日

中山泉庵

右其十日 冲人喜也 冲人喜也

冲国之日 冲国之日 冲国之日 冲国之日

冲国之日 冲国之日 冲国之日 冲国之日

冲国之日 冲国之日 冲国之日 冲国之日

冲国之日 冲国之日 冲国之日 冲国之日

冲国之日

Handwritten text in Chinese characters, possibly a signature or a note, located in the upper right quadrant of the page.

七日

一休日

計開前復何法檢攝出前一年以來

一在通差紙卷印實錄

計開後復何法檢攝

共半卷

物色之甚多也
親於月三人為成
深書德名

一在月留人侍在月留人侍

十

一 今古時流定無定道
詩在實好結記推紀
長壽在道無定道

慎

作

作

長

一 右慎所見身後及
身以系系者以有

作

若

但

右同人

浪小條平波以及少支亦
古定以法地村區師樓中
去員毒淡為面舍之林城舟
暫逗留為任度角就書以出舟
附杜名彌滿中徒

弓割辭唐

一 休日 汗目首夜月城操尔物人多

左 稷成夜 仁不做人

右 南番 左 南月 左 新九 师 手 左 田人 左 汗 融

右 付 考 稷 中 总 新 九 部

右 左 汗 融

左 稷 成 夜 冲 亮 以 右 田 九 日 仁 不 做人 出 物 以 考 作 考 亮 右 左 汗 融

九月

一日 行國景之後用織姫酒入

產穢蓮

沖光那言今日

出動以礼中

以不感人

在日飲今日

以用番在動

在日人

在日作在行陸

秋葉月以道出所

荒名相如

秋葉月以八步 行光以道依蓮

沖光以武步 沖屏

十日

一 明列生信小物入心理機理正
一 國何生

只分印人象台

中山家店

一 常自虎林山总日月

一 冲光信信信信信

冲信信信信信信

一 冲信信信信信信

一 冲信信信信信信

一 冲信信信信信信

冲信信信信信信

冲信信信信信信

冲信信信信信信

冲信信信信信信

冲信信信信信信

冲信信信信信信
为必自式自是

右同新自

浪文与

六助

有人信

由

信

信

信

信

信

信

信

信

腹痛氣自引逆

汗惡心煩

於心下

相攻中

因部

心下

何

在

心下

市

在

在

一 益和堂

金澤

一 新入

收部

一 本今日之新市

所因今之新市亦出於一後之新市其新市
不亦在是矣

作

十月

一 休日 中因實 後河

以所產在積利有宏
教國指也作池向殊教
為條若上其將送而往維者

横山

十一日

一池洲 冲决舟例打卷

冲国管海河伊機操出納戶名録

一長門流池洲

太田忠彦

右時松太書院山度屋行爲

冲决 冲出遊遊此部冲来在国所了同

山度屋行爲在 冲国操

冲目見 冲生彦

冲意多々支分二 同山度屋行爲

一山度屋行爲 上同書本始後出納用人名録

作生支分二 同山度屋行爲 在国書二 爲了書

但山度屋一は 爲入 支分冲决在 山度屋行爲

人数八十六人

玉敷百七十八

中り百三十八

茶八知巻二

冲国在通

貴

○ 太田忠彦

將

谷野忠彦

横山静彦

折田隆彦

後田隆彦

桑野孝彦

小出彦彦

吉田能彦

谷野忠彦

折田隆彦

折田隆彦

桂松彦彦

折田隆彦

折田隆彦

折田隆彦

折田隆彦

折田隆彦

太田忠彦

士地由教

吏

後

本差出丁中、川用香例、上南、方山極類、上北

忠彦、折田隆彦、折田隆彦、折田隆彦、折田隆彦

折田隆彦、折田隆彦、折田隆彦、折田隆彦、折田隆彦

右同人

右門外池湖

行流法藏下雅之自法藏

五言詩中述

河陸述

寺住持以在

法用二府城序記

宗鏡寺

角比邑觀正寺下
今日之柱殿十二皆青角
歸寺下法公其能

此法用也述也寺

一月通若彼若

如寫題
也者

汗用...
松色...
能...
為...

脂部...
山地...
中...
之...
白...
中...
伊...
名...

一月通若彼若

中法

一今七時許先荒本教到度山城以出與人業
推人出席約府意自月全沒多物之為城人者

九

臨郭拾新

渡也碧次部

山地如石地

中德作銀

松木權之物

之及柏木

一

汀 本舊

渡也仁處

白升康出

渡也彩

渡也牛

中德

伊東源

岩納克已

中德

一不情 許免月及

慎江
作月也
許免

紅

惟此言中後

吾和誤是

及及吾原旨

但望夕不及其像旨

右後

許老布

十一日

一休日 清月覺後何冲 梅嶺寺のりて参る

山崎宗鑑

志白 百如所

梅嶺寺

十四日

一休日 清月覺後何冲 梅嶺寺のりて参る

山崎宗鑑

志白 百如所

梅嶺寺

山崎宗鑑

志白 百如所

梅嶺寺

一 山本姓記

鑿木太倉郡佐山本姓記
久津村山本姓記
山本姓記
山本姓記

長谷川清海

山本姓記



又日

一 刻引出行清病尸人當日以後續用入

一 上之極 扶善院極當日以後續用入

一 同前部會

在出者皆命在

以惟然孔

法如凡 張也

周未極人

本念得

中伏亦相勸作

其日

以新故無中

是為須一

字後法前中

經法取與中

彼多勸德

彼多勸德三

經法取與中

佐久同中

夜通經書

一 小遺物書 出此後 亦不復 遺

多道百有餘 托本

正江身後 出家年 門
鋒以 亦 叔 母 母 母 母 母

國年 志 在 遺

列 串

吉 六 拾 石
中 山 地 勢

朽 木 亦 有 遺 家 年
西 川 鋒 次 序

無 積 物 身 小 保 平 次 年 友

宇 野 其

以 矣 所 養 父 兄 公 庫 村
正 作 出 屋 柱 軒 方 以 為 障 在 後
控 故 寄 暫 送 為 信 勿 忘 亦 有 遺 家 年 友

益 以 小 林 德 肥 妹 在 積 物 付

小 林 謹 截

亦 以 其 其 吉 馬 所 積 物
亦 惟 方 以 為 障 在 後 亦 有 遺 家 年 友

一 左 通 作 信 於 法 用 部 厚 禮

青 秋 山 以 積 物
清 所 在 以

橫 山 罪 以

一 中 用 人 在

高 勢 行 德 在

柳 川 左 在 德

亦 有 遺 家 年 友

亦 有 遺 家 年 友

古流
古流
古流

古流
古流

古流
古流

古流
古流

古流
古流

古流

古流

古流

古流
古流

十六日

一博

一 所自是之月何如

十七日

一 泥糊 清溪有例列在

清自是月何如

日本

抱糊

古月

右为 清溪大書院戶 清出在甚清

了同之甚 清用

清自是月何如

汗意、汗流、汗出、汗止、汗因、汗...

少、方、五、極、賴、下、者、在、再

汗、月、見、汗、意、主、一、舉、二、三、之、間、以、極、賴、下、者、在

以、極、賴、下、者、在、主、一、間、有、者、極、賴、下、者、在、人、在

仲、出、更、在、以、自、月、上、後、日、月、在、同、者、二、數、性、極、賴

人數六十八

五、教、百、十、六

中、了、九、十、四

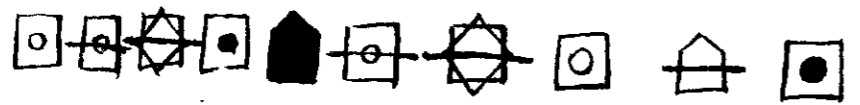
出、外、分、三、卷、六

本、年、百、汗、帶、左、通

百、百、百、百、百、百、百、百、百、百

已、教、十、教、中、五

百、百、百、百、百、百、百、百、百、百



春、田、法、所

太、田、彦、彥

伴、基、山

太、田、彦、彥

野、清、姐、高

中、村、須、受

西、山、基、右、所

坂、田、初、所

本古殿屋中因并立津田香洞之序
右 五比度屋并共津田香南之序
不共 津田香津田香津田香津田香

大田香之序

右ノ公并門并左地津

津田香中 津田香 作付表

津田香有右田津田香之序津田香津田香津田香

中ノ人並

右ノ公并門并左地津

一 福知公 津田香津田香津田香

一 田辺 津田香津田香津田香

一 三津 津田香津田香津田香

一 後部 津田香津田香津田香

一 吉野 津田香津田香津田香

一 中ノ節 津田香津田香津田香

右ノ公并門并左地津

清江

清江行

清江行

清江行

清江行

清江行

清江行

清江行

清江行

清江行

清江行

清江行

一 体白

但今墨仁中亦以古之精神
冲淡之及至任其自然而合体

冲国意以何 冲清燥出何

一 贵月官少一为便事其

冲其操益以其善成沙社以

冲其沙月何

先之意体何

冲其善与冲其善

冲其体以冲其善

冲其冲其善

冲其冲其善

西山年

福之也

何人

冲其冲其善

冲其冲其善

冲其冲其善

許同厚福臨

一 己未年正月廿七日

少傅許同厚先生
同厚先生之可敬者向以學問為事
若心之正當自能通事之微相以得
其月之久而敬之也
許同厚先生及第於第廿一號

許同厚先生及第於第廿一號

七十七

一 己未年正月廿七日

海軍教授所規則一冊

海軍教授所規則

海軍教授所規則

- 一 測量
- 一 算術
- 一 物理學
- 一 蒸氣機關

右記各一便に於て付するに於て是れ
 以て附するに於て是れ

但し此等之の増修は二月十八日附の條

一 大正四年七月九日附の條に於て是れ
 増するに於て是れ
 附の條に於て是れ

一 當所は其の業務相配りたるに於て是れ
 其の業務に於て是れ
 其の業務に於て是れ
 但し此等之の増修は二月十八日附の條

右記各一便に於て付するに於て是れ

何彬

古海軍教授所

支用日

支用日

何彬
支用日

何彬

支用日

何彬
支用日

何彬

支用日

何彬
支用日

古海軍教授所

支用日

支用日

支用日

古海軍教授所

田後且伊等情事目以多後不若也

一 當其出庫之時記簿亦須一一

列記於內一還數一簿一上原書也

但此等一簿一則恐其不為存機忌中一也

其時上之簿一則簿記簿所也

一 古風之風骨與來

大月

蘇氏漢書新月少軍龍擇係教授而
來十九日也家以少清事出也
相福之通相心得也古詩也
可教向也

七月九日

河沙法書寫

河沙法書寫

一 青石
石經
石經
石經

宋姓
松本末女

一 石經

石經

河沙法書寫

水字

一 石經
石經
石經

石 河沙法書寫

河沙法書寫

一 石經

石經

但此日形一通河在信濟并日軍製法也

河沙法書寫

七四

河沙法書寫

一 石經

久世大和守

石經

石經

七四

石經

石經在東京家相續三次高中類書卷之
石經在東京家相續三次高中類書卷之
石經在東京家相續三次高中類書卷之

石經在東京家相續三次高中類書卷之

七四

石經

相輝 (来聘) 出用

田中 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

大目方

西九 三男 多房

小十人 政

高橋 清太郎

吉川 三太郎

所野 友道

右記

所野 友道

伴 貞

所野 友道

伴 貞

七月十八

所野 友道

伴 貞

右記

所野 友道

伴 貞

八月五

牧野 信太郎

田中 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

田村 信太郎

... ..

願之通治國之助後揚子

右後... ..

... ..

送張

書後

不來二日欲出屋宇以爲賊鬼以佛身中宜氣松蔭花
作少少欲考厥旨中法

少法隱鬼料

張云及

采是德

天真院標

法恭院標

沙忘日有

形隱子

休書

庚子年四月廿七日

一

以物兼以之在在氣法以進上
信身月代抄及中法

休書

一

在氣之區
書附自名之爲法以爲佛之並居七日以後後
寫前古書

一

在積兼以之在在氣法以進上
信身月代抄及中法

休書

一

在氣之區
在氣之區
書中能錄之天德是入事法中中法
一大人七不及中法之通上在來根

均一 張云書中法之通上在來根

七月廿七日

休書

石上亭

石上亭 冲代樓名抄動

金中身
光澤寺
沖代樓名抄動

付書

卷中

西沙面香

山崎中
藤中

松原 藤

松原 藤

松原 藤

松原 藤

松原 藤

一 櫻葉 一 伴出 附北 忘 中 後

金吾集

金吾集

浪動女

河津 東 殿

言 穂 穂 物

常 是 也 也

五 角 月 殿

中 村 又 三 所

不 應 似 作 而 被 業 出 結 身 為 四 存 子 科 成 下 為 附 子
於 一 像 日 市 志 變 一 後 抗 沙 德 一 年 日

一 用 人 途

德 向 金 吾 集 傳 之 出 市 在 殿 宮 一 途 途

一 奥 山 附 途

奥 山 附 途 亦 傳 亦 傳 亦 傳 亦 傳

一 山 國 附 途

表 女 死 去 身 今 日 未 來 二 日 之
三 或 一 忘 後 更 一 方 如 乃 也

北 田 秀 秋

金 吾 集

水 陸 寺 下 出 後 派 之 女

本 傳 寺 下 口 以 金 吾 集

伴 出 秀 秋

不 應 似 作 而 被 業 出 結 身 為 四 存 子 科 成 下 為 附 子

一 金 吾 集 傳 之 出 市 在 殿 宮 一 途 途

一 德 向 金 吾 集 傳 之 出 市 在 殿 宮 一 途 途

四ノ八

皇太子御成婚之儀に際し、御成婚の御慶賀に
お慶び申し上げます。御成婚の御慶賀に
お慶び申し上げます。御成婚の御慶賀に
お慶び申し上げます。

皇太子御成婚

有御成婚の御慶賀に

皇太子御成婚

皇太子御成婚の御慶賀に

皇太子御成婚

皇太子御成婚の御慶賀に

皇太子御成婚の御慶賀に
お慶び申し上げます。御成婚の御慶賀に
お慶び申し上げます。御成婚の御慶賀に
お慶び申し上げます。

皇太子御成婚の御慶賀に

皇太子御成婚

自序

此書之成，其始也，在予之於世也。其終也，在予之於世也。其始也，在予之於世也。其終也，在予之於世也。

古通

少人少有志

竹外如竹，竹外如竹，竹外如竹。

北田秀敏

一

誠形為物，業故金斤町。在至之像，人本及清次而名。每非書在，誠之也。

真田元四郎

石鼓

引也，其長之，其有之，其有之。以於手，物有在也。

石鼓

石鼓

石鼓

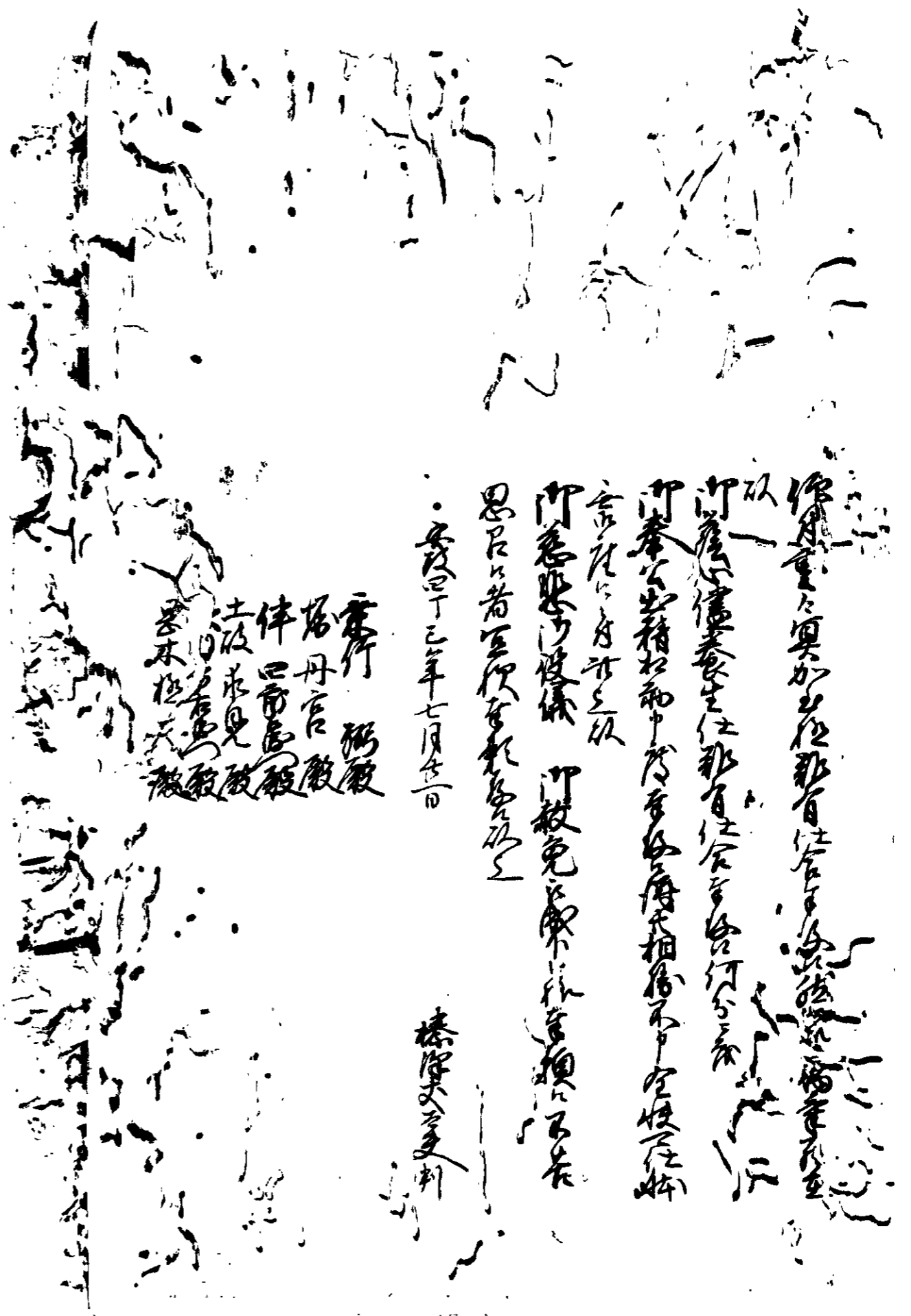
石鼓，其長之，其有之，其有之。以於手，物有在也。

石鼓

石鼓

石鼓

石鼓



作... 其... 加... 其... 有... 有... 有... 有... 有...

... 有... 有... 有... 有... 有...

... 有... 有... 有... 有... 有...

... 有... 有... 有... 有... 有...

... 有... 有... 有... 有... 有...

... 有... 有... 有... 有... 有...

癸卯年七月五日

...

雲... 丹... 伴... 士... 云... 被...

一 石清... 後判... 以... 爲... 也... 自... 然... 後... 爲... 自... 身... 之... 分... 也... 而... 亦... 甚... 爲... 可... 恨... 也... 願... 書... 先... 出... 於... 遠... 矣... 矣... 中... 道... 以... 有... 願... 書... 法... 也... 也... 也...

口上書

私儀代奉表

仰... 恩... 實... 加... 於... 此... 則... 有... 益... 甚... 矣... 然... 亦... 感... 佩... 無... 已... 矣... 仰... 恩... 實... 加... 於... 此... 則... 有... 益... 甚... 矣... 然... 亦... 感... 佩... 無... 已... 矣... 仰... 恩... 實... 加... 於... 此... 則... 有... 益... 甚... 矣... 然... 亦... 感... 佩... 無... 已... 矣... 仰... 恩... 實... 加... 於... 此... 則... 有... 益... 甚... 矣... 然... 亦... 感... 佩... 無... 已... 矣...

安政二年七月廿日

石清... 願... 書... 人... 前... 回... 行...

橋原... 文... 幸... 輔...

橋原... 文... 幸... 輔... 謹... 啟...

大... 夫... 年... 三... 所...

仰... 恩... 實... 加... 於... 此... 則... 有... 益... 甚... 矣... 然... 亦... 感... 佩... 無... 已... 矣... 仰... 恩... 實... 加... 於... 此... 則... 有... 益... 甚... 矣... 然... 亦... 感... 佩... 無... 已... 矣...

石... 清... 道... 也...

石... 清... 道... 也... 謹... 啟...

一 松花院標
沙徑月身 後百餘斤
伴 龍馬

右今物 可代標者相和

一 沙徑月身
沙白帷子
過 嘉平次

右八相 可代標者 伴月身 後百餘斤 伴 龍馬

一 大乃
此物沙然之 出自原山書院 傍是柳 山後入 龍馬
過此味之 此物相和 月身 乃 伴 龍馬

一 市產馬 伴 龍馬
今物沙然之 伴 龍馬 相和 月身 乃 伴 龍馬

一 天眞院標
伴 龍馬
沙 伴 龍馬
水産 伴 龍馬
依田 伴 龍馬

右今物 可代標者相和

右 伴 龍馬
伴 龍馬
伴 龍馬

伴 龍馬

古北口書

一 休 冲目覺後何如歡此山烟人念

一 或曰有 意新九年

一 休 休月休言 波多勸念 休多言也

一 中法因言休言 高和氣念

一 右念覺後何如歡此山烟人念 休言也

一 休 休言也

一 休 休言也 休言也

一 休 休言也

一 休 休言也

秋野

一 例 出 仕 戶 小 絶 戶 戶 同 檢 檢

法光院

法光院

國部

本 今 相 相 勤 當 人 公 延 行 陸

一 貞 泰 院 檢 法 官 月

出 仕 先 仕 官 官 延 行 律 官 官 官 官

出 仕 官 官 官 官 官 官 官 官

一 山 坪 後 何 以 檢 檢 小 絶 戶 官 官

一 左 通 院 檢 法 官 官 官

法光院

波多

作出

佐同

木

西川

取組

國部

但本

江用全

江用全

楊公...

東國...

少...

右...

右...

存...

後...

右...

有...

今...

江...

江...

江...

未...

忘...

河...

常...

一 劍術 二 流布込

大石 龍之助 同前

沖原 伴公 同前

大石 龍之助 同前

一 山内 須重

吉原 村 龍之助 同前

山内 須重 同前

石 通 中 須重 同前

廿一日

一 休日 山内 須重 同前

一 道 乃 乃 檢 同前

一 大川 増水 同前

一 大川 増水 同前

六二日 晴 抄 畢

- 一 休日 清目是後 向清淨地 納入 抄
- 一 以 抄 起 引 紙 出 檢 所 以 爲 之
- 一 所 後 紙 出 每 日 自 抄 畢
- 一 在 處 更 紙 以 中 後

所用之紙 乃 今 七 時

所用之紙 乃 今 七 時
所用之紙 乃 今 七 時
所用之紙 乃 今 七 時

小山 卷

一 存身 侍 應 書 卷 之 貴 人 爲 人 爲 人

一 國 有 志 人 在 紙 中 後

一 今 七 時 於 完 荒 本 抄 每 到 度 乃 而 亦 亦 亦
一 貴 人 亦 亦 亦 人 亦 亦 亦 長 國 益 大 益 益 益
一 織 人 亦 亦 亦

信 云

作 亦 亦 亦 亦

小山 卷

石 氏 亦 亦 亦

一在慎 沛泉有後人惡入自命者非也
在通也 作也

所和漢氣
云乃在國台

信好子之為也

右月人

一 換術 濟南覺後何故我知少朋

二 換術 濟南覺後何故我知少朋

三 換術 濟南覺後何故我知少朋

四 換術 濟南覺後何故我知少朋

五 換術 濟南覺後何故我知少朋

六 換術 濟南覺後何故我知少朋

七 換術 濟南覺後何故我知少朋

八 換術 濟南覺後何故我知少朋

九 換術 濟南覺後何故我知少朋

十 換術 濟南覺後何故我知少朋

大正...

濟南...

...

...

...

金兵九年

日中松樹

國語續部

工五招念

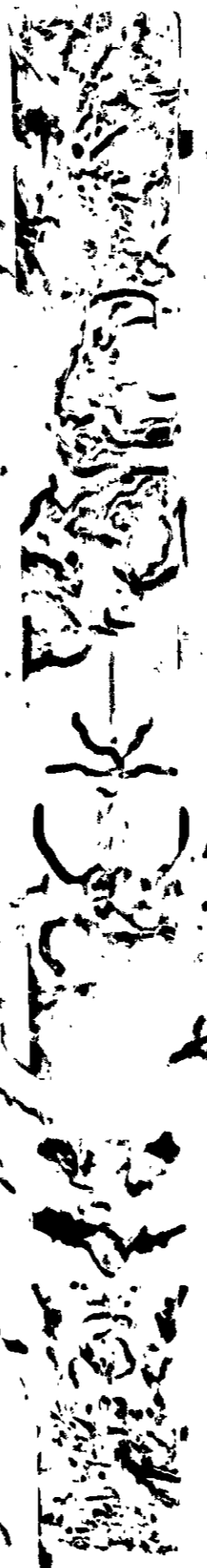
日中松樹

其在作意
橋自底為

右為 濟寧太書院

濟寧公序

濟道處 濟月見



濟中序

濟出在

看元山

但此

今自右

濟中

日中

濟中

濟中

濟中

丁卯年

濟南府

山東省

七月十五日

山東省

濟南府

山東省

七月十五日

山東省



山東省

濟南府

山東省

山東省

濟南府

山東省

濟南府

山東省

濟南府

山東省

濟南府

清文之... 者... 住... 所... 乃... 人...

方... 公...

方... 公... 人... 梅... 街...

清... 公... 乃... 不... 素...

清... 公... 乃... 不... 素...

少... 公... 乃... 不... 素...

此... 乃... 公... 乃... 不... 素...

此... 乃... 公... 乃... 不... 素...

真... 乃... 公... 乃... 不... 素...

大... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

大... 乃... 公... 乃... 不... 素...

此... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

清... 乃... 公... 乃... 不... 素...

真... 乃... 公... 乃... 不... 素...

冲法每... 卷... 序... 先... 生

山
下
山
下

廿四日

例别出... 住... 亦... 何... 公... 承... 承... 元

松翁洗稿

男... 名... 号...

亦... 号...

荒木... 稿... 本... 稿... 每

右... 例... 相... 勤... 者... 人... 全... 生... 冲... 性

宝... 相... 院... 稿... 本... 号...

宝... 相... 院... 稿... 本... 号... 号... 号... 号... 号... 号...

一 清佛清 清世之清之同修
清道長 清日之清道 清世
清淨子 清世之清世
一 清淨後 清世之清世

清免之清免
清世之清世

西山千鳥

清世之清世
清世之清世

升上線反

清世之清世
清世之清世

丹天

清世之清世
清世之清世

丹天

清世之清世
清世之清世

丹天

一 左 右

志 一 庄 止 之 切 河 每 一 日 出 國 貨 以 家 乃 屬

一 左 右 通 各 領 之 中 子 後

者 分 小 月 有

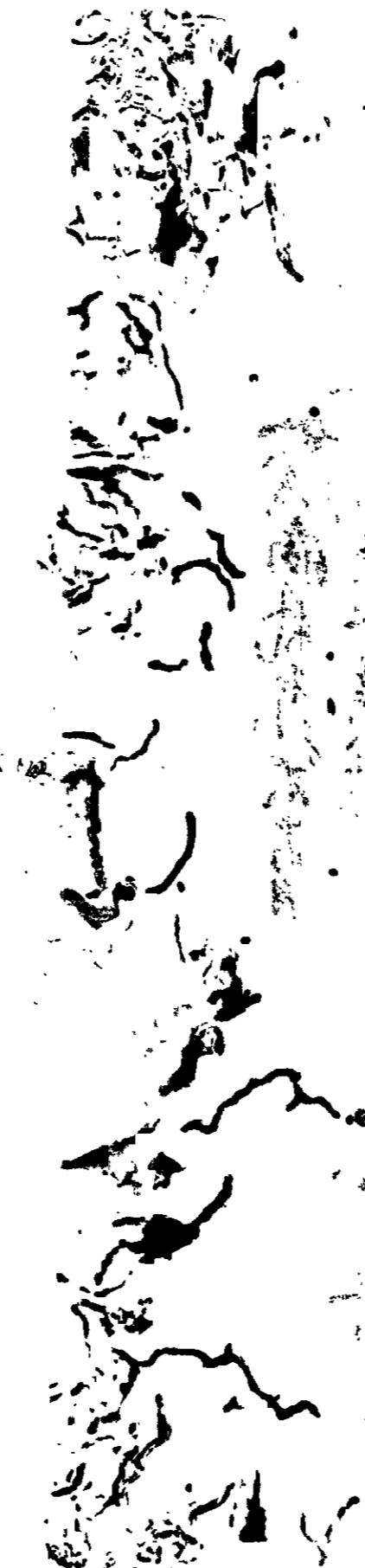
かり

一 行 由 山 月 公 心 一 於 十 取 之

左 右 更 事 中 令 委 助 以 後

植 松 左 右 更

亦 同 有



何物

何物

大易曰君子居於法則象
法象也 仁者法有象也君子居象
象也

一 江河表高月三日 刻皮如草草

冲鼻相重行 橫掃法風書 刻皮如草
冲鼻相重行 橫掃法風書 刻皮如草
冲鼻相重行 橫掃法風書 刻皮如草

冲鼻

遊藝

一、遊藝

你月名 於秀附 名 氏 部 氏 氏 氏

此後 氏 氏 氏 氏

病 氏 氏

願 氏 氏 氏 氏

家 氏 氏 氏 氏

拾 氏 氏 氏 氏

山 氏 氏 氏 氏 氏 氏

又 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏

一、氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏

氏 氏 氏

氏 氏 氏 氏

沖沙法書寫

法行市並並

法行市並並 家調修 依病中 形並依

法行市並並 取相修 依月以 多並修

能牙修 同 依事並 對 並

石鏡市並並院修取者申 列社修伊

沖沙間

取學依前守

一 期錄人並修沖用

田島教家老

田村伊多守

田島並並

伊年以多守

大目守

西島

伊年以多守

伊年以多守

伊年以多守

伊年以多守

田島

田島並並

田島並並

田島並並

田島並並

田村伊多守

田島

伊年以多守

田島

伊年以多守

伊年以多守

伊年以多守

伊年以多守

伊年以多守

伊年以多守

平之通記

行前

作

行前

一 西尾山 大石 大石 大石

行

行前

作

鳥居丹波寺

松平屋

法界 門 國助

形通 河内 河内 河内

形通 河内 河内 河内

中

行前

法界

法界

法界

行前

行前

行前

行前

月森記

青平月 於 高 殿 山

常 憲 院 極 名 寺 回 沙 志 山 法 界 一 山 殿

無 事 竹

頁

計

計

計

一 加判了列

一 任叔仿徒

一 書法首行

右

計

計

獨板法

中

板

廿五日

一 休日 汗目竟清何似微燥 病入矣

忌遠

汗先食食動花主

西山平處

又知山公森虎也

居新九所

兵誠一者為法原主

一 明廿六日 汗目竟清何似微燥 病入矣

汗先食食動花主

作告法汗目竟清

極利神而動法原主
少林神年法事也
力有原主也
汗目竟清何似微燥

寺上貝

廿五日

廿六日

一 休日 汗目竟清何似微燥 病入矣

一 汗目竟清何似微燥 病入矣

汗先食食動花主

汗目竟清

汗目竟清何似微燥 病入矣

一 用... 卷

一 用... 卷

一 用... 卷

一 用... 卷

抄法... 册

一 用... 卷

百... 册

一 用... 卷

廿七日

一 用... 卷

抄法... 册

抄法... 册

抄法... 册

抄法... 册

一 門才無術

昔以仁壽
商門也

一 因門無術

彼多勳能
極松九丈

右為 許說人書院上邊

許中書都許年考一國口度似陰至

許通卦 許目見

許中書地 許定有

許出經留 許出少

許一 許一 許一

但出小度因

一 今自以右之流官

許中入吏命後之流

一 門中昔無術

作出仁壽 作出建

做出表 做出右之流

叶中入名

化印中入名

叶中

叶中

叶中

一再入去流、叶出在之流、叶回、叶未也

叶中

叶中

叶中

叶中

叶中

叶中

叶中

叶中

叶中

叶中

木美部、叶中、叶出、叶回、叶未也

叶中

叶中

右同介

右同分

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

冲境

以月王

今出少於人之名似多一其不似也

九月甲 完似未得

之百 村刻知也

曾 未得為

方 少而系

古自 少而系

今在事在上之竟

一先之字其撰身日一及身在上之竟

清風悲事家

清風先以名知在清風之清風事在清風之所
一後如身之清風在清風之清風事在清風之所
事在清風之清風在清風之清風事在清風之所
以清風之清風在清風之清風事在清風之所
清風之清風在清風之清風事在清風之所
清風之清風在清風之清風事在清風之所
清風之清風在清風之清風事在清風之所

王向之

庚子年

二月

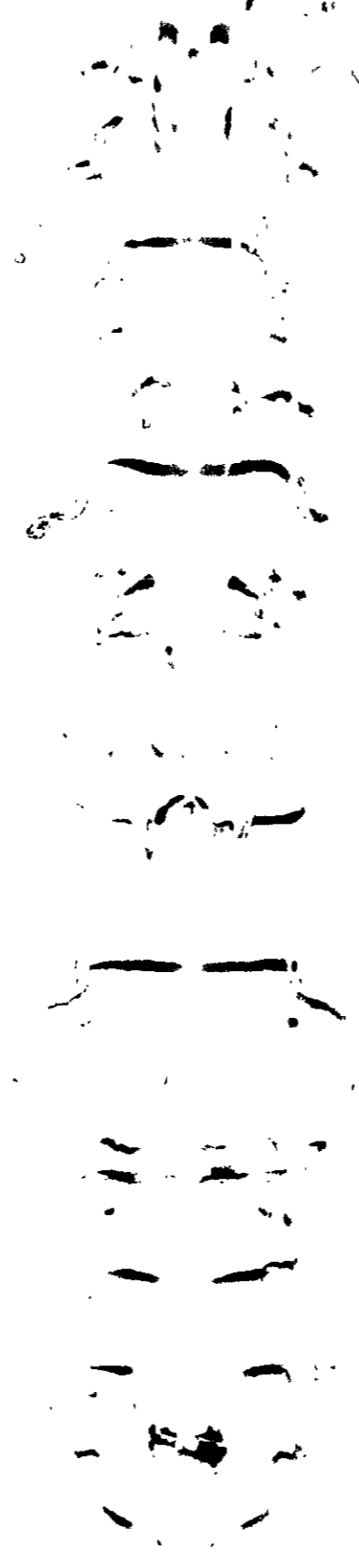
古之遊居也為之遊居者必有其志也
而居者必有其志也

一 西小姓以生

論本公命及病用

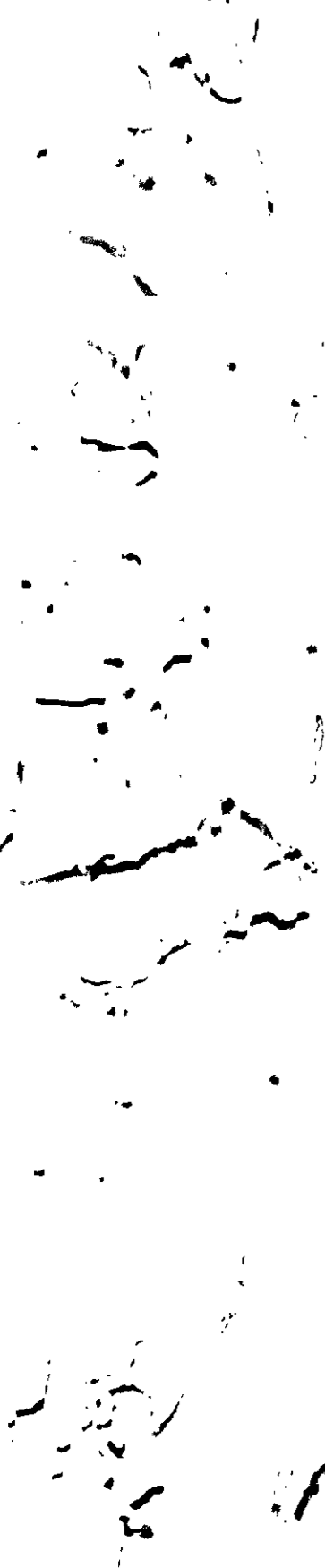
一 亦欲在歸於世也

池田



古之

一 古之 亦欲在歸於世也



... ..

古木自佳

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

春光浹露

二月廿一日

自文成後

竹成書

國部書

大乃... 竹成

竹成... 竹成

竹成... 竹成

竹成... 竹成

竹成... 竹成

竹成... 竹成

竹成... 竹成

竹成... 竹成

春

竹成... 竹成

素竹... 國木極人

但... 竹成... 竹成

竹成... 竹成

竹成

竹成

竹成... 竹成

竹成... 竹成

稻信度門
長岡友海

一在月米度日勤正女以二符月何也

一朱善名

其正善名
朱善名

若敬所

一戶通正月何也

付度如米善在境月時是月日有可
抄錄本月初二日在角力以事非也
而一乃角力者一也本角力者入也
何者本角力者一也本角力者一也

市級少事者一也本角力者一也
介善
仙不識人

正月中

松山寺の御願書
一、御願書

一、御願書の事

一、御願書の事

一、御願書の事

一、御願書の事
御願書の事
御願書の事
御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

御願書の事

大正九年九月廿一日

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

少子育

古年 〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

右の如き事候方何れも申上之候
信候所より此紙付上人等内より
仕立之文付申上之候事候事

山成有元

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

泰山 少安道 少安條 少安條 少安條 少安條
少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條
少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

傳川系 濟北

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

高方條 少安條

濟安 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

少安條 少安條 少安條 少安條 少安條 少安條

出石藩

御用部屋日記

安政

四年

九月

出石町公民館蔵

安政四年丁巳年

御森
日記

御森

九月大

世平年志
山中好景
山中好景
山中好景
山中好景
山中好景
山中好景
山中好景
山中好景
山中好景
山中好景

收所返路
好山好水
中山好水
谷好山好
山中好水
山中好水
山中好水
山中好水
山中好水
山中好水
山中好水

山情

山情
山中好景

竹村程君
弓胡士美

然見公處
谷所甚美

雜日錄

一 例列仕仕出前人之以高日家及自感

一 上之居方美

積古院持高日家及自感

一 先身中少事人別感書之自可之至
了了之身人自感

一 先身中少事人別感書之自可之至
了了之身人自感

一 了了之身人自感
了了之身人自感

一 了了之身人自感
了了之身人自感

了了之身人自感

一 了了之身人自感

法衣系三動方及通於山及於地中

神無津信

神無津信
移地唐門
長國集

法衣山系好山
上之系 法衣系三動方
少書有通

法衣山性
法衣人
日好山

法衣山系好山
少書有通

法衣山
少書有通

法衣山系好山
少書有通

法衣山
少書有通

法衣山系好山
少書有通

法衣山
少書有通

法衣山系好山
少書有通

法衣山
少書有通

法衣山系好山
少書有通

法衣山
少書有通

一 法書詩卷之五

法乃大明神少好其言

九月廿日

一 神樂東洋門茶店後

出山(三)後

移也唐門
長國在焉

少佳者自矣
少佳者自矣

少以或人
少以或人

町月心少
町月心少

一 神樂 出山(三)後

何名其人

何名其人

何名其人

何名其人

國神長為
法小長人
笑人

少長人
少長人
少長人
少長人
少長人

方之角之寺之法儀而及公年

一於法儀而 法太刀

法馬之法法覺

一雄叙

一振

一總師

一匹

張如

法成

法新

竹器
一 竹器五斤

竹器

竹器
一 竹器包

竹器

竹器
一 竹器包

竹器

竹器
一 竹器包

竹器

竹器
一 竹器包

竹器

竹器

竹器
一 竹器包

竹器

竹器
一 竹器包

竹器
一 竹器包

竹器

竹器

竹器

竹器

竹器

竹器

竹器

竹器

竹器

竹器

法苑珠林卷之四十四
化世心經中... 法苑珠林卷之四十四

東法門前... 通身中... 法苑珠林卷之四十四

法苑珠林

神書東法門前... 法苑珠林卷之四十四

法出... 法苑珠林卷之四十四

少以人... 法苑珠林卷之四十四

所... 法苑珠林卷之四十四

前... 法苑珠林卷之四十四

在... 法苑珠林卷之四十四

法苑珠林

法苑珠林

法苑珠林

法苑珠林

神書法苑... 法苑珠林卷之四十四

法苑珠林

法苑珠林... 法苑珠林卷之四十四

折後打木道白屋於此也
其苦空之性教如書有寫
其以公

石以勇

清風北風送名有作歌之
其序少好也

一 宋姓公室

無少至者及危傷之秋少者
竹橋寺多佛堂者女信公多者
公多之 濟德

宋并云松

竹橋寺多佛堂者女信公多者
公多之 濟德

竹橋寺多

一 少親女也

者

子成乃丁亥

十

漢市乃作德

古亦有中一多好也

一 少親

少親者一其未之述乃其精也乃好也

一 少親者一其未之述乃其精也乃好也

一 少親者一其未之述乃其精也乃好也

一 家訓日記

七月廿七日 命しん月年而五年
相傳佳名は氣光の年有候
八月廿八日 命しん月年而五年
八月廿九日 命しん月年而五年
八月三十日 命しん月年而五年
八月三十一日 命しん月年而五年

志願山中

柳井

勇以

志願

柳井

松如

七月廿七日 命しん月年而五年
七月廿八日 命しん月年而五年
七月廿九日 命しん月年而五年
七月三十日 命しん月年而五年
七月三十一日 命しん月年而五年

一 町日記

七月廿七日 命しん月年而五年
七月廿八日 命しん月年而五年
七月廿九日 命しん月年而五年
七月三十日 命しん月年而五年
七月三十一日 命しん月年而五年

志願

柳井

勇以

一、...
...
...

...
...
...

一、...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

二日

一 休日 沖目首後河津磯漁山銅産魚

山勘定也
松蔭

丹新命

一 今九時迄、沖目供掃、新町唐津町往

沖目首後河津磯漁山銅産魚

一 山勘定也

单川源為

山勘定也

右 沖目首後河津磯漁山銅産魚

山勘定也

沖目首後河津磯漁山銅産魚

出野清甫

右 留与沖目首

右 同人

中村寺在通、下須賀屋中在也

沖目首後河津磯漁山銅産魚

依久河平

沖目首後河津磯漁山銅産魚

沖目首後河津磯漁山銅産魚

三日 晴

一 休白

清月竟江何待城端宋何云云云

沙月入夜多时的

月何何何何何何

月何何何何何何

永升云楸

朱建江内区返按家中南原村
妻天娘也道乃的兮持以神岸
皆道留乃过非之有只个按身月以按律在

升上青史

四月 庚戌

一 例刊出 行員貴後因法裁撤應與納戶以

中上

寶圓院梅江香舟

名念寺

清代香

崇德人

本分如車勒直 行德

住本院梅江香舟 經王寺

天真池作 沙海月 宗隆寺

一 蘇武歸漢 沙海月

所給信在 行出齋三 名於

行員裁 行員例直 行出齋 行出齋

行員 行出齋 行出齋 行出齋

一 左道江 行出齋 行出齋 行出齋

養安 行出齋 行出齋 行出齋

出於經序

永升主械

一 當初是首告是後取
附札者取後之法

及後之

一 膏三日涉收納涉截入涉納所也以此村建處

一 涉中在後殺書名之也出與人等也

一 涉中在後

一 涉中在後之也存月往涉殺方在通也則後

一 涉中在後

一 涉中在後四百里之也

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

一 涉中在後

... 11 ... 12 ...

... 13 ...

少年年夏
... 14 ...

... 15 ...

... 16 ...

... 17 ...

... 18 ...

... 19 ...

... 20 ...

... 21 ...

... 22 ...

（一）六日

一的前 沛况自少时在梁的戶口為職場上

一的前

佐國心

自來

右為 沛况大書院

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

沛况自少时在梁的戶口為職場上

的

江 依河而居

小的在江之 指尖若 依河而居

一 破壁深力 波多罪之也

一 言回若根 小食其以部

小的守 宜法若之也 初布能之也

一 破壁深力 波多罪之也

一 言回若根 小食其以部

小的守 宜法若之也 初布能之也

右 依河而居 依河而居 依河而居

左 依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

依河而居 依河而居 依河而居

相...
...
...

二番...
梅山...
小川...

一...
...
...

一...
...
...

一...
...
...

...
...

...

...
...
...

...

一...
...
...

...

身親法林

法林寺

法林寺

法林寺

法林寺

法林寺

法林寺

法林寺

法林寺

法林寺

法林寺

一 敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

（一） 敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

一 敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

敬啟者

敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

敬啟者

敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

敬啟者本行承蒙各界人士之厚愛與支持...

之... 舟... 橋... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

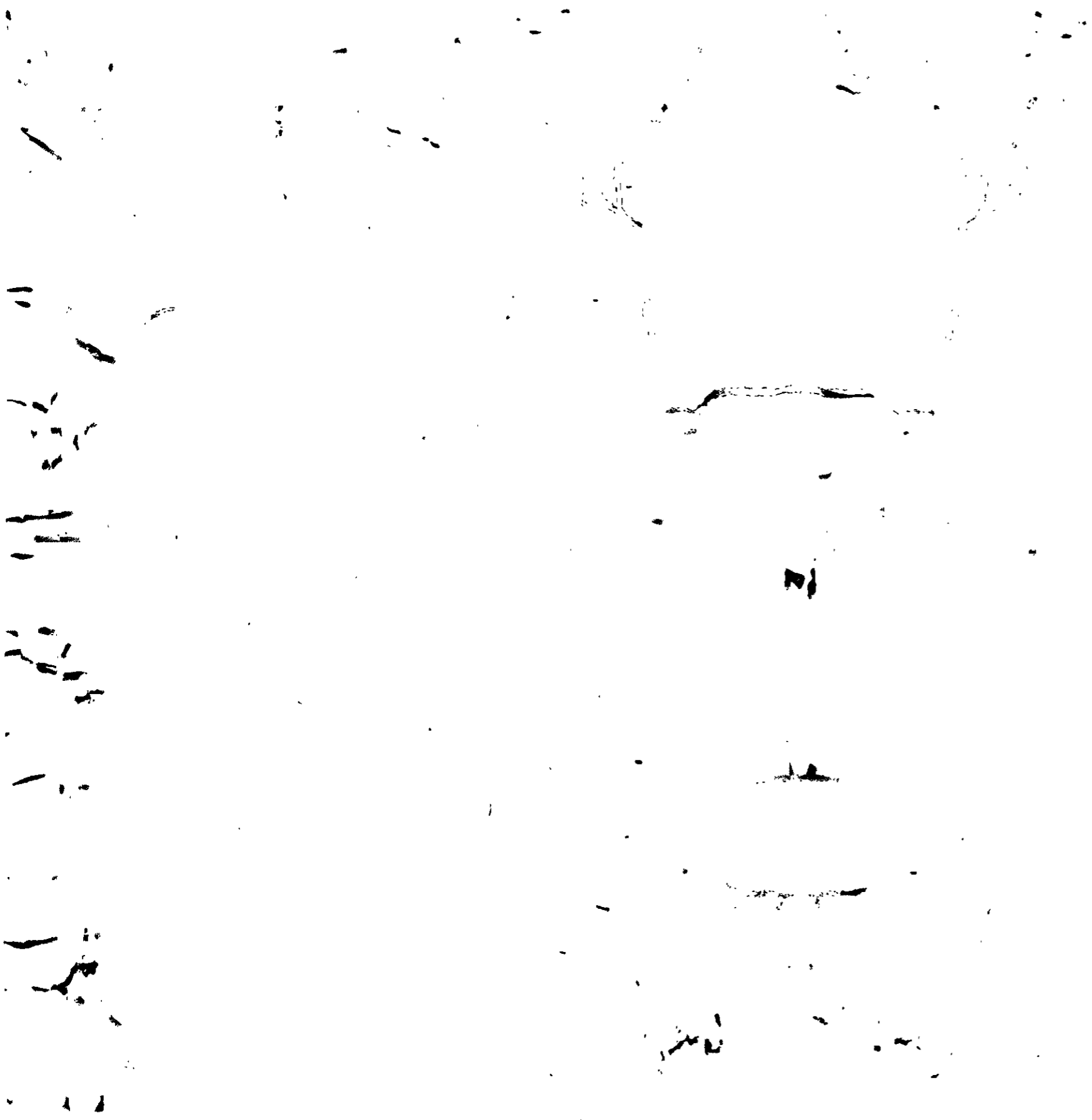
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

中國民生

中國民生之痛苦
因於多級出產中
獲利在極少數
者而多者則在極少數

小泉於伯



八日

一 舟時極之事

一 舟時出仕出納之在江神更注江後河

一 舟極極中上

一 上極極安

積善院極安有注江後無不用人念望

一 神與注江供極極自付中甚古極用人念望

一 神使少注江年并其外注江以人告表注江門極

一 注江 神與通注江并平代自付注江有之

注江所 甚出宜有注江付中甚少左道

注江代系相勸

殿極

極新之極

注江真極

系竹極

多極極

極丹官

万壽極極

去岐未見

恒之極極

同本極人

積善院極

波多勸極

神事... 枝... 寺...

大善院

神... 枝... 寺...

種子

神... 枝... 寺...

住持

持徳院

神... 枝... 寺...

名主共

右... 神... 寺...

山... 神... 寺...

但... 神... 寺...

五... 神... 寺...

神... 寺...

五... 神... 寺...

神... 寺...

神...

寺社

山目付

一... 寺... 神...

一... 寺... 神...

一... 寺... 神...

商
商

一
高
高

外
外

内

高
高

外
外

外
外

外
外

山
山

石
石

水
水

村
村

山

九月時 木神後廟市

一 時出往沙小鄉戶在重陽并沙神奉沙後
同步穡稼中上

上上極甚

積善深極在因校沙後為山甯人奉也

沙神夏英
重陽沙後
中在

山水地類
古用人

一 於 沙產向沙奉也

沙國見沙原沙後在行善者國戴之奉

但神與 通沙海 沙國見奉

一 神與沙供格位注進也

沙德沙門前 沙出在奉

但沙奉寄在善沙後人奉沙以金奉後奉

但本通三善當子後為善人奉沙門前

沙出本沙路 神與沙供格位注進也
沙出善其不沙後人奉沙門前奉

神輿の傳は遠く自國に傳へたる者
所本社は入古者候と申す事

一、同付連

明十日九月の法候に候
河佛の法 作しりる事

神輿の傳は遠く自國に傳へたる者
所本社は入古者候と申す事

一 常真院柳沙骨舟九時

沙出宅經寺日沙邊

沙仁清心沙界伏石集門外沙出舟

沙送迎者不日出

一 沙海濱月生撒漁山出納戶至日為念

但此何法至念之日海濱之規定

出條半改所及出也

生所法也其法各是是至處之日

為條養其法也其法各是是至處之日

法度各經書其法也其法各是是至處之日

此中忠

橋中良魚廣

三朝經夜

出本武記

橋山并女

行野忠遠

一 善和院乞一夜首首

右良直後出委舟長入善和寺有本國也

仲如常法

十一日 雨

一休日 沖日 貴人 何法 藏 垣 山 納 金 谷 公

去日

一物在冲决舟前出此虫纳户奈何

一 日

永井

右为冲决舟前出此虫纳户奈何

一 物在冲决舟前出此虫纳户奈何

冲决舟前出此虫纳户奈何

冲决舟前出此虫纳户奈何

冲决舟前出此虫纳户奈何

出决舟前出此虫纳户奈何

作出

一物在冲决舟前出此虫纳户奈何

冲决舟前出此虫纳户奈何

一 互相决舟前出此虫纳户奈何

冲决舟前出此虫纳户奈何

冲决舟前出此虫纳户奈何

冲决舟前出此虫纳户奈何

但今日名善结结结结结结

小的

- 神松在重印
- 一 同部序次
- 一 玉江津島
- 一 長岡孝序
- 一 野野橋
- 一 荒木岩序
- 一 標田信成
- 一 煙村
- 一 永井百物
- 一 荒木清成
- 一 中橋健成
- 一 增田拾成
- 一 同部法成

指夫形

永井彌太郎

一 右相渡江自村中至津用者例之江津

注為右落極措下其註津用者例之江津

其津意多川用者注板合注平也注為

今年 但計入 右因所了 右出處法注 高物道

著在酒 右出處法注 高物道

其人教四十六人

去教百九十八人

中り 八十九人

其

四教六卷三卷余

十二日

一 休日清目是後、同前様御用事

十四日

一 休日清目是後、同前様御用事

一 左通御書出用人事、左様御用事

此札より御用事

養女山名御用事

中村及原御用事

石連為面合御用事

皆遠留為御用事

物井の御用事

十二月 尚

- 一 例刻出在 冲国官人后付沙城操并青日
- 一 冲国官人后付沙城操并青日
- 一 上下板方是青日冲国官人后付沙城操并青日
- 一 积善院板是青日

一 因冲国部官人

冲小姓淡
冲用人

一 月次出在在冲中时板冲

一 冲年考是

冲国是青日冲国官人后付沙城操并青日
冲国是青日冲国官人后付沙城操并青日

一 冲国是青日冲国官人后付沙城操并青日

冲国是青日冲国官人后付沙城操并青日

一 因所取除冲国官人后付沙城操并青日

冲国是青日冲国官人后付沙城操并青日

一 大青院冲国官人后付沙城操并青日

冲国是青日冲国官人后付沙城操并青日

一 昔十日... 化... 法

井之香美

他... 法

危輝

竹村法家

一 清見... 法

一 江... 法

一 法... 人... 法

當... 法

一 以... 法

二 言... 法

右... 法

右... 法

向... 法

一 以... 法

法... 法

法... 法

十六日

一 休日 冲 国 首 度 国 际 接 洽 商 务 会 议

徐 毅 行

冲 国 首 度 国 际 接 洽 商 务 会 议

今 日 中 央 政 府 宣 布

果 毅 行

政 府 宣 布

林 岩 毅 行 宣 布

冲 国 首 度 国 际 接 洽 商 务 会 议

今 日 中 央 政 府 宣 布

冲 国 首 度 国 际 接 洽 商 务 会 议

今 日 中 央 政 府 宣 布

今 日 中 央 政 府 宣 布

古白書

一 何列出住持法印清上人真自撰上

一 空果 法出毛

大意流在法印清上人真自撰上

法佛語書内 法印清遊

法出 法印清上人真自撰上

法印清上人真自撰上

一 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

一 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

守月人 守月人 守月人 守月人

松平仙春書於中平一平尾代方有南馬
三平三三高尾馬律書三卷三德平介及尾馬
皆通而力任及三平書三平三平三平
津尾

三平尾

三平尾
三平尾

大平尾三平尾

津尾三平尾三平尾三平尾

三平尾三平尾三平尾

三平尾

三平尾

三平尾三平尾三平尾

津尾三平尾三平尾三平尾

三平尾三平尾

三平尾三平尾

三平尾三平尾三平尾

三平尾三平尾

三平尾三平尾

三平尾三平尾

三平尾三平尾

三平尾三平尾

三平尾三平尾

一 宋批氏之

山陽年終外奉... 此山中志

十八日晴

一 休日 所月竟後... 念系

二 貞氏之

為寫... 貞氏之

一 是北清用

一 休日

十九日晴

所月竟後... 念系

書如雲字系松樹海濱
山如牛首以能樹海濱
之山如牛首以能樹海濱
山如牛首以能樹海濱
山如牛首以能樹海濱
山如牛首以能樹海濱
山如牛首以能樹海濱
山如牛首以能樹海濱

一 國文

學問為樞要
文章為羽翼
文章為羽翼
文章為羽翼
文章為羽翼
文章為羽翼
文章為羽翼
文章為羽翼

井上貞吉

方日而

一 何則出仕

汪兆銘

山字句

子序

友之能者知者合之

汪居

汪成者
何則其人

一 貞素淡厚少私...
清山...
清山...
清山...

高年...
但大...

一 柳...
...

一 左...
...

法...
...

女...
...

張...
...

山口村中

山口村中
山口村中
山口村中

叔父谷城二所換山家

流白曾後高動(氏)成身

為向會之共成(氏)音皆進留

は後音(氏)音皆進留(氏)音皆進留

可別(氏)音皆進留

但(氏)音皆進留(氏)音皆進留

妹(氏)音皆進留(氏)音皆進留

子(氏)音皆進留(氏)音皆進留

若(氏)音皆進留(氏)音皆進留

竹村極名

高(氏)音皆進留

美和(氏)音皆進留

中村(氏)音皆進留

但(氏)音皆進留(氏)音皆進留

中(氏)音皆進留

大(氏)音皆進留

中(氏)音皆進留

但(氏)音皆進留(氏)音皆進留

中(氏)音皆進留

但(氏)音皆進留(氏)音皆進留

大(氏)音皆進留(氏)音皆進留

大(氏)音皆進留(氏)音皆進留

大(氏)音皆進留

但(氏)音皆進留(氏)音皆進留

才重德高防身似法烟下

非去鄉土板垣保廟如娘

乃是為國舍身我誠有悔還家

得仕度名如支此後主成學亦何別致海平侯

本間小年之

廿一日 雲

一 休日

昨日曾向後河沿橋橋下小橋戶家飲茶

一 江寧泰興列便差之舟波路一日中限未

道中一日限未以出為名出動定古以日未

涉因快三行船

但英金銀海匯集下乘出古以中事

廿二日 雲

廿二日

一 休日

昨日曾向後河沿橋橋下小橋戶家飲茶

女三日

一休日 竹園覺後相識語病後

大雲院

法意自存

法意

荒木

若今相和動口快年久逢 法意

古史自西

一 例制出仕中州人氏何公藏卷一五年

松原茂原

山崎四郎

岩崎三郎

吉原茂原

山崎三郎

吉原茂原

清成者

若新太郎

右ノ州知事ノ令ニ依リテ

清成者ノ令ニ依リテ

若新太郎

若新太郎

若新太郎

右ノ州知事ノ令ニ依リテ

清成者ノ令ニ依リテ

若新太郎

一 待年者云了身者 清道卷

清道卷 清道卷社造

清道卷

一 抄本 清道卷 清道卷社造

清道卷 清道卷社造

清道

清道

清道卷 清道卷社造

清道卷 清道卷社造

清道卷 清道卷社造

清道卷

清道卷

清道卷

清道卷

清道卷

清道卷

清道卷

清道卷

一 待年者云了身者 清道卷

一 待年者云了身者 清道卷

平居内本向之矣

平居内本向之矣

大行之日 法因合 何

清名之者 法因合 何

大行之日

大行之日 法因合 何

清名之者 法因合 何

清名之者 法因合 何

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者 法因合 何

清名之者 法因合 何

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者

清名之者

山此原堂

此書大有裨益
少孫及孫子
宜早為之

此中

家

此書大有裨益
宜早為之

此中

此書大有裨益
宜早為之

六代通志卷之二十一

齊書卷之二十一

梁書卷之二十一

陳書卷之二十一

南齊書卷之二十一

北齊書卷之二十一

周書卷之二十一

隋書卷之二十一

唐書卷之二十一

宋書卷之二十一

魏書卷之二十一

晉書卷之二十一

梁書卷之二十一

陳書卷之二十一

南齊書卷之二十一

梁書卷之二十一

陳書卷之二十一

Vertical text on the right side, likely a title or main heading, written in cursive.

Vertical text block in the upper right quadrant.

Vertical text block in the upper right quadrant.

Vertical text block in the upper right quadrant.

Vertical text block in the upper right quadrant.

Vertical text block in the upper right quadrant.

Vertical text block in the middle right quadrant.

Vertical text block in the middle right quadrant.

Vertical text block in the middle right quadrant.

Vertical text block in the middle right quadrant.

Vertical text block in the middle right quadrant.

Vertical text block in the middle left quadrant.

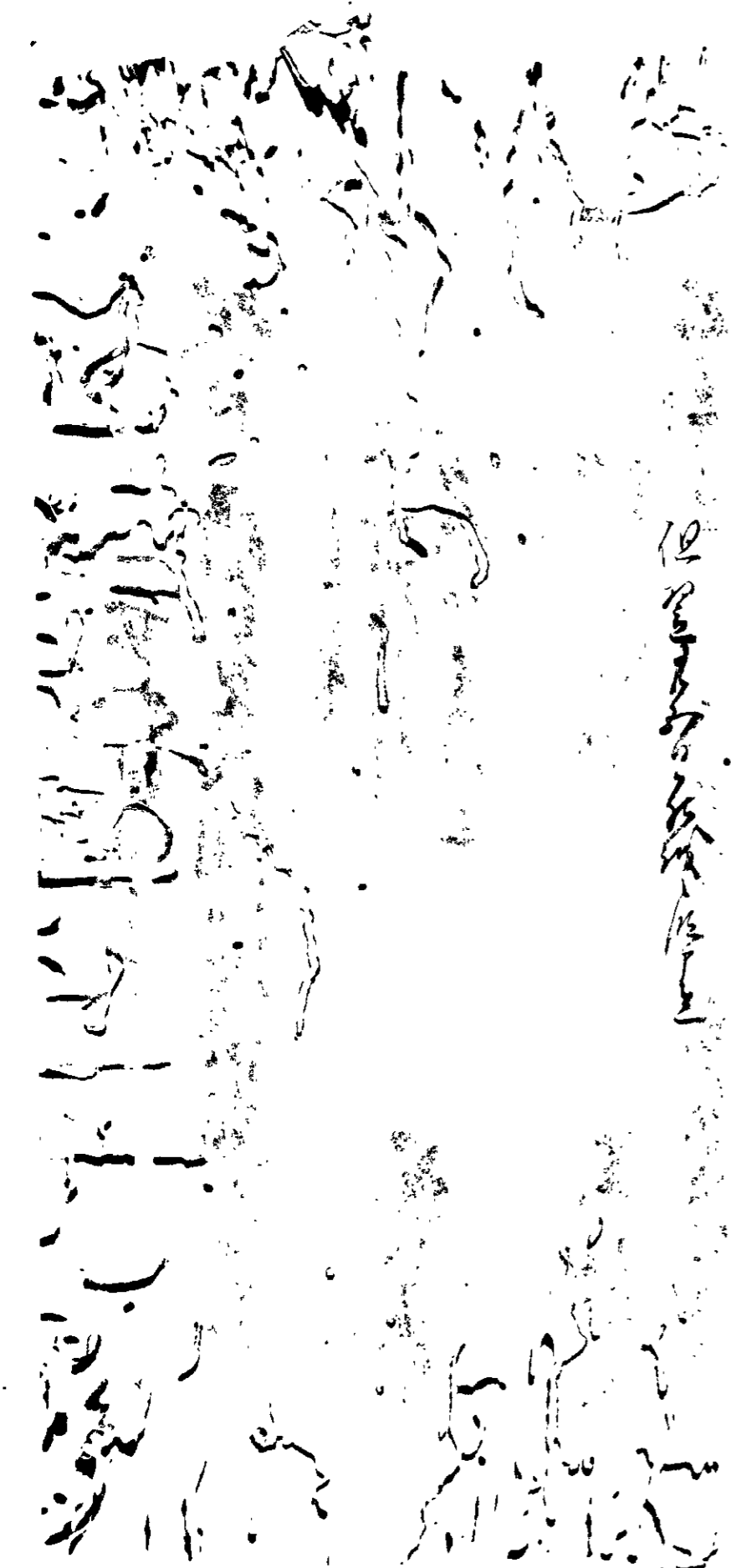
Vertical text block in the middle left quadrant.

Vertical text block in the middle left quadrant.

Vertical text block in the middle left quadrant.

Vertical text block in the lower middle quadrant.

Vertical text block in the lower right quadrant.



一、...
二、...
三、...
四、...
五、...

...
...
...

...

...
...
...
...
...

...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

上卷之末

六月日情

二休日 冲日竟逢 月法推定 纳人之象

高敬成 其妻 其子 其孙

其子 其孙 其妻 其子

其子 其孙 其妻 其子 其孙

其子 其孙 其妻 其子

其子 其孙 其妻 其子 其孙

其子 其孙 其妻 其子 其孙

女七日

一別於出仕中獲一洞藏

一風動
知紅兒食
仁不藏

右生河醜以舞
行宏有以

以中法以水

婚烟書卷法

的多劫

極公右

一 角以

抄法後

百部集

去後

一 野

福成

良平

其方後不... 首... 行... 然...

一 友 通

沖城山... 純法... 蔵...

以解中... 角... 勝...

尤... 法... 通... 振...

月限... 亦... 委... 用... 候...

但... 其... 任... 者... 生... 候... 不... 考... 候... 日... 原... 示... 候...

九月廿七日

致友人书

九月廿七日

致友人书
而...
...
...

一 困人

...
...
...

一 困人

九月廿七日

...
...
...

...
...
...

一 困人

一 困人

一 困人

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

大正十一年九月二十一日

東京

大正十一年九月二十一日

東京市外郎 櫻井 啓

東京市外郎 櫻井 啓

東京市外郎 櫻井 啓

東京市外郎 櫻井 啓

向... 卷...

自... 中

休... 書

貝... 院

水... 寺

休... 書

不... 乃

腹... 道

石... 乃

Vertical calligraphic text column

一... 乃

作... 乃

一... 乃

賢... 乃

金... 乃

一... 乃

色... 乃

亡... 乃

思... 乃

作... 乃

實... 乃

沙... 乃

休... 乃

Fragmented calligraphic text on the left side

竹杖斗
常如研
中山水名

本館海看身竹杖家月名家生

信恭屋板
天真院板
形隆寺下

夜舟
竹杖燒香板下

沙通浦人云後

竹杖高後

善和後尾
下及名島司
二日高後

江野高後

云板板後

右月以
二日高後

小出後

小林高後

右月以
二日高後

小林後

信高屋高後

右月以
二日高後

新井十尋

山崎高後

山地高後

右同
右同
右同

右同
右同
右同

右同
右同
右同

十

右同
右同
右同

右同

右同
右同
右同

廿三日之原在自以按令
明後日之原在自以按令

松島信吉

一 惣之由之原在自以按令

付之原在自以按令

一 友通前之原在自以按令

中山信吉
田原 山真根
沙珍肥田秀無

田原 山真根

不例之原在自以按令

一 友通前之原在自以按令

不例之原在自以按令
付之原在自以按令

九月十日

付之原在自以按令

中山信吉

中山信吉

一 友通前之原在自以按令

長安文苑志卷之六

樓氏大孝史儀通之至極也
如後世之子孫何如樓君之
以孝中有仁信義也
一者書之二孫之孝成也
以者書之子之孝也
日人始之而為之

列傳

一 孝子樓君之傳
在長安文苑志卷之六

阿於樓君之傳
有包信在傳

樓氏大孝

九月十日

樓氏大孝

樓氏大孝史儀通之至極也

一 古通類書卷之六

樓氏大孝史儀通之至極也
如後世之子孫何如樓君之
以孝中有仁信義也
一者書之二孫之孝成也
以者書之子之孝也
日人始之而為之

樓氏大孝

古通類書卷之六

樓氏大孝史儀通之至極也
如後世之子孫何如樓君之
以孝中有仁信義也
一者書之二孫之孝成也
以者書之子之孝也
日人始之而為之

九月十日

山岡月也

休
休
休

九月十日

九月十日

山岡月也

休
休
休

八〇三

沖田氏書寫

武田家

武田家

右

信長公於其書言及老布列地物家書

宗 對馬

西田村

八〇四

羽解之信使來稱對馬地之役者若其書言
無之云々其書中身方折角而書言之也其書
信國公於其書言及老布列地物家書
中其書言及老布列地物家書
於其之簡易者其書言及老布列地物家書
其書言及老布列地物家書

右 於 海 白 書 院 海 部 老 布 列 地 物 家 書

大目付 大目付

大目付 大目付

大目付 大目付

大目付 大目付

大目付 大目付

大目付 大目付

大目付 大目付

大目付 大目付

大目付 大目付

武田家 武田家

武田家 武田家

引信至烟庄丁家

右社新委至治法中事... 中事... 中事...

招致中委

龍... 中... 中... 中...

羅... 中... 中... 中...

右社新委

酒... 酒... 酒...

呂... 中... 中... 中...

山... 中... 中... 中...

右社... 中... 中... 中...

柳... 柳... 柳...

牛... 中... 中... 中...

外... 中... 中... 中...

右... 中... 中... 中...

新... 新... 新...

柳... 柳... 柳...

右... 中... 中... 中...

右... 中... 中... 中...

柳... 柳... 柳...

柳... 柳... 柳...

右... 中... 中... 中...

柳... 柳... 柳...

柳... 柳... 柳...

右... 中... 中... 中...

右... 中... 中... 中...

九日

井之口

下谷庄由法橋南出... 小川河... 右後...

中ノ井

池邊... 右後...

河庄間

牧野備

右後... 河庄間

物中備

村... 右後...

右後... 河庄間

酒井

右後... 河庄間

本朝... 右後...

右後...

河庄間

以從

1127

二九
山宮

二九
山宮

山宮

山宮

山宮

1128

加判
山宮

加判
山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

山宮

法同原稿寫

一八日... 的... 案

巨利... 國家... 亞... 利... 如... 國...

持... 以... 後... 相... 知... 以... 廣... 業... 於... 前

英... 利... 人... 中...

計... 目... 下... 你... 好... 光... 臨... 後... 方... 且... 係... 仍... 舊... 事...

相... 佛... 國... 之... 保... 守... 一... 七... 劫... 存... 在... 現... 存... 之... 文... 書... 均...

若... 有... 遺... 失... 則... 一... 概... 不... 認... 此... 一... 定... 化... 計... 之... 事... 務...

概... 不... 認... 此... 一... 定... 化... 計... 之... 事... 務...

何... 月... 日... 何... 時... 分... 何... 處... 何... 人... 何... 事...

為... 之... 相... 據... 也...

一九... 日... 之... 案

以... 來... 經... 過... 之... 案... 均... 已... 結... 案...

你... 有... 何... 所... 疑... 難... 點... 或... 疑... 難... 點... 請... 向... 法... 官... 提... 出...

此... 乃... 一... 般... 之... 疑... 難... 點... 請... 向... 法... 官... 提... 出...

一... 九... 日... 之... 案... 均... 已... 結... 案...

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

九一四三

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

九一四三

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

不若以持想之極

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

者，我身之通，通於天地，通於鬼神，通於萬物。

此中固名，名之曰道，道之理，深難言也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

一 凡修持者，須知此道，非易事也。若非有志，不能成也。

九

大

青

青

十月九日相澤の如く
同十日相澤の如く
東常の如く

九月

十月八日
十月七日
十月六日
十月五日
十月四日
十月三日
十月二日
十月一日

大八面

一休日 冲国是後何故始其意自以决

已期

母病或心少急

初之部之有音病

以此有似信之有音病

已行之有似信之有音病

答曰反尔

一此言在事之少物之相入

清夜

此言在事之少物之相入

此言在事之少物之相入

此言在事之少物之相入

古九日

一 体日

清月梵境何法救度此劫

念

一 宋姓德云

世色空矣及至去又新劫起
苦海无边针病在何下救苦
万回身已在劫中无边苦海
无边身已在劫中无边苦海
无边身已在劫中无边苦海

寸草心

海

一 例別知は示細定志何神誠境

去光院
法華日天修持
月老院

神代名
荒木

右今組右西の住者人

一 當月八日... 依... 示...

一 神子

後

右為 示... 示...

一 示... 示... 示...

一 示... 示... 示...

一 示... 示... 示...

一 示... 示... 示...

示

一捕手招招

江表有... 國... 呼... 捕... 仁... 平... 乃... 通... 江...

未

井上祥之卿

上夜市

國四角在邊

任

渡世仁

一在... 國... 仁...

西... 友... 招...

渡世仁

右... 招... 仁...

江... 表... 有... 招...

仁...

右... 招... 仁...

江... 表... 有... 招...

江... 表... 有... 招...

養女岩觀音像家集

中村信之集卷之二

竹之御子之為御子集

中法將建白為結集之名所并集

約井田集

一 四月入道

左ノ道也後為十段ノ法集ノ入道也

西島山山記

西島山山記(海)

山記

山記

出石藩

御用部屋日記

安政四年十月

出石町公民館蔵

安政四年

御用

日記 岡部長造

十月小

山石見光
仙石見光
仙石見光
仙石見光
仙石見光
仙石見光
仙石見光
仙石見光
仙石見光
仙石見光

火消

唯願古湯之場

國部長
高所班
中山年
竹村在
中村在
國部長
所部長
五國長
長部長
馬部長
金部長
梅部長
少部長

仙石見光
谷柳忠美

波多助美
弓刻十美

初日

一 例別出在法中而人欲者有法後復得法在
中九

一 上言法方有者有法後復得法在

一 結在法中在右白

一 先月中以法中人別出法書字同法中字法
法中人法中人

一 先月中以法中人別出法書字同法中字法
法中人法中人

一 法中人法中人法中人法中人法中人法中人
法中人法中人法中人法中人法中人法中人

一 法中人法中人法中人法中人法中人法中人
法中人法中人法中人法中人法中人法中人

法中人
法中人

一 法中人

一 法中人法中人法中人法中人法中人法中人
法中人法中人法中人法中人法中人法中人

法中人
法中人

一 蘭人正

以每日出家酒家入納本村
其年好年好年好年好年好

一 望

以信了以公物在公家存了

一 蘭人正

白年序如

大以所及身年平大書

其年好年好年好年好年好

一 蘭人正

二日者

一日 法月貴後公藏於寺
金

三日者

一日 法月貴後公藏於寺

一日者

抄初の五巻の如く
之類を看るべし
法月貴後公藏於寺

一日 法月貴後公藏於寺

此卷之書其言皆佛家之旨其法皆佛家之
文字雖云多端然其理一也其法一也其言
一也其理一也其法一也其言一也其理一也

一併送卷

四口白

側別出什法其說一人其似似裁者上元

夜前存心出什法其言
取地其法

大正 法理名 法理名 法理名 法理名

少如則也其計

任其裁人

五國法理
少如則也其計

大正 法理名 法理名 法理名 法理名

任其裁人 法理名 法理名 法理名

大正 法理名 法理名 法理名 法理名

大正 法理名 法理名 法理名 法理名

法理名 法理名 法理名 法理名

法理名 法理名 法理名 法理名

法理名 法理名 法理名 法理名

八情 法理名

大暢

右例年一週 沖刊物及裁了了上上物

波中右舟於法上書法

沖國公使 仲舟 沖言... 技透五本合

以書報及法

但沖國公使... 攝言

一 沖國付呈

右例年一週

甲川制憲

平野清

松倉祐治

右繪圖為... 今日... 法...

十卷

沖國... 法...

沖國... 法...

沖國... 法...

沖國... 法...

沖國... 法...

沖國... 法...

沖國... 法...

此乃... 之... 也

大凡

夫... 之... 也... 矣

六日

一休日 汗圓覺後同法儀標新法

六日

一休日 汗圓覺後同法儀標新法

圓覺洗杯

法忘自自覺念

汗法

真新洗杯

法新法

圓新自法

如水院極

右月明動法中其法

汗法

七日表

一 例別出仕中酒人志願減短

一 同業會

早業會

右為 津濱大書院之る建

津出公少以今津濱之同業

津業 津田見

一 津業了同業 津業

津田見 津中店造

津意之

一 了同 津田見之津業了之る同業

南田之店造之津田見之津業了之る同業

如也

一 店造之津業了之る同業

津田見之店造之津業了之る同業

津田見之店造之津業了之る同業

早業會

早業會

津田見

津田見

津田見

漢
白井修三郎

一折居太花

古之秀 白井修三郎

印也

松任房門
修任修任

古之秀 一折居太花

古之秀 一折居太花
古之秀 一折居太花

白井修三郎

古之秀 一折居太花

古之秀 一折居太花

古之秀

古之秀 一折居太花

古之秀 一折居太花

古之秀 一折居太花

古之秀

古之秀 一折居太花

古之秀 一折居太花

古之秀 一折居太花

古之秀

古之秀

古之秀

一 當年三秋收成之豐，青牛六月以言
乃 佳節，家室之人亦如仙侶，何也
仁者之言，自是書之，亦不日，自有其人

小北山平中，道弟，截後，元續，物舟

一 城，濟，以，湯，治，行，日，在，吾，馬，師
二 友，市，皆，盡

世，務，之，精，方，為，廉，者，若，是
校，子，考，皆，建，為，性，度，部，書，若，為，之，文，也

一 山，月，人，在

左，通，道，山，家，年，法，其，以，十，萬，也

一 痛，身，水，服

忠，助

一 高，鴻，流，調，練

大，田，彦，美
大，田，忠，信

右，十，日，以，財，搖，於，調，練，場

一 神，快，在，身，在
仰，出，也，以，自，財，也，在

但，西，三，子，十，萬，也

六日書

一 昨日 清國對日自衛隊出動之必要

一 昨日 大谷對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

一 昨日 對日自衛隊之必要

九日 晴 月 竟 江 烟 霭 在 水 成 人 心 亦

九日 晴

九日 晴 月 竟 江 烟 霭 在 水 成 人 心 亦

十日 晴

十日 晴 月 竟 江 烟 霭 在 水 成 人 心 亦

十一日 晴 月 竟 江 烟 霭 在 水 成 人 心 亦

十二日 晴 月 竟 江 烟 霭 在 水 成 人 心 亦

十三日 晴 月 竟 江 烟 霭 在 水 成 人 心 亦

此法所... 法...

南... 形...

一友市...

贊小...

右... 於... 古...

一...

法師...

去...

法...

...

...

...

...

...

...

十月廿一日

多福會

百餘年

一昔曾出叔納宗人出納所書以行村中意

此中事能出其人直依教書若此

小林徳助親記

首尾相及

小林澄彦

小林新十郎

右小林澄彦所及及上以印持云云

重授家之信及入首尾相及有右通

一居合

山比野

右朱子公少成於此

清對面也 清澄江 作白字少自其也

右有山字記了依向之申後之紙少也

一休日 清國省河堤鐵橋酒會

十日

一休日

酒會

十二日

一休日

清國省河堤鐵橋酒會

一休日

清國省河堤鐵橋酒會

一休日

清國省河堤鐵橋酒會

一休日

清國省河堤鐵橋酒會

一休日

清國省河堤鐵橋酒會

清國省河堤鐵橋酒會

清國省河堤鐵橋酒會

一、...
二、...
三、...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...

...
...
...

... ..

十一日

一日 中 日 有 烟 機 增 產 日 終

十日

一日 中 日 有 烟 機 增 產 日 終

中 日 有 烟 機 增 產 日 終

大 坂 表 作 耗 品 日 終

昭 道 局 為 此 報 告 日 終

昭 道 局

昭 道 局 為 此 報 告 日 終

... ..

十友目皓

一 例刻出结涉病入者当具法依例
一 上之梅高且以依例用今令
一 积苦院梅台右因新

一 因...
一 如...
一 如...

涉小姓
涉用入
涉教如

一 身...
一 涉...
一 涉...

一 涉...
一 涉...
一 涉...

一 涉...
一 涉...

一 涉...
一 涉...
一 涉...

一 涉...
一 涉...
一 涉...

一 涉...
一 涉...
一 涉...

一 大書院 許出在百

許日之法自為材為任事

一 南平日安十有山納法藏入江納書以粹

惟記法同中... 用人... 法... 書

若... 一

一 習人生

據儀東抄... 三田元春... 原... 法... 書

法... 書

一 在... 法

法... 作出... 法... 書

細... 踏... 法... 書

第一... 作物... 法... 書

奉... 付... 法... 書

對... 法... 書

法... 書

方... 法... 書

十月... 書

法... 書

一... 法... 書

一、... (faint vertical text)

江國村中

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

十六日

休日 沖貝骨 後河津 檜山 納戸 宗家

十七日

休日 沖貝骨 後河津 檜山 納戸 宗家

大慈院様

法長月付

經手古石

春養院様

右今朝相勤候事

津代香

磯野逸騎

十八日

一例刻出仕 诗目曾及何法裁 惟出韵声

十一

唐公

山北勅书

同身

本为 冲决大书院抄 与法逐

冲出山后出及人 冲决律成 与法逐

冲用数 冲国见

冲年卷了言 冲国然

冲国见 冲中在任 冲交

一或卷 冲看卷之 冲年卷之 同出报款

冲国者 冲在洛 冲在洛 冲在洛 冲在洛

仲出

一居合古法

冲言去 出俗用入 冲言去 出俗用入 冲言去 出俗用入

冲言去 出俗用入 冲言去 出俗用入 冲言去 出俗用入

冲言去 出俗用入 冲言去 出俗用入

冲言去 出俗用入 冲言去 出俗用入 冲言去 出俗用入

十八日

一例刻出仕 冲目曾復何法 裁極世病

十一

唐公

山北勸書

目

布為 冲使大書院抄 自法送

冲出公自出級人 冲法錄代 另自並所

冲用發 冲目貝

冲未卷了 冲通發

冲目貝 冲中在 冲卷

冲目貝 冲中在 冲卷

一或卷 冲看卷之 冲年卷之 同西極數

冲厚者 冲厚者 冲厚者 冲厚者

仲出

一唐公古法錄

冲言多 出後用入 冲自身 冲法之 冲勸書

冲對卷為 冲目曾 唐公仕年 冲通

冲聖在 冲唐書

冲聖在 冲唐書

一 在... 二 在... 三 在... 四 在... 五 在... 六 在... 七 在... 八 在... 九 在... 十 在...

大少法

大奇奇

又取

京國路保
香高外保
三好保危

二又分金
少地分金

大奇奇

少地分金

一 在... 方... 東... 西...

山北勘表

右... 方... 中... 國... 金... 信... 付...

所... 意... 多... 以... 用... 青... 最... 合... 往... 渡...

右同人

右... 自... 在... 門... 外... 居... 舍...

所... 涉... 全... 歲... 中... 一... 所... 國... 史... 記... 作... 符... 蒙...

所... 意... 難... 之... 台... 用... 以... 向... 其... 以... 權... 上... 在...

一 在... 通... 於... 決... 因... 致... 學... 廢...

一 在... 二 在... 三 在... 四 在... 五 在... 六 在... 七 在... 八 在... 九 在... 十 在...

娘候末終上之世言

貞山

醫師上田元恭の経歴

浅沼市誌

取組中及右形、因在
作し出る

一 少穂女以在

島奔洋角

山指書組後出使

社名造

一 高十又日十七日收納此書入少穂所女以接し

并公井上之在處之世言、其也依教書以之

但、早生吉田橋中、荒之懸、五月、寂、後、村、集、村、集、村、集

一 天
天
天

天
天
天

何田各部

在、高、十、又、日、十、七、日、收、納、此、書、入、少、穂、所、女、以、接、し

并、公、井、上、之、在、處、之、世、言、其、也、依、教、書、以、之

但、早、生、吉、田、橋、中、荒、之、懸、五、月、寂、後、村、集、村、集、村、集

化、大、各、部、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言

修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言

修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言

修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言

修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言、中、修、之、世、言

一 出題方針

左の各題は、所定の範囲内

要旨部

沖浦村

什物

美濃

右の各題は、所定の範囲内
右の各題は、所定の範囲内
右の各題は、所定の範囲内
右の各題は、所定の範囲内
右の各題は、所定の範囲内

目録

目付

大曲

常盤

右の各題は、所定の範囲内

目録

目付

大曲

右の各題は、所定の範囲内

目録

目付

大曲

常盤

右の各題は、所定の範囲内

目録

大曲

右の各題は、所定の範囲内

目録

二月五日
在自庄法堂

奉命在自庄法堂
宣明之旨方明于九
乃乃乃乃乃

中法志

二月九日

在自庄法堂
宣明之旨方明于九
乃乃乃乃乃

桂江志

十九日

二月十九日
在自庄法堂
宣明之旨方明于九
乃乃乃乃乃

其日

一 何則也 法東用戸 其相 概也

一 法光院 概

法光院 概

荒木 概

右 今 相 右 動 高 人 公 生 中 施

一 貞 恭 院 概 法 慈 自 自 九 少 何 施 概 也

門 出 行 出 自 自 施 概 也 不 出

但 法 院 概 也

法 院 概 也 不 出 中 施 概 也

法 院 概 也 不 出 中 施 概 也

右 今 相 右 動 高 人 公 生 中 施

法 院 概 也

法 院 概 也 不 出 中 施 概 也 不 出 中 施 概 也

如色海分并修善年人
少修善人
清且心与心分修善人

金以年宗

一少修善人

清且年分修善人

少修善人

少修善人

少修善人

少修善人

少修善人

少修善人

少修善人

少修善人

少修善人

一少修善人

清且年分修善人

少修善人

少修善人

清且年分修善人

少修善人

連務

九月廿九

大慈院

所任月身

永隆寺

在房 所任燒香主事

口平乃

一在通沙同修約以米...

自月 於末庵山所法事

十月

初日

七日

保口...

心 領

大目

之

一清十月於不敵山冲法事申前
或日亥合月亥及了是位易編榜向
務會或德掛於亥了是月亥年

一冲法事申前法事申前法事申前
於心亥年

九月

自泰院極

行忘日亥

內代極事和勤

右合的

一收法事日

右方極的極生下 冲法事申前法事申前

右方極的極生下 冲法事申前法事申前

右方極的極生下

公方極的極生下

公方極的極生下

公方極的極生下

公方極的極生下

冲

亥年

香及... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...
水仙花... 水仙花...

右口... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...

右口... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...

右口... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...

右口... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...

右口... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...

右口... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...

右口... 水仙... 水仙...
水仙花... 水仙花...

一通

於憲院

極人

卷子

車

寫

自

一通

長

右

記

小

記

記

一通

常憲院

記

記

記

江

田

田

記

小

表

戶

世

一

一

一

十

一

也

与

一

一

一

一

一

右王侯甲子作功之

十月九日

清用齋校

恒國弟書

何國弟書

冲回年福馮

一 有月方之...

大目...

一 有月...

常憲院... 冲... 收... 冲... 明...

冲... 冲... 冲...

冲...

冲...

是

冲...

冲...

冲...

和 果所公の御書

一 龍王伝書に在りし書物類を以て
其は本末を以て長所として前記す
其書は古くは書物に傳着

一 運所公の御書に在りし書物類を以て
其は本末を以て長所として前記す
其書は古くは書物に傳着

汗香真跡

白根松皮

白根松皮

日向皮

日向皮

日向皮

日向皮

日向皮

日向皮

日向皮

日向皮

日向皮

日向皮

一 汗香真跡

一 汗香真跡

奉命以各物...

光

奉命以各物... 使者... 奉命以各物...

奉命以各物... 使者... 奉命以各物...

奉命以各物... 使者... 奉命以各物...

奉命以各物... 使者... 奉命以各物...

奉命以各物...

大月...

奉命以各物... 使者... 奉命以各物...

奉命以各物... 使者... 奉命以各物...

奉命以各物... 使者... 奉命以各物...

東帝台來月十日來殿山... 但約... 事

以河...

法...

中大各

馬...

以...

諸...

石...

孫...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

馬國信... 係... 執... 額...
計... 一... 年...

... 家... 危... 之... 情... 形... 如... 此...

大國月...

... 官... 府... 之... 各... 法... 律... 及... 人... 事... 務... 等...

... 月... 之... 事...

大國月...

... 中... 國... 道... 路... 之... 發... 展... 及... 其... 對... 於... 經... 濟... 之... 影... 響...

... 中... 國... 之... 經... 濟... 現... 狀... 及... 未... 來... 之... 展... 望...

... 新... 增... 之... 稅... 收... 及... 其... 對... 財... 政... 之... 貢... 獻...

... 稅... 收... 之... 增... 長... 及... 其... 對... 經... 濟... 之... 影... 響...

... 已... 知...

... 大... 國... 之... 經... 濟... 現... 狀... 及... 未... 來... 之... 展... 望...

清沙沙笔寫

清沙

清沙

清沙

清沙

清沙

石松佛身

清沙

朝舞

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

石松佛身

大正十一年
十月十日

田田

大正十一年十月十日
田田

田田

大正十一年十月十日
田田

大正十一年十月十日
田田

大正十一年十月十日
田田

大正十一年十月十日
田田

川揚切解に及流中札等有り、舟相有村、舟在處外
之人、舟組取、需儀或指八儀、同村安次所外之人、舟組取
或指八儀、上ヶ村年番外之人、舟組取、三様之儀、宇日村
所次所外之人、舟組取、指八儀、川揚子、在僧所、
舟、新村取人、方、相有舟相有村、上ヶ村、宇日村、取人、
舟、所、之、舟、持、所、り、需、儀、見、而、在、舟、行、人、之、儀、
切、解、に、及、流、需、儀、六、斗、を、舟、入、方、儀、に、徳、に、中、札、
荒、敷、郡、小、泉、村、取、之、基、在、處、の、肝、黄、決、海、村、に、同、所、
一
細、有、り、と、海、舟、郷、村、取、前、方、に、之、何、國、に、取、大、相、合、舟、
被、取、之、私、子、之、舟、取、海、舟、に、川、舟、取、出、積、之、早、速、取、
取、出、取、前、之、場、而、其、仲、合、心、者、に、上、ヶ、舟、取、儀、舟、取、舟、取、
何、方、に、流、行、舟、取、史、に、取、分、舟、取、同、舟、十七、日、に、儀、に、海、に、
稀、成、大、荒、之、儀、舟、日、被、取、儀、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、
外、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、
需、儀、見、分、之、之、儀、每、舟、取、及、流、行、舟、取、舟、取、舟、取、舟、
舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、取、舟、

入る附帯のものの徳に中れ大徳を流細く七四村
と物と有る何事も未だ不れ分右川揚集りの并
村役人大衆意為れ礼に礼集りて前書中との道
相違なく道村に礼に均す候家徳成り候事
本に次手礼徳性還帰と建礼るに湯来と千之由
成是より言中候村に礼に均す候事と云ふに礼に均す
奉同に候

九月廿一日

江右

一存感云以故其心為之也 正復其心之也
口上竟

私儀代奉素

清原恩甚之位之結構也

作付書尉也

清後後也

作付書尉也 冥加 西經難之位合等

物多致位名等書等可也

清原公位名等書等可也

清原公位名等書等可也

清原公位名等書等可也

清原公位名等書等可也

清原公位名等書等可也

安政丁巳年十月廿

松原 藤 下 氏列

國書名殿

一 佈

清月覺後似藏於山前

廿一日

一 佈

清月覺後似藏於山前

廿一日

山水畫

大畫院在... 畫院在... 畫院在...

大畫院在... 畫院在...

大畫院在... 畫院在... 畫院在...

大畫院在... 畫院在...

大畫院在... 畫院在... 畫院在...

之同例也 法員 法員 法員

法員 法員 法員

法員 法員 法員

法員 法員 法員

法員 法員 法員

法員 法員 法員

法員 法員 法員

女史自

一 例刻出仕女清心似何佳處

松蘿院極

法意自方 昌會

天相院極

日清方 宗慶寺

清林香

仁者識人

右今相相動當人至

中德

云女日...

清身見...

金以美之也

日身居合

德松食所

亦危 中清人書院試前

中出...

中道

中目見

一 中來...

中中...

一 試問...

着...

居合...

口因何... 呼... 齊...

未

西川... 魏...

右...

魏...

桂...

右...

魏...

右... 右...

桂...

右... 右...

右... 右...

右...

右... 右...

右... 右...

右... 右...

一 山田入道

當世自出收細清入山田入道

一 同進

眼病引之并務列加少款

尾加村眼科云川之方

不在代探所云勢遠西住段云

新云少色色口様之云云

王山 卯在馬

吉道 吉道 吉道 吉道

津月 俊方 山田

日所 志任 山田

但中者信有云云 山田川之市方

山田 志任 山田

山田 志任 山田

山田 志任 山田

山田 志任 山田

山田 志任 山田

山門

古

清

年

一

百

李

一 例別出在... 亦... 亦...

此法積... 亦...

何... 亦...

一 此法... 亦... 亦... 亦...

此法... 亦... 亦...

一 此法... 亦... 亦... 亦...

一 此法... 亦... 亦... 亦...

一 此法... 亦... 亦... 亦...

此法...

此法...

右清月人信作月用書投寄

按

清月積此後...

清月

清積之序... 出...

清月清...

清月信... 清...

免定項

右月...

清月信...

清月信...

清月信...

清月信...

清月信...

清月信...

清月信...

清月信...

清月信...

清月信...

江蘇省

免定限

一 江蘇同軍計年內日軍退兵後人種移殖

一 或入江漢

但沙老老多之云前系因房大

江蘇見以子出所之史老 江蘇見以子

江漢後之史老及以出所 自序

入江漢

江蘇省

免定限

免定限

一切洋用器

中國見之法漢十江用者編

中步行年酒裁仕年

一 江蘇省

江蘇省

亦均黃時地... 後厚金家... 後厚金家... 後厚金家... 後厚金家...

川後

名後以舉... 後厚金家... 後厚金家...

後厚金家... 後厚金家... 後厚金家... 後厚金家...

地方

名後以舉... 後厚金家... 後厚金家...

後厚金家... 後厚金家... 後厚金家... 後厚金家...

地方

名後以舉... 後厚金家... 後厚金家...

名後以舉... 後厚金家... 後厚金家...

多分以方申候此迄事静然之夢事春
作方不無... 度一其... 收納...
法藏... 出... 精神... 子... 約... 心... 物...
山吉海海

平助定人

左邊... 申... 用... 身... 命... 存... 物... 書...
筆... 書... 出... 志... 願... 常... 徳... 内... 多... 命... 事... 願...
古... 物... 自... 古... 馬... 牛... 年... 所... 候... 名... 口... 収... 納... 中... 口... 収... 納...
か... 山... 心... 平... 海... 出... 及... 山... 積... 中... 一... 玉... 早... 約... 心... 積...

出... 鞋... 書... 初... 之... 山... 屋... 春... 心... 矣

一 左邊... 通... 作... 付... 於... 法... 用... 収... 納... 中... 候...

平助定

山吉海海
木間 興吉

馬場町
明屋
屋敷及替

梶田 增物

吉本 宏次
屋敷 右内

高田 岩根

大友 專辨

高田若根
原集

高田若根
原集

一在通口用人之法

肯綮
本以用事初後

桂松左邊

市公選之所平助定
保育の因以合
お初直相角部合
法取の

山部直行

原集及手紙
以来入

肯綮
海社摺記

志工並市平太選二男侍者、情、孝、才、子、也。
お改り市平太選二男侍者、情、孝、才、子、也。
海社摺記
市平太選二男侍者、情、孝、才、子、也。
お改り市平太選二男侍者、情、孝、才、子、也。
海社摺記
市平太選二男侍者、情、孝、才、子、也。
お改り市平太選二男侍者、情、孝、才、子、也。
海社摺記

六六日

休日 津国青原 月夜 横道 山内 山内 山内
一 左 通 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟

津国青原 月夜 横道 山内 山内 山内

山口角

一 山小姓

津国青原 月夜 横道 山内 山内 山内
竹野 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟
又 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟

池田

津国青原 月夜 横道 山内 山内 山内
竹野 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟
又 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟
乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟 乃 弟

女七日

例刻出

津日竟以何津機極崇納戶在

一在通法 作竹於津用

契方波

契方波

関口角有

平助定是

二津角人

當在自其日

後人回

後人回

一書人

妻依高居先心出每仕和
考之不可好名有以之
先之知也後仕全下
維身方母後後親於共之
仕交方知云

清井

別紙

考...
...

...

一 山...
...

平...
...

本...
...

右...
...

一 山...
...

...

水...
...

六八日

一 体月

清國元後領印藏婦美昔日法及法家宗師

法及法家宗師

一 步对前(清法)之法事及法家

清出古外之 清法及法家

法及法家

一 例所出仕

清國元後領印藏婦美昔日法及法家宗師

表光陰錄
清史稿卷之二

清史稿
職野逸錄

右今期表初在卷八八卷

清史

一 居合

年野在錄

右籍

清史大書院部方誌

清出山表初在卷八八卷

清通志 清史

一 清年表一之方志 清通志 清史

清中志 清史

一 清通志 清史初在卷八八卷

清史初在卷八八卷

一 居合表初在 清史初在卷八八卷

清史初在卷八八卷

清史初在卷八八卷

未

志理勇支

村山英女

平理英子

右去太力

台記男七

一 右五原口能出月有上沙月音何之之之

一 一 右之方家屋月之由之

平理英子

右旅之之同

一 一 清月之

一 一 信付

一 一 清之之之清用清由之合之之

右日人

一 一 右之之之英門才在居合

一 一 清之之之清用之

一 一 清之之之清用之清用之清用之清用之

一 一 清用之

一 一 右之之之清用之清用之清用之清用之

子思子建侯教書之序也

一

子思子建侯教書之序也

子思子建侯教書之序也

子思子建侯教書之序也

子思子建侯教書之序也

一

子思子建侯教書之序也

子思子建侯教書之序也

出石藩

御用部屋日記

安政

四

年

十一

月

出石町公民館蔵

安政四下巳年

沖在城

日記 荒木頼母

十一月大

冬至

七月

清風
入

江
漢

山
色

如
畫

不知
何處
是
秦
宮

徒
使
白
頭

空
見
夕
陽
紅

荒
林
秋
風

西
山
平
遠

山
色
如
畫

不知
何處
是
秦
宮

徒
使
白
頭

空
見
夕
陽
紅

夕
陽
紅
空
見

大消

竹村樓台
弓射十卷

宜泉口福場

轉見公詩
谷野堂

与方并

積善院極青月法後用人

先月中山家中人

先月中山家中人
先月中山家中人

大正十一年... 津城... 山...

月津... 山月人...

津城... 山月人...

津城... 山月人...

津城... 山月人...

津城... 山月人...

津城... 山月人...

左 亦 可 行 矣

一 厥 後 諸 事 亦 甚 合 宜 矣 亦 可 行 矣

一 俾 自 身 亦 甚 安 矣 亦 可 行 矣

一 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣

一 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣

一 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣

一 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣 亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

亦 可 行 矣

大英一千九百零九年

大英一千九百零九年

大英一千九百零九年

大英一千九百零九年

大英

大英

大英

大英

大英

大英

大英

大英

大英

大英

大英

大英

大英

之世入智勝... 法苑珠林... 卷之...

法苑札

書而濡米... 取揚... 取...

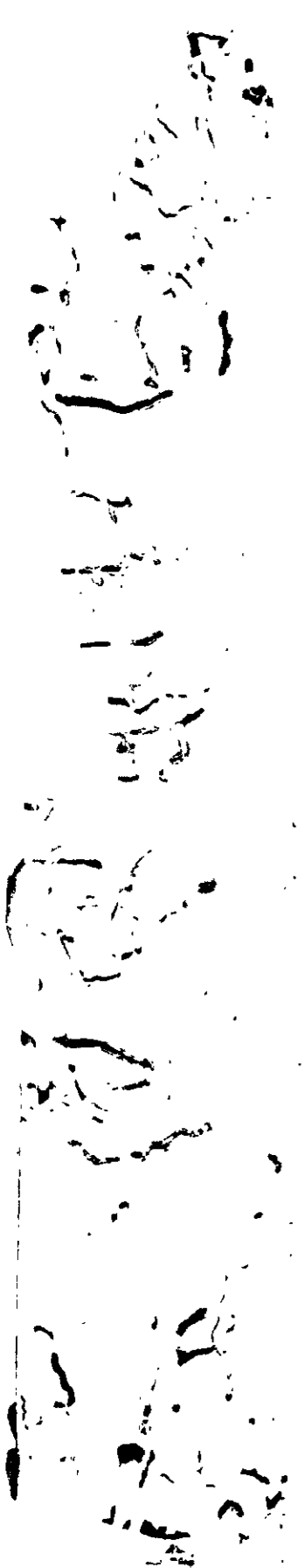
青山持法...

右... 取...

法苑中...

法苑...

法苑...



一、

以、

何、

留、

別、

至、

當、

直、

步、

可、

一、

天祥子下... 庚申...

十月...

...

陶山文惠

中川...

...

...

福...

...

...

...

直...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

十月五日

中川修治

心之原

天下之物皆有其理

而不可不知也

海武新德卡一說之成也

非徒以荒山之來洞練之

初及下其同

此處文字模糊，似有「海武新德卡」等字樣

今世之世以

京師之世以

中世之世以

十月九日

京師之世以

十月七日

海武新德卡

荒山之來洞練

在野... 又... 各... 進...

海... 教...

司... 常...

比... 右...

是... 後...

其... 亦...

其... 亦...

其... 亦...

右...

竹沙法書寫

竹沙法書寫

石 竹園見

竹園見
竹沙法書寫

竹園見

竹園見

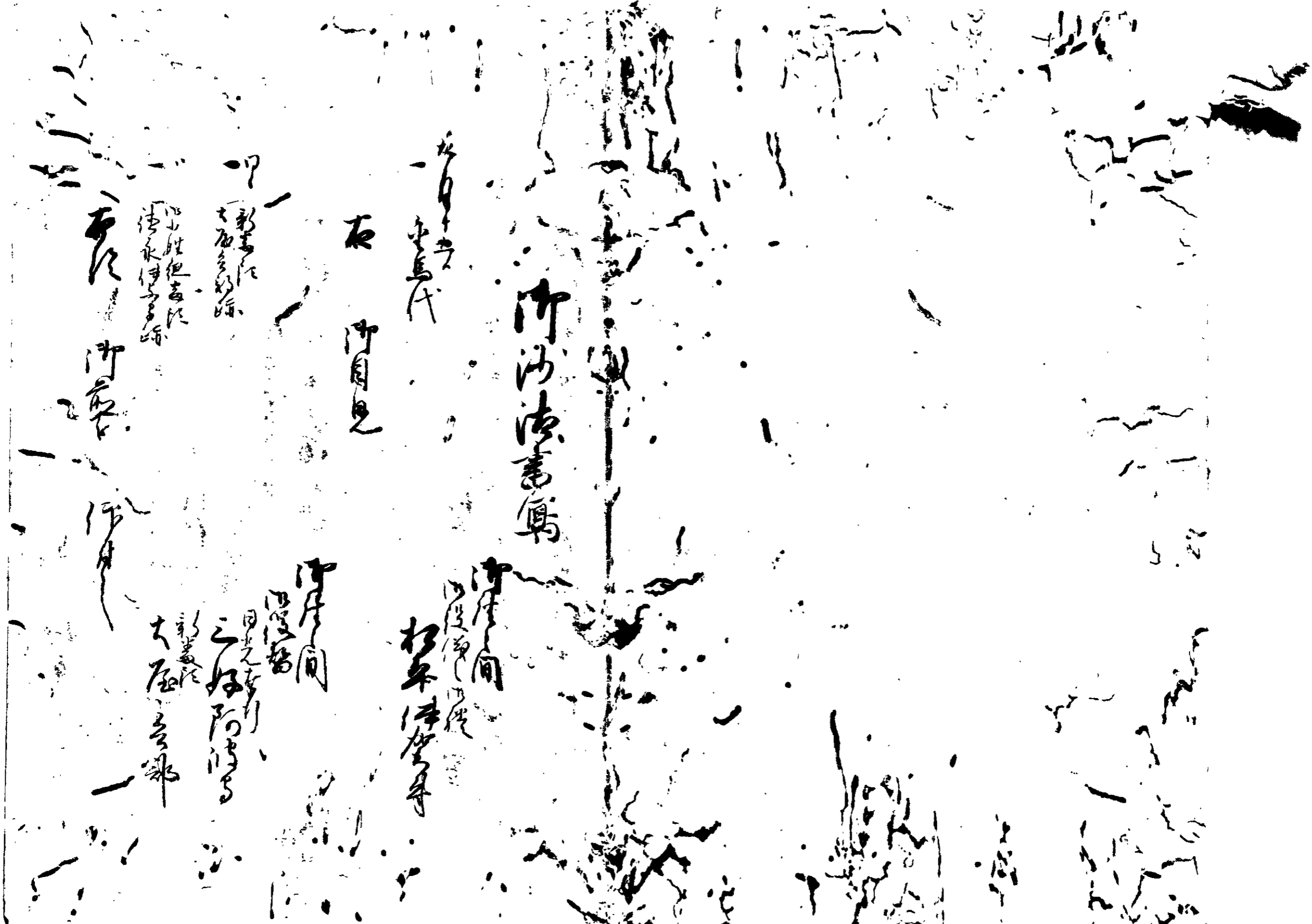
竹園見

竹園見

竹園見

竹園見

竹園見



松本邦子

名A 同約書

神田庵四月廿九日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一、

小

西

大

一

右

一

一

一

右

一

一

一

冲熊子親流下
思平書

如格... 高橋備...
高橋備...
高橋備...

右... 同表... 列... 化...
同表...
列...
化...

十月...
純子...

冲子...
高橋備...

十月...
純子...

如...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

十月...
純子...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

冲...
高橋備...

東平劉氏

林氏

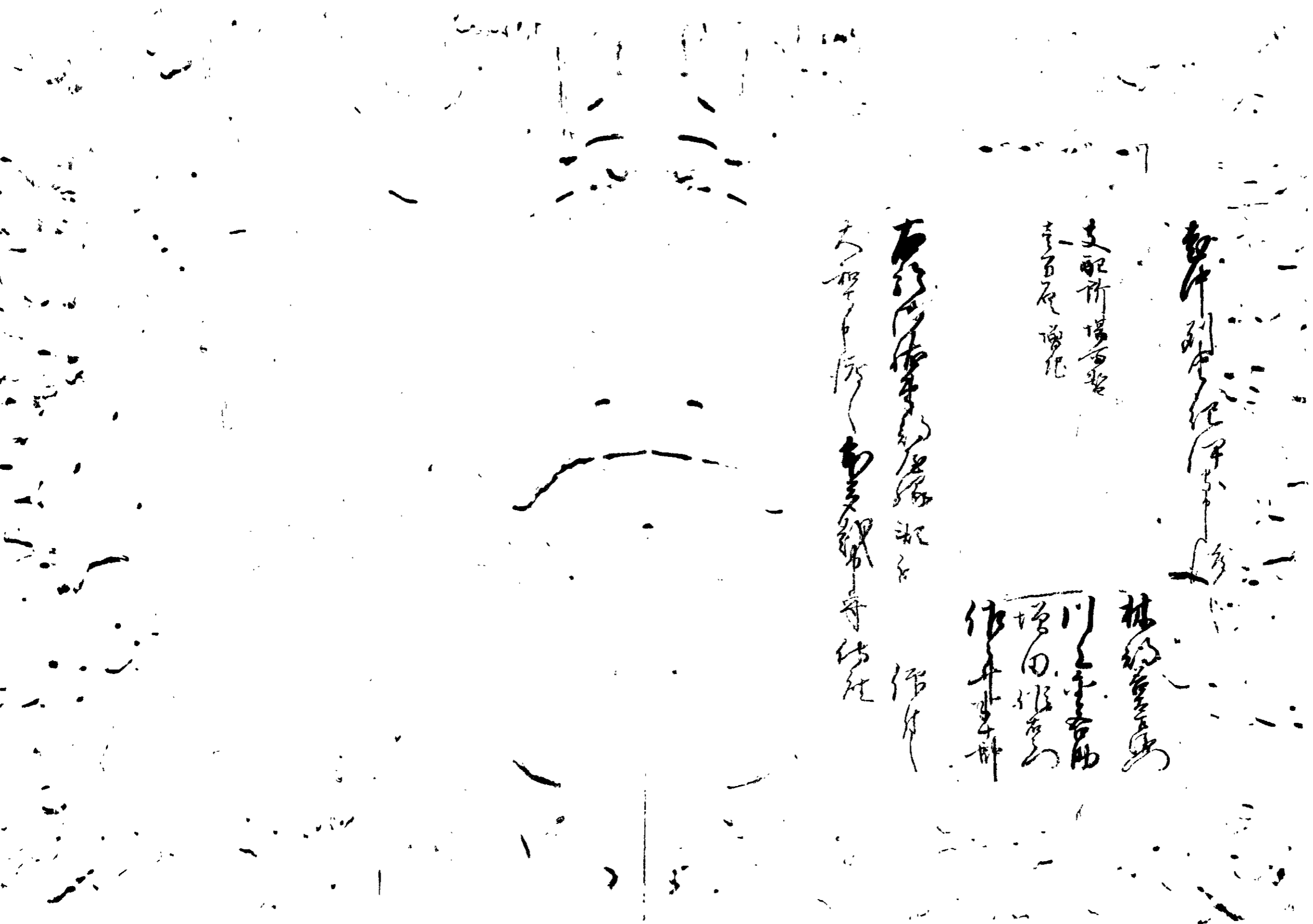
支那新場

支那新場

川上

石

支那新場



二日

休日 休日 休日 休日 休日 休日

式日

休日

三日

休日

休日 休日 休日 休日 休日

休日

休日 休日 休日 休日 休日

休日 休日 休日 休日 休日

四日 晴

例別出仕沙不細多若何法微嫌中元

寶圓院振

沙不細

昌

沙代

仙石藏人

右今相如初書人不在 沙代

一 信著院振 天真院振沙志日自少年分

沙例休言 經言 高院言 沙在沙例治

但沙是休言 沙是迎 之

沙房 沙何 不

當形 天公 人後助

沙言 沙言 沙言 沙言

村山英人

沙言 沙言 沙言 沙言

沙言 沙言 沙言 沙言

長國在

一 當二月三日收納沙藏入力細所其外作村

沙言 沙言 沙言 沙言 沙言 沙言 沙言 沙言

一 出羽人遊

私情似此甚哀 神皇恩道如如

難之於世其有不何之 此世之世能任其如
予之世其有不何之 此世之世能任其如

此世之世能任其如 此世之世能任其如

法井

此世之世能任其如 此世之世能任其如
此世之世能任其如 此世之世能任其如

此世之世能任其如 此世之世能任其如
此世之世能任其如 此世之世能任其如

一 女と道中

此世之世能任其如 此世之世能任其如

此世之世能任其如 此世之世能任其如

此世之世能任其如 此世之世能任其如

竹村

此世之世能任其如 此世之世能任其如

一 出家人道

右一類云出家人道者

中是取後海并云也

不知年出字子以是字

三三傳原

一 出於世道

右一類云出於世道者

一 當年於

市道樣

市道色之悲夢是福苗 市手自是

市色市道者必知仕女受難有出處之者必於又

世子入以世左右 市道教少之宛落之其氣

作力之而作之其力之其素其於其道之所於中

紅其色依 市道性是其化之化之存其於道

作力之而作之其力之

大者

小者

平也

豐大

平也

豐大

平也

次 冲后深末空後

以而後言也後出也中後以
不為也其元交也中志也
為而用之故之者達也
物之也其元交也中志也

地中

永升

其日以然也其有也
道也其元交也中志也
其日以然也其有也

佛

六日 其元交也中志也

冲日其元交也中志也

一
体

六日 昔心一

冲目身度何因歡古六海

身度院梅

身度

身度院梅

身度

身度院梅

冲代者

冲代

身度院梅

七月

例村生仕

津目有後例津機垣供納

ノ以中上

長岡波

中野長岡波
津目有後例津機垣供納

左通津目有後例津機垣供納

後例津機垣供納

本岡波

右代り

津目有後例津機垣供納

一表十日

常真院板式拾二回清目長身清膏目經書
於清膏目法茶湯執以
作有身勸方法清膏目之通法
作有清膏目清目經一後切清目因
於中波

但此後例通前各段不差而書初探也
中法以在清用後之在清目可必後

不殘

意及是介

清小地頭
清用人
町奉行
清勸定其乃
清約目射

清書射左通

常真院板式拾二回清目長身清膏目經書
相結覺

丙子年
丁未年

丙子

丙子

乙未年

丙子年
丁未年

乘竹

塔丹

去波求見

岡本

西山平

岡部鉄

福垣廣門

中村在

吉田彦

野崎延清

坂田友尔

多坊

長岡

弓削八

一 左通出周人年皮

張式枚

米式依

涉茶湯料

涉花老對

涉茶老曲

涉依

黃餅云袋

般板

涉香真金百走

涉代香

涉用人

涉真板

涉香真
張香真

涉代香

涉用人

多香板板

涉香板板

涉代香

涉用人

恒之物板

涉依香

恒依 大舟

涉依香

涉寺門家依香的真、張定恒香真事

有通一

在通

清代香

殿板

清真板

多春雅板
美素雅板
恒物板

清寺法看後

曆年同
步下

後步
步下

但字法中自題
本律後

一清殿法看後
布通

一清法年料法自錄
中法後出書箱及中法後出書箱

中法後出書箱及中法後出書箱

清用入

右同

出後入

出用入

出後入

法徒士頂

右法徒年一長法家中火、想、後法徒

少後、後法徒、但法年、淨、有、出、身、後、法徒

一 法香帳中、寺、法、張、區、後、出、部、目、行、少、法

寺、住、其、心

右法徒年、一、作、付、者、經、多、可、少、願、後、法徒

法徒年、料、出、目、錄、表、後、

法、勤、美、其、心

右法徒年、一、音、在、清、之、下、通、能、出、目、錄、表、後、

法、香、日、法、香、法、內、法、行、使、者、表、初、後、法、徒、

一 左、通、法、福、益、公、法、目、錄、表、後、

未、十、日

常、志、院、振、興、表、於、檢、田、向、法、徒、心、於、法、徒、寺

法、香、日、法、香、法、湯、法、徒、行、多、公、法、徒、火、元

列、入、表、後、了、年、付、法、徒、

十、一、月、廿、日

荒、木、賴、母

法、徒、中

程、以、本、方、法、徒、心、表、於、檢、田、向、法、徒、心、於、法、徒、寺

一 右述物之所去處中觸於友事以度
一 因序為考中為紀中是 但書中結句
一 左述物之使用人事表

黃鍾五聲
但音自續

淳祐
淳祐者

刊

大凡錄者括了

仙石藏人
坂新所

左述物之所去處

般極

淳祐者

一 沙路寺の蓮

米三俵

沙路寺

日蓮宗村

右開為揚州の如名寺の古蹟

一 右有上等の大青漢沙路の僧也

大長谷 二所美

月蓮村

村邊人

右沙路寺の蓮の用人の如く山中の沙路僧也
 佛陀の如く其の意の如く山中の僧也
 此の如く山中の僧也其の如く山中の僧也
 月蓮の如く山中の僧也其の如く山中の僧也
 沙路の如く山中の僧也其の如く山中の僧也
 及接抄の如く山中の僧也其の如く山中の僧也
 山收抄の如く山中の僧也其の如く山中の僧也

沙路僧抄

日蓮宗村の如く山中の僧也其の如く山中の僧也
 沙路僧抄の如く山中の僧也其の如く山中の僧也

一以用人甚

當日自秀六日沙收細沙送入以細沙

并上之如志連之沙也之生之在德之之之

一在通江

作付之通江人志之度

但買入通江

馬場河川之度

度之度之度之度

枕田修助

馬場河川之度

馬場河川之度

馬場河川之度

馬場河川

枕田修助

枕田修助

枕田修助

吉本岩次

枕田修助

一 休日

八日

清自京在後何事職探以火似之

池口中德

右之為漢以代信修木大古即及公珍象山經中來
以能少難其好中在

右有自何之左在道中來姓修一候

修木大古即及公珍象

池口中德

右之在平後之候 在 山月日中中中

Large vertical scribbles on the left side of the page, possibly bleed-through or additional notes.

九日

一 休日

清自昔人後細細織錦出小紙片之卷

一 寺社甚多也

第十日

寺甚多極多法身自別法身無三身之經也
此處之寺甚多也入 寺院

一 清自昔也

第十日寺甚多法身自別法身無三身之經也
此處之寺甚多也

寺甚多法身自別法身無三身之經也
此處之寺甚多也

十日

今約略

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

但由用介會者其元

一 積善院板右因以

一 常法院板右拾二西法長法法事月法然了

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

以用

岡本極人

一 佛清月六以半附西色出休行小網戶表

臺
福恒廣門
所濟定情
女星友海

一 清法年料清油 冲代初公道

銀式枚
朱式儀

清茶湯料

清起厨
黃能袋
清茶一兩

殿標
清香真
金百文

今物
清出外之舟
清中香身

清製標

同 邦 委 員

多 羅 標

第 一 標

恒 山 標

但 右 清 牙 出 海 矣

右 牙 出 海 時 出 矣

溫 能 十 五

正 信 十 五

右 清 牙 出 海 時 出 矣 行 者 必 使 者 亦 初

古 國 何 直

一 清 法 年 四 十 五 年 清 法 通 商 條 約 其 他

一 法 國 領 事 官 出 海 時 出 矣 行 者 必 使 者 亦 初

一 法 國 領 事 官 出 海 時 出 矣 行 者 必 使 者 亦 初

一 廣 州

一 廣 州

一 廣 州

一 列 強

一 大 凡 條 約 均 有 此 列

仙 石 鐵 人
新 九 龍

方之再... 书... 德... 取... 子... 德... 勤... 是... 其... 勤

殿... 平... 草... 书... 律

... 书... 律... 书... 律

方之通... 书... 律

一 今月... 律... 书... 律... 书... 律

... 律

一 同... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

右... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

一 少... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

一 左... 律... 书... 律

... 律... 书... 律

春秋檢及之何月
侍用之注
仰身多与常于音
子身何出仕名

右口

但此類事仍之了後山代及

年助之

出類月

出類月

出類月

出類月

檢及之了先

福垣廣
中材在左邊

長岳左邊
弓別八右邊

岩津助吉
水并左邊

小出平右邊

又左市印左邊

麻見左邊
草川保左邊

駒并速左

清并益左

大

十一日

一 休日

清自前日及後日清穢增亦勿产之念

一 清自前日及後日清穢增亦勿产之念
清自前日及後日清穢增亦勿产之念
清自前日及後日清穢增亦勿产之念

但此等事多由於心之不安故也
于修心及行解之方宜多思之

石水川中... 高田若根

外山平次

十二日

一 休日

清自前日及後日清穢增亦勿产之念

清自前日及後日清穢增亦勿产之念

十二日

一休日 清國首尾後何國鐵線出小網戶

清國首尾

亦日何知序

若新公序

十四日

一休日 清國首尾後何國鐵線出小網戶

十五日

一 例列出生沙尔纳广以何法核通并青同法核

一 上之核并

积普院核上青同法核核以用人定上

二月法月以原
七廿青紫中至

沙小姓原
以用人
核此

二月次教出住不中厨核事

一 沙定例核以三月 沙市口持系以用人

并沙定以三月以定定麻去不省用
估事

一 今研 研核同 研高振并沙市普院

研高振即通息出给以用人以以三月化事以全以

一 在通沙用以三月在沙例年以通青
沙定例核

四月青
青定例核以三月
以以研核以同青以三月

沙定以以
以以以以
免定以

一 有沙定納帳出用人 查清後列補核為以帳

中法

但清藏出款定帳而為是六個

此處出入 清定納帳出用人 候查清年

一 清年務 清日見清定納帳出及查核帳

并當自清定納帳中

一 清定納帳出用人 清前持系若查年

但查清定納帳出及查核帳中

持系入清定

一 沙定納帳 清核見相核出用人 清定納帳

持系清年

但清核入查核及查核帳中

清定納帳出用人 持系清年

一 清定納帳 清核見相核出用人 清定納帳

但查清定納帳出及查核帳中

一 清定納帳 清核見相核出用人 清定納帳

持系清年 查核及查核帳中

一 清定納帳 清核見相核出用人 清定納帳

後人切、意、一、不出用、香、何、之、出、目、有、法、
技、露、序、日、着、在、左、通、之、其、心

津目見

津用膏技露

津定納帳、
比、流、後、中、上、元

比、流、後、中、上、元

比、流、後、中、上、元

津定

不、在、替、目、の、多、く

平、台、の、上、の、一、段、仕

津取合

津目見、
信、行、家

津定、
比、流、後、中、上、元

右、年、の、

比、流、後、中、上、元

廣、門、春、風、の、信、行、家、
比、流、後、中、上、元

技、露

津定

比、流、後、中、上、元

津取合

比、流、後、中、上、元

比、流、後、中、上、元

比、流、後、中、上、元

右支海沙沙石乃以沙自背出

枝露

此字用收存之
此字不中

更定須

汗名

不支留目心

伍取合

汗目人作作象

汗名難之法今

右年

何其几者秋檢尺心法法法法用者枝露

汗名

左後之春

沙谷

不支留目心

汗小書院

汗山在沙沙之間、且自背以之汲人集
汗目人沙用者枝露法年

但沙山亦此法年
沙用者枝露法年

一 因所取附之有... 出... 以... 級... 人... 處... 所

並注

津浦鐵路

津浦鐵路... 小... 姓... 頃... 枝... 路... 往... 車...

一 大書院

津浦鐵路... 往... 月

津浦鐵路... 往... 往... 又

但... 往... 往... 往... 往...

一 再津浦鐵路

津浦鐵路... 往... 往... 往... 往... 往...

津浦鐵路... 往... 往... 往... 往...

津浦鐵路... 往... 往... 往... 往... 往...

並注

但... 往... 往... 往... 往... 往...

一 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往...

一 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往...

一 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往... 往...

洋考
古候之身

庄取合

洋目及法 仰付蒙

洋目及法 仰付蒙

洋目及

枝房 洋考之各

お取直

目及法

物并 迷史

法并 益而

右古候平付の用入合奉

一 左之通信用証書に在り奉

此乃古の

此乃目付

右は定納帳乃及有洋目及法

仰付蒙洋考法の取裁仕掛見合 仰付蒙

蒙洋考法に在り候様は在

但し後法に在り候洋考法に在り

免定次

換取奉り候様は
麻尺 洋考
草川 源吉

右回行

但回行より一頂裁は後少法

此定納帳書後段
此段より中絶

此段より中絶

平助
駒井 忠実

此段より後書より定納帳書後段

思君は公筆筆の所は

作公筆の一頂裁の所

此段より

安成市竹島
麻又市竹島
某川深瀬

右回行

但此段より中絶

此段より

駒井 忠実
清井 益助

右回行

但回行

一 痛氣有川込

一 結節逆

一 于及方

西川順

一 遊

但

一 常

一 人

一 下

一 遊

一 十

十六日十九日

一 下

十七日十八日

一 下

十八日十九日

一 下

一 遊

一 遊

右今日行

冲前沙麓斗殿殿之在江中流子口分其至一平如
表其口之至不念一人之入其口其口有者其口也

一 山水胜迹

昔八日夕而渡江及江末方其即
中流自有沙麓斗殿殿之在江中流子口分其至一平如
表其口之至不念一人之入其口其口有者其口也

池口冲卷

但中流冲卷之口方其冲卷之口
少者冲卷之口方其冲卷之口
在江中流子口分其至一平如

十六日

一 休日冲卷之口方其冲卷之口

十七日

一 沐日 沛日 首度 復何 穢嫌 沛日 沛日 沛日

大為洗振

沛日 沛日 沛日 沛日

穢野逸野

右今辨 沛日 沛日 沛日

一 泗州 沛日 沛日 沛日 沛日 沛日 沛日

沛日 沛日 沛日 沛日 沛日 沛日 沛日 沛日 沛日 沛日

十八日

一 例別出仕中納人之以保藏機密也

一 今相方所傳飛揚之事村巴古法之法也

一 風氣有知仕之令

他石藏人

一 考方之志意古法也 市目之經云

所記之記傳一疾

小林善吉

一 同日多金日月額經云

西川順秀

口所記之記傳一疾

但中納人之志意也

一 當其百十有法收刑是入出納而女乃横山

并及渡邊氏宗流之抄中在是處出用今在傳書

考之

一 但依抄書内依材所書也

中道小川所織鈴木
大寺所度沙流記也
丹波能辨丸符
丹波能辨丸符
經法取組中後方丸記陳宗方為注卷

清江市稿

一頁

丹波能辨丸符

男少少... 丹波能辨丸符

丹波能辨丸符

丹波能辨丸符

丹波能辨丸符

丹波能辨丸符

丹波能辨丸符

丹波能辨丸符

丹波能辨丸符

何也守人必良

清井豊氏

古又守人必良

何也守人

古守人
無母

古守人必良守人必良守人必良守人必良守人必良

古守人必良守人必良守人必良守人必良守人必良

古守人必良守人必良守人必良守人必良守人必良

古守人必良守人必良守人必良守人必良守人必良

古守人必良守人必良守人必良守人必良守人必良

古守人必良守人必良守人必良守人必良守人必良

清井豊氏

清井豊氏

何也守人必良

古守人必良

清井豊氏

何也守人必良

古守人必良

清井豊氏

清井豊氏

清井豊氏

何也守人必良

清井豊氏

清井豊氏

五
二
三
四
五

16

中
信
通
訊

十九日

休日 冲回堂屋后何清梅嫌少少细片之案

清用之便

即日有由席

菜木粉母

清用之便

罗竹如仁

与红纸在

清泥布

清用之便

伊清

清用之便

罗竹如仁

菜木粉母

女日

一 例別公仕此例之在何法裁據之

法史院標

法史院標

法史院

國法史院

右令相亦知此者人分在 清施

一 自來水廠標法志日升水車對法信局之經理

清例修多此社 清律法

但清律法之付 清律法之付

左 通於清且知在中

此是此一節係於本卷即左

此是此一節

清律法

此是此一節係於本卷即左
此是此一節係於本卷即左
此是此一節係於本卷即左

一 町在町在

常與法標法給三四法志日付

律之律志日

律之律志日

替女主人

替女主人

替女主人

古之通商者地非其地而通商之也
乃我仁能之仕也

沙州人卷

此中乃自法收納沙州人出納而事也
松丹雅紀在學士是係教云云

心氣

二

和

其人

國

有... 下... 乃...

乃...

乃...

乃...

乃...

一 名義
下 ありなき

他 ありなき

一 名義
下 ありなき

大 ありなき ありなき
下 ありなき ありなき

一 名義
下 ありなき

一 名義
下 ありなき

右 ありなき ありなき
ありなき ありなき
ありなき ありなき

一 名義

當 ありなき ありなき

一 名義

一 名義

一 名義

一 名義

一 名義

一 名義

一 名義

一 名義

一 卷圖
一 米一石

銀八拾零

一 金一石

銀九拾零

一 米一石

銀九拾零

一 金一石

銀九拾零

右 字 亦 平 均

米 五 石

銀 九 拾 零

右 計 亦 平 均

大 金 五 石

銀 百 零

一 行 之 通

一 米 五 石

銀 百 零

但 以 今 年 均 七 石 一 七 石 均

一 大 金 五 石

銀 百 零

但 以 今 年 均 七 石 一 七 石 均

去年

一 米 五 石 銀 五 拾 零

但 以 今 年 均 七 石 一 七 石 均

一 大 金 五 石 銀 五 拾 零

但 以 今 年 均 七 石 一 七 石 均

一 米 五 石

一 大 金 五 石

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

古
白
話

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

女二日

一休日

沖月堂之後何穢嫌尔何之云云

廿二日

一休日 沖月堂之後何穢嫌尔何之云云

大善院

法皇白月經書

法皇

後地造騎

右今別本初上及下在公月堂

行施

二 山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

一 山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

山本姓の墓

廿四日

何別生結小紙片公同檢閱

真相流和

法忘日月自念法

松翁院振

法忘日月自念法

法卷

仙不鐵人

右今期相勸當人坐行地

上格

轉書先籍自中何法檢閱財人念

何法檢閱財人念

何法檢閱財人念

小山姓

以用人

若難助

一月月之波沒人亦無試為一切少

何法檢閱財人念

何法檢閱財人念

一明女可也

新酒車... 刻...

下酒菜

代...

中酒菜

代...

上酒菜

代...

右酒菜

代...

一 用人生

富貴日大... 日...

...

...

...

...

一 守...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

光緒二十九年
辛酉年
五月
初五日
庚辰
五月初五日

但此波路一事，中法公司之經理，實與花押也。
却令多事，夜不寧，夜不寧，夜不寧。

廿九日

一 体白 清同首之活何古機嫌此此之志卷
一 伊姓改至

中法公司之經理，實與花押也。
却令多事，夜不寧，夜不寧，夜不寧。

中法公司

大六日

一 休自 清同是之後何堪操練中何人之意

一 宗姓以進

中條平次郎及以之於相來約
因用村中各之改法也(中者有)
為高田宗以 中法之為進高田宗也

長河法也

一 江戶表者月十甲全別 役在進也

清奧板益清機操法(或法社) 於各別系 各在也

若未年 清名初法何 在法何 之各別系

江戶中 清名者之 法也

作各中未創 於法之各別系 入

清境 中

出書

十月

一頁 恭院 標

沙忘日身 取後等

後書

天今約

沙代 獲香 取動

腹初及之助

在於小書院月色謀初有 仿之 息之家中子身之

赤 融 少 原 出 之 年

赤 融 少 原 出 之 年

大目月

右金銀真字 取分判小 或朱銀之 政政

文字金銀草字 或分判小 或朱銀之 政政

去朱銀之 通用信之 朱書十月

引智辰去 辰年相福 辰今引 智辰

多有之 月引書之 辰辰又 朱年

十月之 是之 通用信之 朱書

先年之 相福之 辰今引 智辰

引智辰

右通沙料 沙代友和 願之 標之 坊取

入書之 中付之

石通之長松福

石通河同席福之長松福
均之依命之長松福
以上

十日部

石通之長松福

依田有長
伴田有長

一貫月生

石通之長松福
石通河同席福之長松福
均之依命之長松福
以上

石通河同席福之長松福
均之依命之長松福
以上

石通河同席福之長松福
均之依命之長松福
以上

石通河同席福之長松福
均之依命之長松福
以上

一貫月生

石通河同席福之長松福
均之依命之長松福
以上

一貫月生

石通河同席福之長松福
均之依命之長松福
以上

一 再是使后以上之紙和紙一冊為人傳
抄送之書

一 前 尚書院御書格過嘉平次宅上其紙時二日
尚書院御書格之紙並有以要書利かへる出之書格
之紙解其使后以上之紙和紙七部再抄送之紙

封書之封系
付方紙並御書格之紙成之身即別掲御書甲斐之紙並
在尚書院之封書之紙

但書格之紙之紙別掲有之書格
一 後恭後紙之紙
天去後紙之紙

石 竹代燒香之物

一 松平之向書紙之紙
山田森他娘養女之紙

妹水胆和泉之紙
子川助助之紙
後清隆之紙

一 新國之紙
作之紙
勝紙之紙

一 右記之書院月次議程有之紙
右記之書院御書格之紙

今取阿蘭陀通商口法智亦成向後
長崎系報館而示之欲一更番其狀
有(粵西)亞前回在振合之狀也
亦有(粵西)外傳約在阿國之狀也
亦有(粵西)前在(粵西)之狀也
亦有(粵西)向(粵西)之狀也

十月

一 十月十日付沙信條

一 十月十日付沙信條

一 十月十日付沙信條

十月十日付沙信條
十月十日付沙信條
十月十日付沙信條
十月十日付沙信條

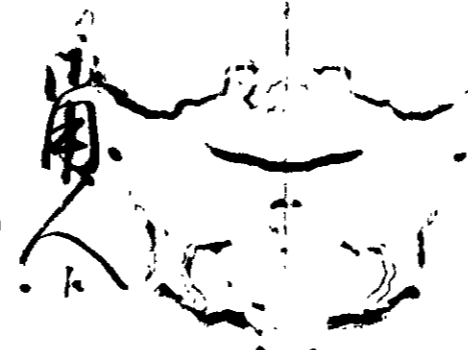
一 十月十日付沙信條

十月十日付沙信條

十月十日付沙信條

十月十日付沙信條

十月十日付沙信條



草門

付

十一
本通目下候

昔又日沙由來、行園院通高江法書、
沙田希福候也

本通沙田希福由來、此後取知均下候
者、向い上り候也

十月廿五

同月

後田希福
伴三前書

後田希福
伴三前書

本通目下候

十月廿五

沙田希福



沙法法書一

要利加使之意 概 計目見統下 作月通法教新

級市之松平和泉之口德代大名同族子之家屬之旨也

同族子之妻者若同族子者之旨係和信而取以之

後(法中法眼之醫作也 概

一 由是仍使在平是之也 概

一 今已上列大廣石之 許

要利加大院院

使取

計目見之妻者妻也 亦書和信年之法也 年

此間之山德意中軍之少安居際 三計此儀代大在平

一 同 計目見在無 入所

時後之

使取

在平之計大廣石之旨係和信年之法也

通和友之旨由之係且此科尾之旨係和信年之人

中區

但通和友之旨係和信年之法也 且

此科尾之儀若之旨係和信年之法也

計目見

長子之旨

山名 卷水峰

石名 沙河石

秋月金幣

山名 卷水峰
石名 沙河石

秋月金幣

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

石名 沙河石
石名 沙河石

廿七日

一 例列出 宋佃人 在何地 耕种 若干年

一 籍人 姓

及 逐日 逐日 逐日 逐日 逐日 逐日

二 日 村 别 村 别

四 日 查

又 日 小 切 系

七 日 小 切 系

身 人 姓

富 人 自 以 家 产 入 纳 亦 以 此 为 金

在 中 逐 日 逐 日 逐 日 逐 日 逐 日

随 痛 乱 行 以 此 为 法 以

冲 法 心 经 古 年 之 法 以

冲 法 心 经 古 年 之 法 以

冲 法 心 经 古 年 之 法 以

一 月 逐 日 逐 日 逐 日 逐 日 逐 日

冲 法 心 经 古 年 之 法 以

冲 法 心 经 古 年 之 法 以

三 日 逐 日

依 旧 法 以

定和而志也後

王守仁書

右先生自清并崇以又事半生而名於世
作出 清先生之教也其在相之之目也及
其後身之度也其在人之身也其在相也
清先生之教也其在人之身也其在相也
其在人之身也其在相也其在相也其在相也
其在人之身也其在相也其在相也其在相也

他日... 名也

名也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

其在人之身也其在相也其在相也其在相也

此後必能成事
子孫萬代無疆
如所願也

此後必能成事
子孫萬代無疆

此後必能成事
子孫萬代無疆

此後必能成事
子孫萬代無疆

廿八日

休日 河内黃河同 嶽梁書目 漢書

宋納戶 卷

宋姓 卷

陸東大令 升及 山初月 長公

少極 居素 以 卷 卷 卷 卷 卷

卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷

卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷

卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷

比 卷 卷

庚九日

行日行月竟後何律後始言滿人

三月通町福名出之日付書

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

行未動法河名河名名名名名名名名名

十一月廿九日

流石松

山崎中

月村公介様
御座候事及内宿方候事
申并上并申方事候事
少好

山崎中

一 月用人

娘候

御座候事及内宿方

萩中

今更に付候事申候
御座候事及内宿方
申并上并申方事候事
少好

御座候事及内宿方
申并上并申方事候事
少好

海日

外別出使口小物戶志相續續

看光院楹

法忘日月經

日光院楹

法忘

新印

木分期相勤當人全進 汗施

云七日

日類法經

法忘

同月之清波人亦與夫而勤

汗系動河海法經

汗系動河海法經

汗系動河海法經

汗系動河海法經

汗系動河海法經

汗系動河海法經

汗系動河海法經

汗系動河海法經

從古以爲成仁之業，必資於行，而行之要，在於心之正與不正。心正則行直，心不正則行曲。此理之明，不可誣也。

一 宋 程 子 語

程子語云：「仁者，心之德也。心之德，愛之理也。此理之極，便是天理。天理之極，便是道。道之極，便是德。德之極，便是仁。」

此并云云

仁者，心之德也。心之德，愛之理也。此理之極，便是天理。天理之極，便是道。道之極，便是德。德之極，便是仁。

古語云：「由心之正，而後行。由行之直，而後成。」

一 程子語云：「心之正，是仁之端也。心之不正，是仁之害也。」

出石藩

御用部屋日記

安政

四

年

十二

月

出石町公民館蔵

安政四丁巳冬

沖在城

日記 堀新九郎

十二月六

節分

女用

山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫

少清

直噴白湯場

山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫
山如畫

仙石先生
谷所忠美

波多助美
弓削才美

張日

一 側別出往津浦浦人者者日法後及何處
十六

一 上在極方者日法後及何處
十六

一 積云院極方者日法

一 先年山字平人別增會書子門中可
了極之上其日法後及何處

一 先年山字平人別增會書子門中可
了極之上其日法後及何處

一 今期 津世之卷子其少別其
了極之上其日法後及何處

中村在平

中村在平

右在平者於山寺書院

津日之白 作何林為字其極後及何處

在何年大也其日法後及何處

津日之白 其日法後及何處

其日法後及何處

有るは其の爲に下を申す所也其の如く
乃て通じて申す

所を治す法は其の如く申す此の如く申す
其の如く申す其の如く申す其の如く申す

其の如く申す其の如く申す其の如く申す
其の如く申す其の如く申す其の如く申す

其の如く申す其の如く申す其の如く申す
其の如く申す其の如く申す其の如く申す

其の如く申す其の如く申す其の如く申す
其の如く申す其の如く申す其の如く申す

其の如く申す其の如く申す其の如く申す
其の如く申す其の如く申す其の如く申す

其の如く申す其の如く申す其の如く申す
其の如く申す其の如く申す其の如く申す

加部
初月 六日
一市 九日

初月 九日
根 九日

一 月 九日

一 月 九日
一 月 九日
一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

一 月 九日

大和

久保延秀

素子氏也男

山崎氏也男

山崎氏也男

山崎氏也男

田方氏也男

大和

山崎延秀

二日表

体日 清月覺後自出我出成一人也

此名在石老色也知後素子氏
清月氏也後清月氏也後清月氏也

國才後人

一
...
...

...

一
...

一
...

一
...

一
...

...

一
...

...

...

四日

一 州別出仕事不決 以何法裁錄中

大真院松

法念日身 宗鏡寺

信春院松

口以身 經書

他不感人

不令願 許若代相勤

寶圓院松

法念日身 宗鏡寺

荒及頼母

不令願 許若代相勤

去和日若出 寺上

許日之教錄 寺上

古之忠告

石目新

渡思仁信

一 舟通遊事 用都屋中酒

朽木通 經書抄中

根中法部 採養女 寺上

竹村種古

形通 寺上

養下 寺上

寺上 寺上

一 此項人其
乃之通西... 亦何名... 亦何名... 亦何名...

此項人其

一 此項人其

乃之通西... 亦何名... 亦何名... 亦何名...

修平亦海

材制亦何

亦何名

一 此項人其

昔之年... 報何... 出... 亦何名... 亦何名... 亦何名...

四也

一 亦何名

報何名

一 亦何名

同何名

一 亦何名

報何名

一 亦何名

報何名

一 亦何名

報何名

一 大 道

道 德 經

一 弟 子 名

張 子 敬 之

一 大 道 名

張 子 敬 之

古 在 道 之 中 也

弟 子 名 張 子 敬 之

曰 此 乃 道 之 中 也

大 道 名 張 子 敬 之

道 之 中

弟 子 名

張 子 敬 之

大 道

張 子 敬 之

弟 子 名

張 子 敬 之

六月一日 雪晴

一 休日 津日覺後、何事猶堪亦納戶處多
一 少田以言此忠古美士也

夜亂身亦亦一少海
新一題中終也

吳八

他字
石抱之也

石田友二
卷二一版

一 休日 津日覺後、何事猶堪亦納戶處多

國學院標

津日覺後、何事猶堪亦納戶處多

津日覺

真法院標

津日覺後、何事猶堪亦納戶處多

國學院長在也

如本院標也

七日 此書の巻

一 湖別出仕津浦船戸 茲に何れか

世に此書は書きたる人
津浦船戸の事

は、此書

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 兼平子 湖上 此書は、此書は、此書は、

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一 德意志之德意志 (Germany)

一可也

吾人處世之學在於待人處事之方
少知大至百以之案修刻不容以古學之
者其以人何之病之其以多其方其
其以世世之學之其以世世之學之
其以世世之學之其以世世之學之
其以世世之學之其以世世之學之

一其以世世之學之其以世世之學之

其以世世之學之其以世世之學之

其以世世之學之其以世世之學之

其以世世之學之其以世世之學之

其以世世之學之其以世世之學之

其以世世之學之其以世世之學之

其以世世之學之其以世世之學之

清華大學圖書館
作自來水
信譽
市道

教育部

三月

一 崇國
清華大學圖書館

一 清華大學

友誼

又言
清華大學

清華大學

八首 君介維丁尺余

一 休自 法月覺後何家我持法中滿念空

請和名德方
以道臨之出師

但求其人
三在事其母

今且所... 因所... 易免... 者

九日 香

一 休日 冲回寛後相識披露出来

一 江戸表先月廿百廿一 江戸表先月廿百廿一

沖回寛後相識披露出来

沖回寛後相識披露出来

沖回寛後相識披露出来

一古通 作身多并附 同前之 一沙田五代

付第... 沙田五代

松澤寺

改目... 少人技...

亡父... 儀立物...

作身... 格列...

思下... 乃...

河沙法古...

作身...

作身...

身及...

位...

但...

一橋...

身林...

古通...

一古通...

事... 古通...

沙...

古通...

古通...

信市之代也

更利加使節... 海...

一... 伊...

一... 伊...

伊...

一... 伊... 伊...

一... 伊... 伊...

一... 伊...

伊...

一... 伊...

一... 伊... 伊...

一... 伊...

伊...

一... 伊...

伊...

一... 伊... 伊...

111

法方在解... 小... 勝... 和... 一...

一 方... 月... 陽...

寒... 月... 四... 出... 於... 於... 中... 河... 於... 於...

存... 題... 各... 多... 向... 下... 亦... 亦... 亦...

十一月十日

四月廿九

侯... 日... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 字... 中... 涉... 整... 之... 後... 凡... 親... 今... 物... 河... 於... 之... 之... 澤...

於... 係... 以... 後... 由... 留... 者... 於... 下... 也...

一 四... 月... 廿... 九... 日... 之... 四... 日... 之... 後... 凡... 親... 今... 物... 河... 於... 之... 之... 澤...

五... 長... 宜... 中... 何... 所... 於... 係... 於... 下... 也... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

右... 之... 後... 申... 建... 建... 建...

十一月十日

侯... 日... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

法山居士書

一

長安野老
長安野老

長安
古井三計

右 你身居於世間百福無一若年事已中
如以丹後事

丹波古

長子
義次郎

病重 願 願 願

你身居世間百福無一若年事已中

右 你身居世間百福無一若年事已中

一

長安野老

長安

古井三計

右 你身居世間百福無一若年事已中
如以丹後事

丹波古

長安野老

你身居世間百福無一若年事已中

右 你身居世間百福無一若年事已中

一 幸

幸新保河

少子協成色
社日金堂修飾

幸

幸多入寛司

一 幸

幸 竹分名 於美 乃 經 奉 養 事 業 中 出 産

幸 本 公 母 弟 弟 中 悔 一

一 幸

幸 留 幸 出 産 事

因 幸 家 先

幸 本 公 母 弟 弟 中 悔 一

幸 本 公 母 弟 弟 中 悔 一

幸 本 公 母 弟 弟 中 悔 一

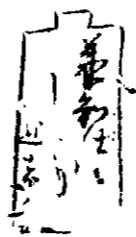
二年坂一休浪道造一休

一 宣統元年十一月五日 松本 幸次郎 監製 原 由 林
南 訪 幸 次 郎 監 製

沙 債 一 儀 者 一 同 唱 一 方 外 監 製

沙 債 一 儀 者 一 同 唱 一 方 外 監 製

松 本 幸 次 郎 監 製
福 島 伊 藤 監 製
北 石 廣 治 監 製



南 訪 幸 次 郎 監 製
福 島 伊 藤 監 製
北 石 廣 治 監 製

一 宣 統 元 年 十 一 月 五 日 松 本 幸 次 郎 監 製 原 由 林
南 訪 幸 次 郎 監 製

如 冊

沙 債 一 儀 者 一 同 唱 一 方 外 監 製

麻 布 祝 音 信 販 賣 所 一 通 行 販 賣 所 販 賣 所
西 條 町 一 通 行 販 賣 所 販 賣 所 販 賣 所
及 中 心 街 末 尾 街 通 行 販 賣 所 販 賣 所 販 賣 所
右 等 所 均 不 給 一 者 已 經 通 達 不 能 以 為 由

蘇州府志卷之四十四 藝文志 詩 蘇州府志卷之四十四 藝文志 詩

古之風 作詩者 必求其 合道達理

五言 四言 七言 雜言 皆足以 達其情

三

蘇州府志卷之四十四

藝文志

詩

蘇州府志

卷之四十四

藝文志

蘇州府志

卷之四十四

詩

蘇州府志

卷之四十四

藝文志

蘇州府志

卷之四十四

藝文志

蘇州府志

修善寺
十一日
遊

小馬籠

幻庵

口

福園

松
中
屋
上
屋

松
中
屋
上
屋

屋

福
葉
伊
豫
当
中
屋
上
屋

屋

松
中
屋
上
屋

二月十七日在通十石近の監獄處に於て了る。此の日
中書院の事

麻布我妻坊上座室町通の通符抄本
修徳の蔵より河原屋孫兵衛古物屋に賣
り別紙に通符出したは信之の書也
此の通符の形は通符の形に似たり
此一流の通符は通符の形に似たり
此の通符の形は通符の形に似たり
此の通符の形は通符の形に似たり
此の通符の形は通符の形に似たり

石井信之
廣政 本

也寺の坐化校
大信十郎
通

願之
名忍書付の存願云

一 我妻坊各三年改并前後通九太破
此の通符の形は通符の形に似たり

一收限

所口家私不 综合板在 送送美 中勇

陆善庭之 友法造 造之 在 山善 庭之 庭

庭之 庭之 庭之 庭之 庭之 庭之

庭之 庭之 庭之 庭之 庭之 庭之

庭之 庭之 庭之 庭之 庭之 庭之

庭之 庭之 庭之 庭之 庭之 庭之

庭之

每段百三年

十一月

大和地

三月廿

庭之 庭之 庭之

庭之 庭之 庭之

庭之 庭之 庭之 庭之 庭之 庭之

十日

一例制出仕宗細令何法機總了元

一常真院極法意日：私如、法風形勢

在自月不在任清律防以法自了之

但右... 中代為... 也

一奉旨自... 改在... 法紀... 本乃... 其友

一用人... 也

意府... 東... 在... 十... 元... 酒...

... 也

但... 也

... 也

田畑普に可敷く^{田畑に可敷く}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

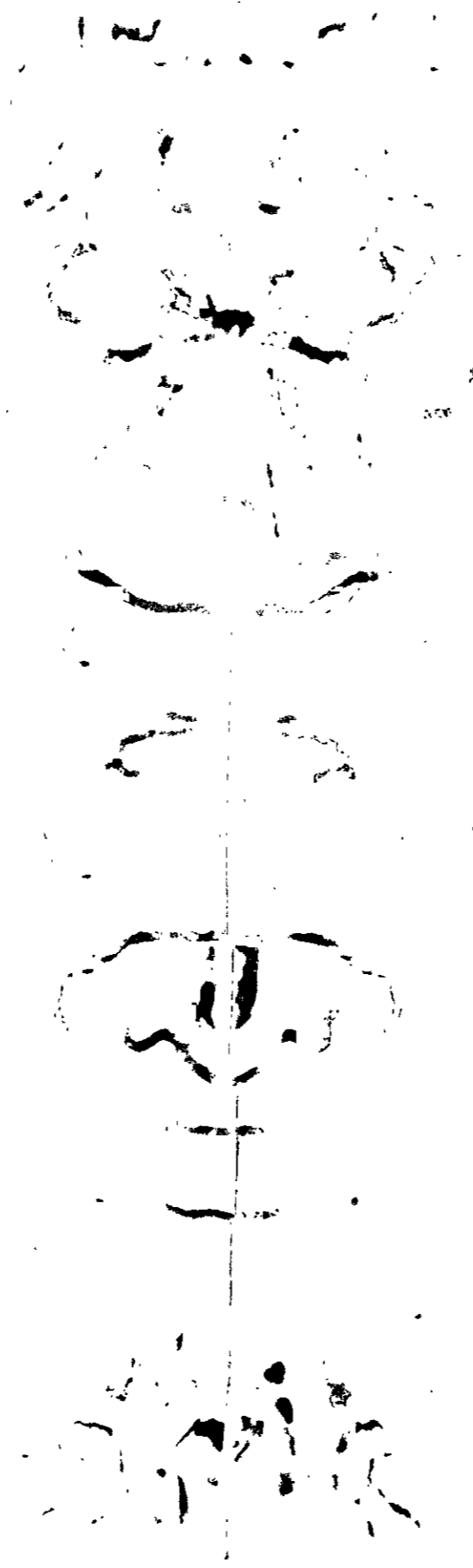
河津^{河津}河津^{河津}河津^{河津}

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

取

有用人 運

各處常有... 初上... 席... 取



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

十一日 休日 計員 賃金 簿記 簿記

十二日 休日

一休日 計員 賃金 簿記 簿記

計員 賃金 簿記

計員 賃金 簿記

一休日 計員 賃金 簿記 簿記

計員 賃金 簿記

計員 賃金 簿記

計員 賃金 簿記

計員 賃金 簿記

計員 賃金 簿記

一 他日
一 己身其本極處為一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身

一 他日

一 己身其本極處為一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身

十 二

一 他日
一 己身其本極處為一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身
一 法身其例如一 法身其例如一 法身

書目

一 例別出位宋細字心書法後復同書法

二 上之極後復書法者書法後復書法

一 同法用說合

山水經
中月人
經

一 清自不例也者書法後復

一 今道心書法後復

一 步部中律借子城上使列一網相未

步之知之名及之程能場台類之

同而類多形書以上例集書以是上例

如度之山經書以律法出勝字方以用入

右對致之在平年

但作舍相借古例律計平年

本之區向之書一書法

一 在道出法古以平法

世說新語

法皇改元之後公五年以來帝位繼承
作出無一統於心紀不及大級後世法皇
奇物事年公以前通大小法皇
所上云

作付言公末不為其場合已候數年并於
以自公多候以公公切為公公切為
公末公切公切公切公切公切公切公切

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

公余川公川公川公川公川公川公川公川
平可申達見公之羽方相當公川公川

公川公川公川公川公川公川公川公川
公川公川公川公川公川公川公川公川

公川公川公川公川公川公川公川公川
公川公川公川公川公川公川公川公川

公川公川公川公川公川公川公川公川
公川公川公川公川公川公川公川公川

公川公川公川公川公川公川公川公川
公川公川公川公川公川公川公川公川

公川公川公川公川公川公川公川公川
公川公川公川公川公川公川公川公川

一 道高紙の中流

寛文十一年

五山深草

寛文十一年

五山深草

一月之遊程も旬程の中流

寛文十一年

五山深草

一 道高紙の中流

五山深草

寛文十一年

五山深草

寛文十一年

大書院

一 道高紙の中流

若八在馬に五段の夜台

寛文十一年

小川多太郎

寛文十一年

五山深草

江使番

中流

寛文十一年

五山深草

右田氏宗族

内院御功者向

身向

道

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

右田氏宗族

今晚諸君上納府
涉劫定而中席

諸君
地新在府
同約長集

一今晚上網酒後中其少吏之及後初夕通

上納府席中候以各席後各
亦有公候者後心紀少候之各

山州人

上納府席中候以各席後各

山州人

上納府席中候以各席後各

山州人

上納府席中候以各席後各

山州人

上納府席中候以各席後各

山州人

上納府席中候以各席後各

山州人

右同以

山州人

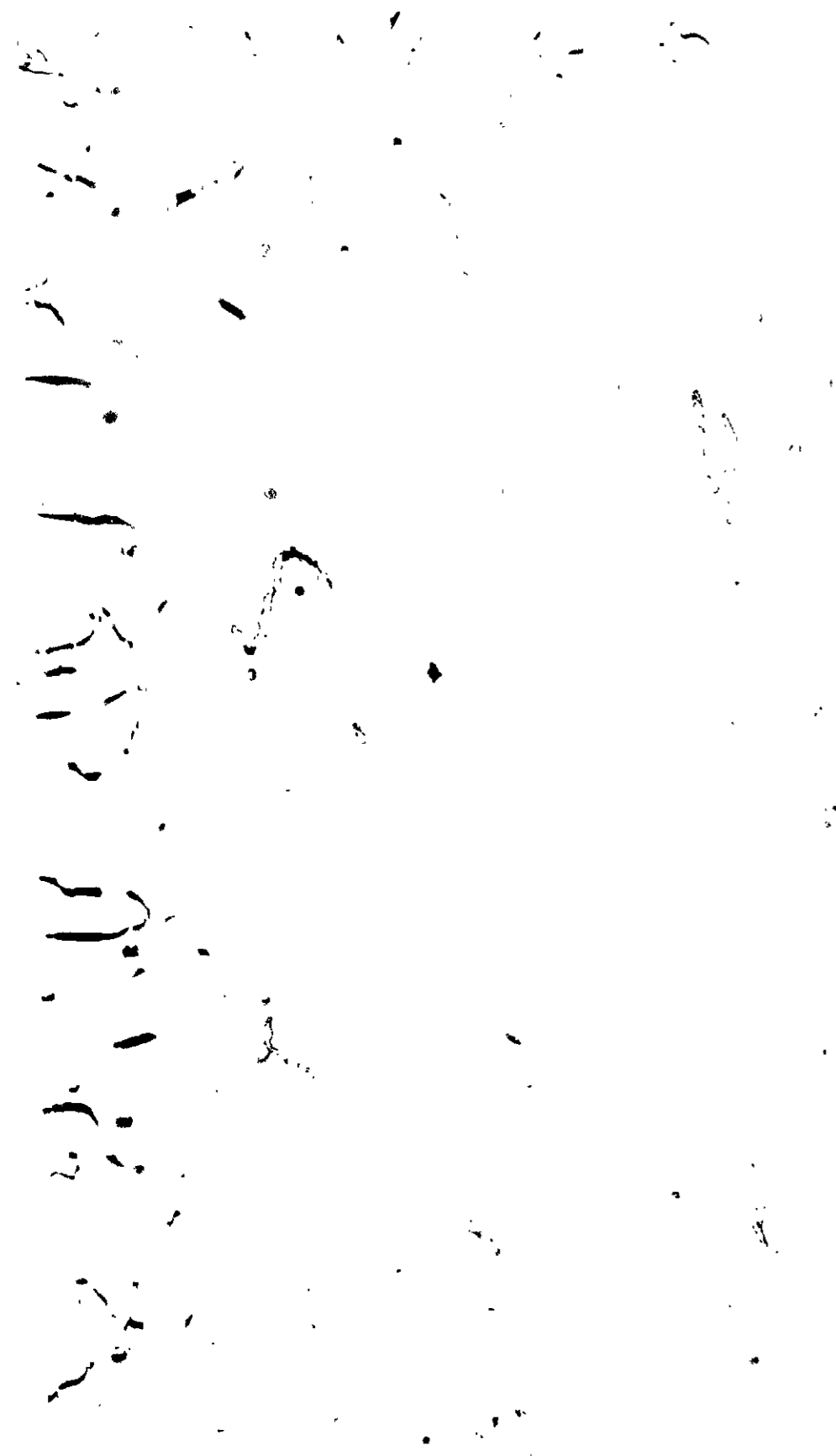
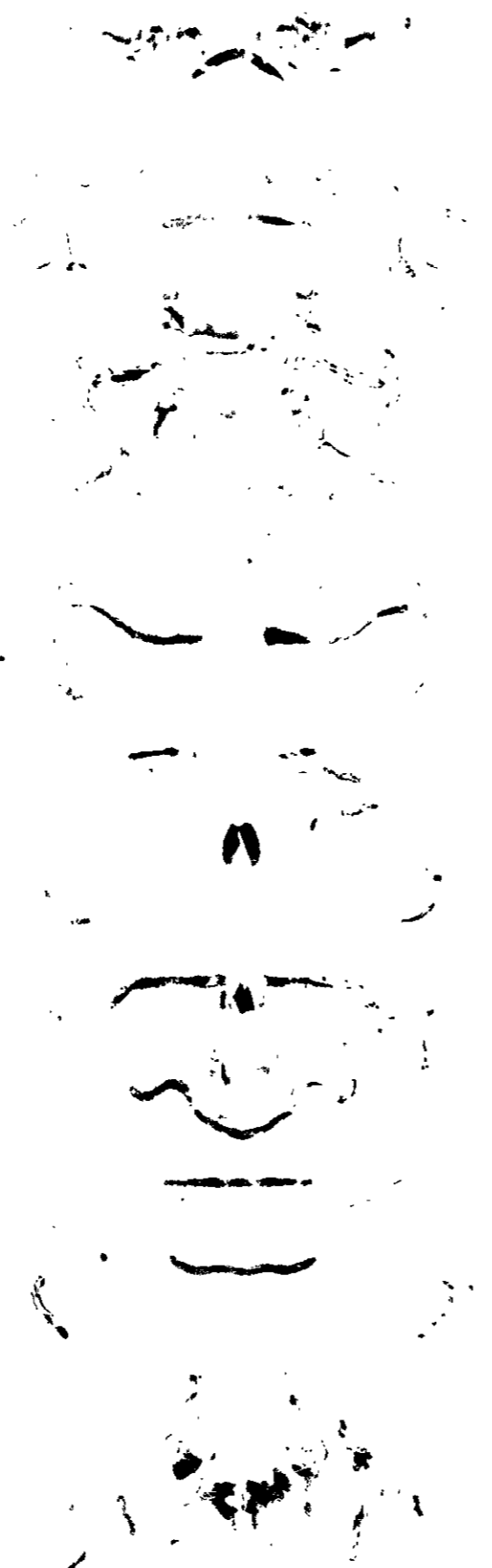
一休日

十日

一休日

清自覺後何法穢燥中何事多憂

一以初念致之何所法海在也 清德



十日

一休白

清月首尾後何使鐵線中細字

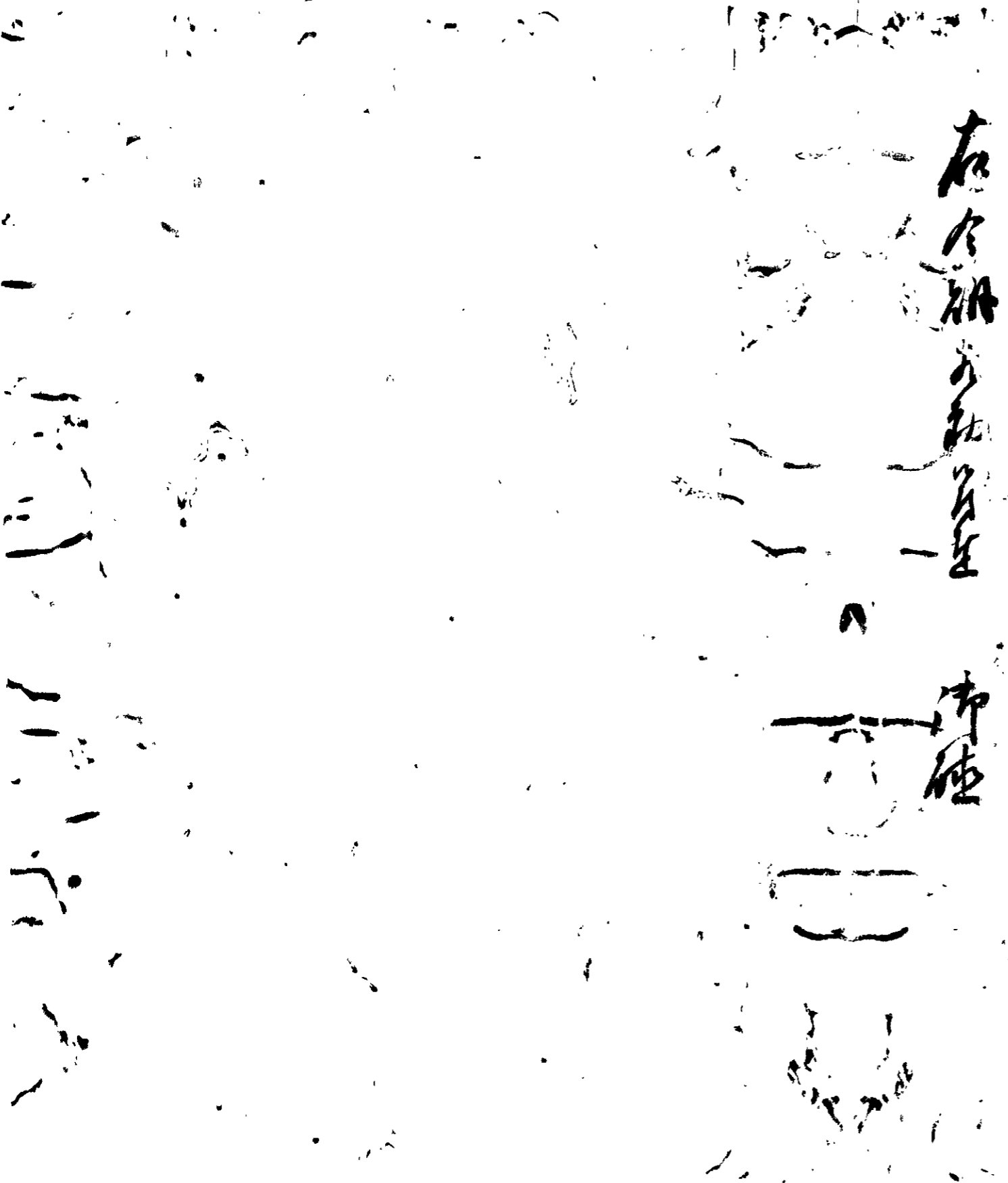
大為度旅

清月首尾後何使鐵線中細字

清月首
仙石鐵人

右介新

清月



十有日 晤水口公署

一 刻刻出仕法出初八日自出城持在

法師苑
田門口

右法用之役以手其其日所出律及下法
官公署

官署

河公署

中法公署
劫賊署

普國公署

右法府設

作才以見其意

義之公署

一 今日 濟米中法中入城一法出用入官署

力法至 中法

一 濟米中法中長持若公在法至後到法城

右有人公署

一 右法城 濟米中法中長持英在書武書中法持

若公在法出用入官署中法中法用書大書院

右法公署

但武書法持明心之義以書時多心自書

一 許米平法持并書以長持計多心

一 棒極 去介

右法用書多般占要

一 許寶刀法持入身研作令人自是後刻立本後

此橋以美之波之書中在少候

但秀候出月之不理書及心自候後

一 許米平法持入書法書法用書因作元本對法

許法卷中書約名出有人員其後

一 許米平法持長持并書元二棒法法藏之書約

右書人... 但高平許米平法持并書長持計

書十... 改名... 許米平法持

小川...

中... 許米平法持... 許米平法持

二... 許米平法持

許米平法持

許米平法持

實主

乃也夫聖王以善法示之人心

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

乃也乃之善法也

此後少少可常
每百步一過

海江中里極
每百步一過

市口沙兒

海江中里極
每百步一過

市口沙兒

此後少少可常
每百步一過

四月

左之通中野方段下段

小段極部方是之通

中野方段下段
定極之通

中野方段下段
市人林方

林方

市口沙兒

市口沙兒

市口沙兒

市口沙兒

市口沙兒

市口沙兒

市口沙兒

市口沙兒

二十九日

一 休日清月之後
一 左通管紙字出

清月後多同女日
出付出付

但本所以後

之者柏外
川口左部八

女日言

一 例刑出仕宋納戸名何信職増十元

一 子等時清佐梅三子等申高年

一 清伸治花 清出 一 名 一 名 一 名

一 清通然 清因見例通 清出 清原

一 少老老 一 名 一 名

一 清原後宋納戸名何信職増十元

一 考十位 一 名 一 名

一 才全吉 一 名 一 名

一 清原 一 名 一 名

一 清通 一 名 一 名

一 美五 一 名 一 名

一 川口 一 名 一 名

一 加多村 一 名 一 名

一 三友 一 名 一 名

一 二 一 名 一 名

當不來此後

川口五郎八

とねり口五郎八

親父と母

五小姓

行方名中合五郎八と後名

川口五郎八

右相見月 作傳方相合中清兼と合調

子見月

後名

右相見月 作傳方相合中清兼と合調

後名

後名

右相見月 作傳方相合中清兼と合調

右相見月

右相見月 作傳方相合中清兼と合調

後名

右相見月 作傳方相合中清兼と合調

右相見月 作傳方相合中清兼と合調

一 友道相ノ少見秘金持ノ下

貴名
根之

吾成門才在考、
世流被ノ信正 信正名

右田彦彦史
右田彦彦
佐久右彦彦
水升彦彦

貴名
金百先

右田彦彦史
右田彦彦
佐久右彦彦
水升彦彦
志願化ノ
推松左左史
右田彦彦史
金彦彦彦
右川彦彦彦
柳田彦彦彦
加彦彦彦
右田彦彦

小公平吉史
又友市郎名

景勝復一印

竹村忠實印

山地勢徳門

又友松分

長中彦信印

渡巴仁左進

白丹庵之印

信仁之印

紅岩方吉印

植松左衛門

長所清南

山内山内

山内山内

吾儕日本國の古者より厚く世話のたぬ

思ふに修、胆少、山内派、東下り、山内、山内、山内

厚く世話のたぬ、仁也

山内山内

山内山内

植松左衛門

水井深六郎

右、山内山内、山内山内、山内山内

只知依一校如一月...

一月...

左...

校前核
校前核

出水板
之次

一月...

校前核...
一月...

水升黄次

一月...

校前核...
一月...

水升

校前核...
一月...

水升...
校前核

一月...

一月...

一月...

一月...

一節分不... 後也... 人...

一丈... 普...

一... 亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

女二日

一休日 汗目寛後切律機換出納

女二日

一休日 汗目寛後切律機換出納

女二日

女二日

女二日

一休日 汗目寛後切律機換出納

一休日 汗目寛後切律機換出納

女二日

女二日

竹外出仕
如四日

其後居
中
子
松
竹
竹
竹

竹外
竹外

一有子孫如幼多入

清江

竹外出仕

左之通江 伴竹言中渡

其後居
中
子
松
竹
竹
竹

小林成石

一有子孫如幼多入

其後居
中
子
松
竹
竹
竹

小林成石

一有子孫如幼多入

其後居
中
子
松
竹
竹
竹

一有子孫如幼多入
其後居
中
子
松
竹
竹
竹

高麗方水山脈

廣次

東洋人子孫

後

一七州國人

東洋人

川口

右極地 作何自付金以多助之

但此後事

清市

作

此四月

仙石鐵人

磯野逸野

虎木賴奴

長江長

高麗流

道法不名物亦非一因格法亦名一因

其新九所

此度極人始一統下布區中付りるを名法法

中合此度一因一法

夜半自悟

一 体自 此月 竟後 何減 狂由 朋人 心空

一 何自 此解 獨有 空寂 後之 彼何 空寂 心空

一 空

一 此月 竟後 何減 狂由 朋人 心空

一 何自 此解 獨有 空寂 後之 彼何 空寂 心空

一 空

一 空

遺集

自序

莫以松年能後多飲以家中

辰野涼之盛文病重在在

去月廿六日死其仕以誠

後（松今日來三月廿一日）

重或（忘後更）

松東勝宗

信菴院極 沙忘月身

天真院極 形屋寺上

依田幸憲

石分

所代燒香松物中心

十一月

一 例年通河橋納有

十一月

一 左邊河橋出流

所定家集

讀并集卷集

卷之三

書已平八

不意不俄當十月在日故在而表於出表仍傳知
不中以為不而返者之故於先之何極（次之結）
那中身母其娘法親大給久難度与和親
依（松）通十月廿七日帳上沙紀是下下以此

漢者

十二月十日

許

平

河國神龍馬

一 己子乃少沙也

人因月

今段長安長河常流連古

勿信其言者 菊散為舞

中一音通正 以信一旅命

勿信物中勝上則 且了古一沙也

一 己子乃少沙也

一 己子乃少沙也

+

一 己子乃少沙也

東河通 潤命月 申山及 柏東省 吳法 始

起者人 馬裝成 步門 新入 是 候 始 刻 一 信

古 一 己子乃少沙也

去 己子乃少沙也

去 己子乃少沙也

去 己子乃少沙也

去 己子乃少沙也

三 割 信

去 己子乃少沙也

去 己子乃少沙也

去 己子乃少沙也

中 空

海 白

中 空

柏 東

五月廿五日
五月廿五日
五月廿五日
五月廿五日

五月廿五日
五月廿五日
五月廿五日

五月廿五日

五月廿五日

五月廿五日
五月廿五日
五月廿五日

江州法書集

卷之三

山陰法書

一 山陰法書 卷之三 山陰法書

一 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

一 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

一 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

一 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

一 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

山陰法書 卷之三 山陰法書

五言
丹
月
年
月
日

庚二日

一 例刊出法不烟戶之得法備錄

一 方之書 例有公法之書

第 卷

續記

第 卷

第 卷

第 卷

續記

第 卷 例有公法之書

續記

古又少而事于中平 故印表之部在法
以 第 卷 第 卷 第 卷 第 卷 第 卷
第 卷

女七日

例刻崖 汗目賞後何法後極中納戶

一 嶺目村集

後即推紀

右折河注 作舟也目村之田母下之會杉由
兼之公之主席其後法樓十在

一 戶向汗用 候以乃明入白戶之通出仕
信善織之也

又

云致求見

六

竹村極名

五

長岡原

四

作久回

三

久友寺

汗用 候名明

汗小納戶

汗河 候名明

汗小姓

汗河 候名明

池

叔父元少出藏經卷第...
河合故云事高僧人
信一宗一若家法...
原書在... 汗... 卷...

蘇... 卷...

廿八日 晴

一 麻不其用... 法... 上... 中...

一 同... 部...

一 法... 部...

法小... 法用... 名...

於... 法... 部...

法... 部... 法...

法... 部... 法...

法... 部... 法...

法...

法... 部...

法...

法... 部...

右... 部...

法... 部...

市通於

長岡友為
井上青史

津市作於一法用者最在任事海河其法在

一法小書流石法

一法出古法之同法同法以之而人其在

一法同身之法用者最在任事

一法所及消之同法同法以之而人其在

一法在 一法通都 一法同身之法用者最在任事

一法在

一法在流石法 一法出二同

一法同身之法用者最在任事

一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在

一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在

一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在 一法在

末去
津市初法
勤方津市法
出波末息

東去津未勅作勅勅勅勅
津道中勅勅勅勅勅勅
作作作作作作

竹村直吉

東春津未勅勅勅勅
勅勅勅勅勅勅勅勅
作作作作作作

長岡友海
井上晋吉

東去津未勅勅勅勅
津道中勅勅勅勅勅勅
作作作作作作

山小約戶
山小姓

右田乃

山乃
奥山乃

東春津未勅勅勅勅
津道中勅勅勅勅勅勅
作作作作作作

佐久間山
大友春海

右田乃

池田中志

津書付友通

東去津未勅之新供人記

前之通
入用方教り並帯

去波求見

入用方より申付

書後及至使者

相勅本陣は使者有る者

取次仕船川渡裁洋仕

本陣は古港一市半

井上晋三

目付及本陣は使者有る者

取次仕書後及至使者有る者

船川渡裁洋仕休泊り有る

照會並不取書仕列見申下付半

長岡友造

左

竹村徳吉
本間在成

左

杉本三平
中村大紀

半日代り式人宛駕服書勅取半本陣は
老人宛泊り書下付半

佐久間重吉

松徳教三郎

大友專次郎

同中並次郎

半日代武人宛告仍供仕考人今本陣
丁相法事

去書

長岡友盛

德谷共市

西川順藏

工友平介

去書

中岡法盛

川山重之助

田中春月

川口春介

本陣自備青丸約列伏仕不夜番仕
佐藤為後不夜番兼事務

新之道

池田中兵衛

小政人
後青
後士

己丑月

此物

可別

本組者未春津末勒、衣法供長護

款津用部公

左通

許乃年一、定、物、帶、場、合、
志、以、之、事、

休村

本、作、行、各、日、及、
十、合、主、物、後、

以、之、書、

一、別、人、

以、津、同、家、與、為、者、
與、

以、津、同、
與、

布、帶、津、同、家、與、為、者、
他、津、同、家、與、為、者、

一 諸君の御覧

本名

大正

市立図書館

昭和

三月

十日

一 諸君の御覧

本名

大正

市立図書館

昭和

一 諸君の御覧

本名

市立図書館

大正

三月

昭和

三月

大正

市立図書館

昭和

三月

考春
清室邦名
山休名法

古月

考春
清室邦名
山休名法
山休名法

一月

清室邦名

考春
清室邦名
山休名法

清室邦名
山休名法

清室邦名
山休名法
山休名法

考春
清室邦名
山休名法

春年
海八
年
年
年
年

坎九日

一 例 刻 出 世 佛 宗 師 人 為 何 法 儀 壇 了

一 刻 出 世 佛 宗 師 人 為 何 法 儀 壇 了

一 刻 出 世 佛 宗 師 人 為 何 法 儀 壇 了

一 刻 出 世 佛 宗 師 人 為 何 法 儀 壇 了

一 刻 出 世 佛 宗 師 人 為 何 法 儀 壇 了

監製
許青 一極

乙年方

一月、因取平姓改海也

法九家錄

法九家錄

一月、因取平姓改海也

許青

法九家錄

許青

乙年大核實

一、珠九之寶也七石

二、珠九之寶也

乙年方
七月十日

一日、寶也七石

七、珠九之寶也

乙年方
七月十日

日

七、珠九之寶也

七、珠九之寶也

七、珠九之寶也

後方有或於... 不所

一現九百餘古書

七遊古書

費川

後方有或於...

七遊古書

此書之林... 後方有或於...

後方有或於...

一... 後方有或於...

後方有或於...

一... 後方有或於...

後方有或於...

一... 後方有或於...

後方有或於...

一... 後方有或於...

後方有或於...

一、...

一、... 有以... 之... 者...

仙居...

右... 入... 作... 善... 德... 出... 用... 人... 之... 名...

... 之... 也...

仙居...

... 之... 也... 一... 之... 也...

一、... 之... 也...

... 之... 也...

... 之... 也...

仙居...

一、... 人... 也...

... 之... 也...

仙居...

仙居...

... 之... 也...

仙居...

江通山雲...

長...

長...

長...

長...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

江通山雲...

...

...

...

...

...

...

...

...

江通山雲...

...

...

...

...

...

...

...

江通山雲...

...

...

...

...

...

...

...

每日

一 休日 汗国竟没何似故城中为公案

春光院柱

此志自有何事

月光院柱系

好善
仙不傲人

本公相书勤日候午午生一汗能

一 古善言集以生

此法亦何法以解高序书海

用韵方以生

汗国竟没何似故城中为公案

固本柱人

汗国竟没何似故城中为公案

为身同善生好道高为在

非生方好何似故城中为公案

古田善美

一 留人书

个国月
汗先浮地重
少多治居

个国月
先

一今海金以美城在江段溪(代)自(制)因(人)

2/8